

# JFA news



特集

## 楽しいからこそ、 伸びる

城和憲 JFAユース育成ディレクター

育成年代の指導者に聞く

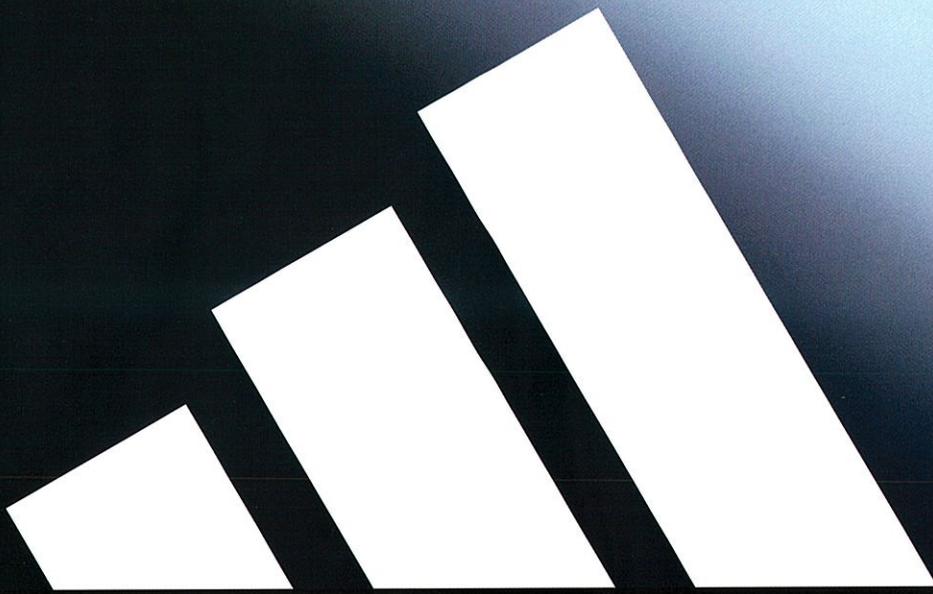
平野直樹 履正社高校サッカー部監督

鈴木康仁 FC豊橋リトルJセレソン代表・監督

ニルス・ニールセン

なでしこジャパン監督に聞く

6 NO.494  
2025.  
月情報号



アディダス 最新スパイクはこちらをチェック



特集

## 楽しいからこそ、 伸びる



© 2025 FIFA



© 2025 AFC



※本誌の記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。  
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真は  
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、  
©F.LEAGUE、©Walnix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

## CONTENTS

- 004 **城和憲** JFAユース育成ダイレクター
- 007 **育成年代の指導者に聞く**  
平野直樹 履正社高校サッカー部監督  
鈴木康仁 FC豊橋リトルJセレソン代表・監督
- 012 **ニルス・ニールセン**  
なでしこジャパン監督に聞く

### 日本代表

- 064 **ビーチサッカー日本代表**  
FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025 大会レポート  
田畑輝樹監督インタビュー
- 068 **フットサル日本女子代表**  
AFC女子フットサルアジアカップ中国2025 大会レポート  
須賀雄大監督インタビュー

### 大会・試合

- 018 AFCチャンピオンズリーグエリート2024/25、AFCチャンピオンズリーグ2 2024/25
- 061 天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会開幕
- 062 2024-25 SOMPO WEリーグ
- 072 JFA 第19回全日本O-70サッカー大会
- 073 JFA 第25回全日本O-60サッカー大会

### REPORT

- 074 **ウォーキングフットボール**  
「ウォーキングひろば」を全国へと広げていく

### 連載

- 020 隔月連載 **メディカルROOM**  
「基本の食事と補食の重要性」
- 021 隔月連載 **サッカー心育論**  
**中山雅雄**  
「サッカーの上達を支える不易流行」
- 022 隔月連載 **No Football, No Life**  
**加藤遼也**  
「サッカーには課題を乗り越えていく力がある」
- 024 短期連載 **第14回JFAフットボールカンファレンス**  
「第5回:子どもからチャンピオンへ」
- 025 **いつも心にリスペクト**  
**大住良之**  
「相手GKに走り寄ったGK」
- 017 JFA情報発信局
- 026 月刊レポート
- 038 蹴球通信
- 043 会議レポート
- 047 データボックス
- 060 サッカーファミリー広場
- 076 次号予告

### JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

### JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。  
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。  
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

### JFAのバリュー

**エンジョイ**◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること  
**プレーヤーズファースト**◎選手にとっての最善を考えること  
**フェア**◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと  
**チャレンジ**◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること  
**リスペクト**◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

### 【お詫びと訂正】

本誌前号 2025 年 5 月情報号 (No.493) 表紙の一部タイトルに下記の誤りがございました。読者および関係者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

(正)選手に聞く  
(誤)サッカー指導者に聞く



|||  
dunhill

特集 **楽しい**からこそ、  
伸びる

# 選手が夢中になる理由は、 そこにある

新学期が始まって約3カ月、初めてサッカーに触れ、その面白さに夢中になっている子どもや  
大会出場を目指して意欲的にトレーニングに励んでいる選手も多いことだろう。

「サッカーが楽しい」「サッカーが好き」という思いが選手の内発的動機を高め、さらなる成長へと導く。

では、選手の成長に大きく関わる指導者は、指導する上で何を大切にすべきなのだろうか。

今回の特集では、日本サッカー協会（JFA）の選手育成を統括する城和憲JFAユース育成ダイレクターのほか、  
育成年代の指導に携わっている2人の指導者、そして、なでしこジャパン（日本女子代表）のニルス・ニールセン監督に  
インタビューを実施。

指導者として大切にしていることや選手たちへの思いを聞いた。



特集・楽しいからこそ、伸びる

# 選手の成長を 指導者としての 喜びに

サッカーが好きな選手を多く育てていくことが、日本サッカーの成長につながる。そこで重要な役割を担うのが、全国で活動している指導者たちだ。サッカーの楽しさを見失わないために指導者が大切にすべきマインドは何か。日本サッカー協会（JFA）の城和憲ユース育成ディレクターに自身の経験を踏まえて語ってもらった。

○取材日：2025年5月19日



## 城和憲 JFAユース育成ディレクター

楽しさこそスポーツの原点  
その気持ちが選手を育てる

——サッカーの楽しさとサッカー選手としての成長には、深いつながりがあると考えますでしょうか。

城 間違いなくあります。選手はもちろん、関わる全ての人たちが楽しんでやるのがスポーツであり、サッカーなのだと思います。「楽しい」という気持ちは根本にあるものですし、成長していく中でその気持ちを大切にしていかなければなりません。

——城さんは選手時代、サッカーのどんなところに魅力を感じていらしたのですか。

城 僕はもうシンプルにボールを蹴ることが楽しかったですね。攻撃的なポジションをやらせてもらっていたので自分でゴールを決めたときの喜びはひとしおでした。でも、やっぱり仲間とボールを蹴ることが一番楽しかったかな。小学生のとき、近所の友人と学校に行きながらずっとワントゥでボールを蹴っていて、よく川にボールを落としましたよ（笑）。それくらいボールを蹴ることそのものに夢中になっていましたね。

——鹿児島実業高校でプレーさ

れ、その後も社会人チームのヴォルカ鹿児島（鹿児島ユナイテッドFCの前身）、ホンダロックSC（現、ミネベアアミツミFC）でサッカーを続けてこられました。成長する過程でサッカーの面白味というものは変わっていくものでしょうか。

城 サッカーに熱中していた子ども時代から、徐々に勝利に対する思いが強くなっていき、先発メンバーに選ばれたり、選手として評価されたりして新しい喜びができました。あとは応援してくれる人や支えてくれる人など、周りの人たちに喜んでもらうことも自分のモチベーションになっていったと思います。ただ、強豪と言われるようになっていくわけですが当たり前になっていくわけではなく、いつしか勝利することが使命になってサッカーの楽しさを見失った時期もありました。

——サッカーをするのがつらかったと。

城 サッカーの練習は毎日やってきます。本来、楽しいはずの練習がその時期は行くのがつらかったですね。自分が好きだからやるというより、やらされている感が強くなっていたんだと思います。それでも、結局は仲間がいたから乗り越えられたところ



「やっぱりサッカーは楽しいもの」(城ダイレクター)。どの年代、どのカテゴリー、どの立場においても、サッカーが楽しいという気持ちは大切にしたい

はありますし、根底に「サッカーが好き」という思いがあったので続けられた。サッカーが嫌いになつていたら、やめていたはずですから。

——選手から指導者というお立場になり、あらためて思われるところはありますか。

城 指導者になつてからは、やはり選手はサッカーに熱中しているときに一番上達するんだな、と思います。僕自身、サッカーの楽

しさを見失う時期があったからこそ、サッカーの面白さを指導者として伝えていかなければならない、と。指導の在り方は、指導者もつとつと考えていく必要があります。

——育成年代は特に、指導者の存在が大きく影響します。城さん指導の在り方を模索してこられたのでしょうか。

城 指導者になつた当初は、僕も選手に対してこれを教えないとい

けない、こう鍛えないといけない、という強い思いがありました。今となつては、それは僕の思い上がりで、一番に考えるべきは、うまくなりたいと頑張っている選手をどうサポートしてあげられるかに尽きると思っています。先ほども言った通り、大事なものはサッカーを楽しむことです。選手はみんなうまくなりたくてサッカーをしている。

選手の思いに寄り添つてどれだけサポートしてあげられるか。「僕が」ではなく、「選手が」を全ての中心に置いて、選手目線で考えるというマインドに変わりました。

**失敗も含めて認めること  
選手が中心にいる指導を**

——マインドが切り替わるきっかけがあったのですか。

城 JFAに所属して7年目に

なりますが、多くの指導者の方と話して、いろいろな指導の在り方や考え方に触れたことが大きいですね。僕自身、指導を勉強してきましたという自負はありますが、その中で自分の視野の狭さに気付くことができた。これまで出会った指導者の皆さんの影響は非常に大きいです。

——視野が広がると選手の小さな変化や成長にも気づくことができ、指導者としての喜びや余裕にもつながりそうです。

城 選手たちの成長の先に、指導者としてのやりがいが見えてくると思っていますね。僕は評価されるために指導をしているわけではありません。選手たちのサッカー人生の一部を預かっている立場として、彼らが次のステ

ジでどう活躍できるかを考え、選手にとってベストなことは何かを常に考えながら寄り添い続ける。選手らと共に目標に向かうこと、彼らと一緒にサッカーを楽しむ、その成長を見守れることは指導者冥利(まがひ)に尽きるところだと思います。

——年代に応じて伝え方や接し方も変わるかと思えます。城さんが意識されていることはありますか。

城 サッカーの楽しさを伝えるという指導の根本は変わりません。ただ、下の年代になるほど最初に教える必要はない必要最低限のことはあると思つています。サッカーの基本はもちろんですが、例えば、サッカーのルールや仲間を大切にすること、諦めないことなどもそうです。サッカー選手としての成長は人間としての成長でもありますから、ピッチ内外にかかわらず、やっていいこととやってほしくないこととを区別ができるようになってほしい。教える必要ならぬことをちゃんと教えた上で、選手に判断を託す部分を徐々につくっていく。中学生や高校生になつたら子ども扱いをせず、一人の選手として接するというのも意識しています。

——選手の意思や考えを尊重する

城 子どもや選手たちも彼ら自身でいろいろ考えていますからね。僕は選手としっかり会話することを大事にしています。指導者としては教え過ぎるのも良くないですが、教えなさ過ぎるのもよくありません。彼らに判断を任せつつも、その後に良かったことや改善すべき点などを伝えることが大切です。彼らの考えを聞いて、こちらの考えも伝える。育成年代ではそうしたコミュニケーションが必要になると思います。

——では、指導で「褒める」ことは選手にどういった効果があると思われませんか。

城 選手にとって褒められることは、認めてもらうことだと思つていますね。サッカーは自分で判断して実行するスポーツですから、自分のプレーが認められたらやっぱりうれしい。それがサッカーをする楽しさにつながっていくと思つています。

——認めてもらうことで選手のモチベーションが上がります。

城 一つできるようなると、次のトライにつながります。選手が自身で考えて行動したことに

選手に成長するきっかけを与えることも指導者の役割。試合やトレーニングで得られる多くの気づきが成長につながっていく(写真は2024年12月FIFA×JFA ストライカー&ゴールキーパーキャンプ)



るか、選手たちの夢をサポートするというマインドを大切にしたいですね。

**指導者もトライすることで選手と共に成長できる**

——試合では勝者と敗者が生まれまゝです。試合との向き合い方についてお聞かせください。

**城** 選手はもちろん試合に勝ちたい。その思いは尊重しながらも、育成年代の指導者には選手の成長を第一に考えてもらいたいと思います。選手が上達すれば、自然と試合に勝つ確率も高くなりますから

対しては失敗も含めて認めてあげることが大切で、失敗して頭ごなしに怒られると選手は挑戦しなくなってしまう。失敗を指摘するより、選手の自主性を尊重しながら、うまくいかなければ「こうしたらうまくいくんじゃないか」とアドバイスする。そうすると、選手もどうしたらうまくいくのかを自分で考えるようになります。

選手は「サッカーがうまくなりたい」「プロになりたい」「日本代表選手になりたい」といった夢をそれぞれに持っています。自分が指導に携わっている間にどれだけその夢に近づけてあげられ

今年の第14回フットボールカンファレンスでも話しましたが、JFA全日本U-12サッカー選手権大会では(大会に登録した)約20%の選手が試合に出られていないんですね。全国大会をベンチで過ごして終わってしまう。では、U-12年代の選手たちにとって本当に大事なことは何か。

やっぱみんながサッカーをプレーして楽しんで、みんなが成長することだと思っんです。メンバーを固定して強化すれば、試合には勝てるかもしれない。でも、それは本当に選手のためになっているのか。選手の未来を大きく捉えて、一人一人の可能性を当てていく必要があるのかなと思います。

——選手がいろいろな刺激を受けて成長できる場をつくるのが大事ですね。

**城** とても大事です。日常のゲーム環境は全国的に整備されてきましたが、トレセンなどの非日常の環境に身を置くことも選手にとっては成長するきっかけになります。天井効果を取り払って選手同士で刺激してレベルアップしていく、というのがトレセンの狙いです。そのトレセンも、2年前からはサイドの選手、中盤の選手、センターバックの選手というようにポジション別のトレーニングを取り入れています。選手は、そこで所属チームでは得られない刺激を受けて、自分の長所や足りない部分に気付きます。今は、自分でストライカーキャンプをしている都道府県サッカー協会もあるんですよ。そうした好事例が全国に広がっていくよ

うに、JFAとしても情報を発信していけたらと考えています。

——指導者にとっては、指導者養成講習会やリフレッシュ研修会が、指導の醍醐味や面白さを再認識する場になるのではないのでしょうか。

**城** そうなるように講習会でも対話を大切にしています。一人でチームの練習を担っている指導者も多くいますが、指導者は孤独です。自分の指導が良いのか悪いのか、悩んでしまうこともある。講習会には各地の指導者が集まってきました。「そういう考え方もあるのか」「そういう練習方法もあるんだ」といった学びを得られますし、「いろいろな人から意見をもらえて悩みが晴れた」と言う人もいますし、非日常で学べることを有意義だと考えている人もいます。悩みのない指導者はいませんが、僕らも皆さんがどんどんトライできるような学びの場を提供していきたい。指導することを楽しんでもらえるようにサポートしていきたいと思っています。

——全国の指導者の皆さんへメッセージをお願いします。

**城** 指導するって本当に難しいと思います。でも、その難しさを

含めて、サッカーを楽しんでもらいたいですね。育成年代に携わっている指導者の皆さんは選手の未来を預かっている立場ですが、選手と過ごせる時間は限られています。目の前の選手たちがサッカーを楽しんでいる姿、成長していく姿に喜びを感じてもらい、選手たちに寄り添いながら指導者自身も選手と成長することを生きがいにしてほしい。選手もいっぱいトライして、いっぱい失敗して学びます。指導者も失敗から学ぶことが多くあります。どんどんトライして、失敗したら反省してまた次に向かう、選手も指導者もその繰り返しです。選手にサッカーを教えるために指導者は学び続けなければなりません。皆さん、一緒に学び続けていきましょう。そして、一緒にサッカーを楽しみましょう。



「サッカーの全てを中心に選手を置くようにしている。選手のために何が求められるのか、選手が何を求めているのか、指導に必要なのは、追い求め続けるしかない」と城ダイレクターは話す

# 選手も指導者も、 共にサッカーを楽しむ仲間

全国高校サッカー選手権大会に過去4回出場し、現在は高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ関西1部に所属する履正社高校サッカー部。各カテゴリー日本代表やJリーグで活躍する出身選手は多い。2003年からチームを指揮する平野直樹監督に、指導で大切にしていることや言語技術の取り組みなどについてインタビューした。○オンライン取材日：2025年5月12日

信頼できる指導者かどうか  
私たちも評価されている

——履正社高校サッカー部の練習  
を見ていると選手を褒める声掛け  
が多いと感じます。

平野 プレーではもちろん厳しい  
ことを要求しますが、どんな言葉  
を選手に投げかけるかは常に意識  
しています。できているか、でき  
ていないかは二の次で、まずはトラ  
イする姿勢に対して「良いぞ」と  
声を掛け、プレーが成功したり、う  
まくいったりしたら「ブラボー！」  
と明るく最上級の言葉を掛ける。  
仲間をサポートするプレーや声な  
どに対しても「いいよ、そういうの  
が助かるんだよ」と。ポジティブ  
な声掛けによって、練習もチーム  
全体の雰囲気も自然と良くなって  
いきます。

——選手を認めるというイメージ

でしょうか。

平野 選手の行動を認めるとい  
う感じかな。言葉は一つのきつ  
けでしかなく、選手が「よし、も  
つとやってみよう」という気持ちに  
なって次もトライできることが大  
事。それが成長につながってい  
ます。認められた選手は継続しよ  
うとしますし、周りの選手も「あ  
のプレーは良いプレーなんだ」と  
気づき、選手間でも「ナイス！」と  
かるよ」といった声が出てくるよ  
うになります。

——声掛け一つで大きく変わるの  
ですね。

平野 私たちも信頼できる指導  
者かどうかを選手に評価される立  
場で、選手の意図や行動に気付い  
てポジティブな声掛けをすること  
で指導者も選手から認められるよ  
うになると思っています。

育成年代  
の指導者  
に聞く

**平野直樹** 監督  
(履正社高校サッカー部)





選手にはそれぞれ得意、不得意がある。「できないことがあっても、「一緒にやろうぜ」と助け合った方が君たちは成長できるんじゃないかと伝えている。私たちの成果はチームでの勝利であって、個人の勝利ではない」と平野監督



選手と一緒に戦うタイプという平野監督。「試合でもポジティブな声掛けをした方が良くなるし、選手もそっちの方が絶対にうれしい」と言う

——試合の声掛けで意識されていることはありますか。

**平野** 試合でもポジティブな声掛けをしようという考えは変わりません。良いプレーに対しては、見ている人が拍手したり、歓声が上がったりするので、私はそうではない部分、例えば守備のポジショニングや体を張ったプレー、ミスした選手への声掛けなどを「今のは良いプレーだったぞ」「良い声掛けだったぞ」と褒めるケースが多いと思います。選手がミスしたとき、監督の私が「切り替えよう」と前向きな言葉で伝えてもかえって深刻に受け止め

られたりする場合があるので、ベンチにいる選手たちに「みんなから言ってあげてほしい」と伝え、一緒に戦う雰囲気をつくる。次に良いプレーができたとき、「良いぞ」と声を掛けると(ミスした)選手に笑顔が戻ってきます。

試合はピッチに立てる選手が11人と決まっていますが、ピッチに立っていない選手やマネージャーも、みんながチームの勝利のためにベストを尽くしてくれていますので、チームのためにドリンクや補食など準備してくれていることに「サンキュー」と伝えます。

——それがチームとして戦う姿勢につながっていくのですか。起用法でも選手の意識は変わりそうです。

**平野** 交代選手には「君はこういうプレーがいいから、今からピッ

チで發揮してほしい。頼んだぞ」と具体的に伝えて送り出します。実際にうまくいかなかったら、実行しようとしていれば「そっだ、いいぞ！」と声を掛ける。試合に出られない、交代させられて悔しがる選手もいますが、逆にそこで悔しがるようであればなりません。そうした選手には、ここは良かったけどここが少し足りなかったから次に向けてまた努力しようといった話をします。

——具体的に伝えると？

**平野** うまくいかないときには何となくで終わらせず、指導者自身も原因を把握して言葉にできないければなりません。選手にもロジカルに考えられるようになってほしいと思っています。うまくいったときも同じです。そのために「予測してもう一步早く動いていたら防げた」「奪われた後の切り替えが良かった」など具体的にフィードバックします。「なぜなら」と具体的に考えられるようになると選手は成長していきます。

——そうした指導法で影響を受けた指導者はいますか。

**平野** 四日市中央工業高校時代の恩師、城雄士先生ですね。城先生は前向きな気持ちにさせてくれる指導者でした。戦術的なことよりも「〇〇君はもっとこんなこと

ができるのになあ」といつも呟かれています。手を上げる指導者も少なくなかった時代、そんなことも決してしなかった。城先生の指導のおかげで四中工はサッカーが好きな、そして自立した選手が多く、その多くが今、指導者となって活動しています。

言語技術を身に付ければ選手は自ら成長していく

——履正社中学・高校では、2023年度から言語技術の授業を開始しました。先ほどの「なぜなら」という言葉も、言語技術につながります。

**平野** 言語技術はJFAアカデミーでも取り入れられていますし、私も日本サッカー協会(JFA)の指導者養成講習会で学びました。当時から指導者にとっても選手にとっても、とても大切なものだと思っていました。高校の広報企画局長が、つくば言語技術教育研究所の三森ゆりか先生と知り合ったことを機に、学校では同所の監修の下で言語技術教育を行っています。24年度からはサッカー部やラグビー部、野球部をはじめとした強化クラブの生徒も週1回授業を受けています。大人が先回りして答えを与えてしまいうことが多く、生徒たちの論理的思考と言語化する力を養って

いる。それは将来、社会に出たときにも役立ちます。

——取り組みの成果をどうご覧になっていますか。

**平野** 選手は「なぜなら」を自身で考え、言葉にして伝えられるようになりました。例えば練習前の円陣では、各学年一人ずつ前に出て「今日は積極的にシュートを打っていいこう」など練習での目標を発言するようにしていて、練習後はそれに対してどうだったかを振り返ります。言語技術に取り組んでからは「今日は積極的にシュートを打っていいこう」と言いました。でもできませんでした。なぜなら……と、その原因がゴールを見ることができていなかったからなのか、コントロールが悪かったからなのか、個々に発言できるようになりました。

——練習の取り組み方にも変化がありますか。

**平野** よく「神は細部に宿る」と言いますが、その細部とは「なぜなら」の部分ではないでしょうか。うまくいったことにも、うまくなかったことにも理由や原因があります。全てが白か黒かではなく、白になりかけたけどグレーの部分が残っているだけかもしれない。細部にこだわる習慣は、思考力や分析力、判断力を養うことに



「結果だけの評価ではなく、取り組みに対する評価も大事。それに気づいて声を掛けることも、指導者として大切なことだと思う」と話す  
平野監督

も結び付いてくる。言語技術が身に付けば「〇〇を改善すればできるようになる」と自分を卑下することなく自ら考えて取り組めるようにもなります。

——それができると選手たちも前向きに頑張れますね。

**平野** 選手には天秤の話をよくするんです。天秤は50対50で釣り合っている。49対51になった瞬間にゆっくり片方に傾くと。心も同じ。「1」の傾きで変わります。ですから、私たちがポジティブな声を掛けて良い方に傾けてあげる。わずか「1」の差なのでまたすぐに片寄ることもあります。選手自身が「ここは良いけど、ここは足りない」と気付けるようになれば自分でバランスを取って自分で成

長していける。良い習慣さえ身に付けば、指導者の仕事はそこではほとんど終わるかもしれません。

——勝敗がつきものの試合でも気づきが増えそうです。

**平野** その試合から経験として何を得たかを考えます。最近では選手に「相手は2列目の飛び出しが良かったから、うちのチームでもやってみよう」「相手のセットプレーは良かったね」など、対戦チームの良い部分をもっと伝えておいて伝えています。勝った方が優れているわけでも、負けたチームが劣っているわけでもない。相手から学ばせてもらうことは、たくさんありますからね。

——指導者の姿勢は、選手に少なからず影響を与えます。

**平野** 私たちは高校選手権で優勝したいし、(高円宮杯JFA U-18)プレミアリーグにも上がりたい。プロサッカー選手になりたい選手も多々います。そのために今は良いものを

どんどん取り入れていきます。私たちを成長させてくれる材料はいろいろなところにあつて、「なぜ彼らはうまくいっているのだろう」という視点を持てば、他チームの試合を見るのも楽しくなります。成功・失敗ではなく、そこに至る過程を考える。言語技術は今後もっと力を入れていきたい部分です。

**意見をぶつけ合う関係性**  
それも楽しさと成長に

——サムライブルー(日本代表)の町野修斗選手を筆頭に履正社高校からは多くのプロサッカー選手が育ってきています。彼らもそうした習慣があつたのでしょうか。

**平野** 目標を持ち、それを達成したいという気持ちの強い選手が多かつたように思います。サッカーが好きだから目標を達成するため方法を生懸命に考える。一生懸命だから意見がぶつかることもある。でも、そういうときも「君の言っていることも分かるけど、意見をぶつけているだけじゃ始まらない。だからこうしないか」と、状況をくみ取って間に入る選手もいました。

——自身の考えがあるからこそ、ぶつかり合つと。

**平野** 良いものをつくるためには意見の対立があつて当たり前で、

そこでぶつからない方が良くないと思つています。そして、どちらかの意見が正解というわけでもありません。全肯定、全否定ではなく、「ここは良いけど、ここはこう思う」と話し合える関係性は、互いに本気だから生まれるもの。勝つ喜びだけではなく、話し合つて築き上げた結果としてうまくいったときの達成感や充実感も、スポーツの楽しさではないでしょうか。

——今年から履正社サッカーアカデミーを立ち上げ、小学生年代からの選手育成と女子を対象としたスクールもスタートされました。

**平野** 個性豊かな選手を育てていきたいと考えています。女子のスクールに関しては、以前から女子がサッカーをする環境が少なくないと思つていました。マネジャーをしてくれている女子生徒もサッカー経験者なのですが、サッカーをする場所がなくてマネジャーになつた経緯があるんです。履正社高校サッカー部は日本一を目指しますが、そのためにはサッカーを始めるといけないといけません。そして、サッカーがやりたいのにできないことが最も残念なことです。サッカーの楽しさを伝え、そこから仲間と出会う楽しさ、協力することの喜び、試合の楽しさに発展し、たくさん笑顔を増やしてい

きたいと思つています。

——指導者として、選手たちへの思いをお聞かせいただけますか。

**平野** 若い子たちにはもっと探求心を持って、サッカーの楽しさに気付いてもらいたいですね。勝つのはそんなに簡単ではないので、みんなで力を合わせてほしい。そして私は、監督という責任ある立場ではあります。根本的に、選手たちは同じサッカー仲間だと思つています。サッカーが好きなの同士、一生懸命にサッカーをしている仲間。だから私にとって一番うれしいのは、選手がサッカーをより好きになって、選手でも指導者でも別の形でもずっとサッカーに関わってくれることです。

今は、日本代表がFIFAワールドカップに出るのが当たり前の時代になりました。私たちの経験値だけを伝えては、選手はその道しか歩けません。私たちを超える選手や指導者が出てくることで、日本のサッカーはさらに良くなつていくでしょう。選手の可能性を信じて教え過ぎないことも大事だと思つています。われわれ指導者の仕事は、好きなサッカーをもっと好きになつてもらふこと。「やりすぎだぞ。たまには遊んでこい」と言えるくらい、サッカーが好きな子どもたちを増やしていきたいですね。

# 子どもたちが成長した先で ちゃんと花が咲くように



育成年代  
の指導者  
に聞く

## 鈴木康仁 代表・監督 (FC豊橋リトルJセレソン)

プロ選手を輩出するより  
一生サッカーを続ける選手を

——チームの指導方針を教えてください。

**鈴木** コンセプトとして掲げる「楽しく、上手く、強く」の通りで、サッカーは楽しいものだということをしっかりと伝えながら、うまくなって、最後は強くなってもらいたいという思いで指導に当たっています。

——小学生年代でもそれは段階的に変わっていくものですか。

**鈴木** チームには、幼稚園の年中から小学6年生までいて、低学年では勝負にこだわらず、仲間と楽しくサッカーをやってほしい。どんなサッカーにのめり込み、またやりたいと思ってもらえるように意識しています。中学年になればボールを扱う技術を大切に、高学年で少しずつ勝負にこだわっていく。やはりこの年になると、楽しくとも負

「楽しく、上手く、強く」を掲げるFC豊橋リトルJセレソン。チーム誕生当初から「褒めて伸ばす」をモットーに小学生年代の指導にあたった鈴木康仁代表・監督に、子どもたちへの接し方や言葉の掛け方など、大切にしているポイントを聞いた。

○オンライン取材日：2025年5月13日

ければ悔しいという感情が芽生えてきます。だから「もつともまくなつて強くなろう」と伝えていきます。

——チームの中には、上を目指したい選手と、楽しんでプレーしたい選手の両方がいると思います。

**鈴木** 選手の力量によって伝え方や指導法は変えています。同じメニューに取り組みつつも、求めることを変えるというイメージです。ただ、学年別のチームとして活動する中で、以前は、いわゆる「飛び級」をやっていました。今はやっています。特別扱いされた子どもが調子に乗って「でんぐ」になつてしまうかもしれませんし、親御さんが同じようになるのも避けたいので。

——プレーする仲間を大事にしてほしいという思いですか。

**鈴木** サッカーをはじめとするチームスポーツは、仲間がいないとできません。仲間と勝って喜ん

で、負けて悔しがるのがチームスポーツの大きな魅力だと思います。子どもたちには「仲間を大切にできない試合には出さない」と常々言っています。クラブの年始の初戦には、毎年、卒業生も集まるのですが、そこでも「仲間を大事にしながら、みんなで楽しくサッカーをやるよ」と伝えていきます。

——親御さんとのコミュニケーションが難しいと感じられることはありませんか。

**鈴木** 当然あります。正直、子どもがサッカーをやっているのではなく、親御さんがやっているのではないかと思うほど、勝利への思いが強くと、子どもにそれを無理強いしてしまうケースもあります。楽しさよりも勝利を優先するのは私たちの指導方針ではありません。親御さんにもチームの一員になっていただきたいですし、私たちと同じ「イズム」を持っていたかかなければ選手たちは育っていかない



「楽しく、上手く、強く」と段階を踏んで指導している鈴木代表・監督。「一生サッカーを好きでいられるようにしたい」と思いを語る

と思っています。

——サッカーが楽しくなくなつてやめてしまうようなことは避けたいですね。

**鈴木** サッカーを好きになつてほしいというのが大前提としてありますからね。「プロ選手を輩出したい」とは思つておらず、卒業後はどんな場所やレベルでも、一生サッカーを続けてほしいというのが一番の願いです。「うまくなくても、最後まで頑張り続ける」というテーマも持つて指導していますから、これまでもこの先も変わらず、そこは曲げずにやっていきます。

**褒めて伸ばす  
駄目なことはしつかり叱る**

——クラブの卒業生には、三浦弦太選手（ガンバ大阪）や白井康介選手（FC東京）らがいます。二人は同期ですね。

**鈴木** 弦太は、そんなにサッカーがうまいわけではなかったんですが、自然と人が集まってくる「番長」のような存在でした。康介は、今もスピードを武器に活躍している通り、当時からスーパースターで、非常に負けず嫌いな性格でした。

——三浦選手が、ここでは「褒めて伸ばす指導」考えさせる指導

だったと、あるインタビューで語っていたことがあります。

**鈴木** FC豊橋リトルJセレソンの中学生チームであるFC豊橋デューミランの木村豊代表は、褒めちぎるほど褒めて伸ばす指導者で、私たちの指導方針もその影響を強く受けています。それと同時に、「答えを出さない」とも私は大事にしています。指導者が答えを与え、「こうしなさい」という指導では、言われたことしかできず、自分で考えることができない選手になってしまいます。自分で見て、感じて、何をすればいいかを考えて実行できる選手になつてほしいという思いがあります。

——子どもたちもお互いを褒め合うようなことはありますか。  
**鈴木** 指導者が継続して伝えてくる影響か、そういう雰囲気はありますね。私たちが言うよりも前に、子どもたちが「けなすようなことを言っちゃダメだよ」とチーム内で話している姿を見て、すごくうれしく感じます。

——指導の中で叱ることはありますか。

**鈴木** もちろんあります。怠慢なプレーだったり、サボったりするよくなことがあれば、そこはきちんと伝えるようにしています。人として間違っていることがあれば、

もしかしたら彼らの親御さんよりも厳しく言っているかもしれない。「褒めて伸ばす指導」は、「叱らない」とを意味するものではないと思います。

——プロになった2人も、当時そういうことはありましたか。

**鈴木** 康介が小学6年生のときのある試合で、怠慢なプレーがあつたので交代させて、叱つたことがあります。でもそこで、「なぜ交代させたか分かるか？」と聞いたら、彼はしつかり考えて、「守備をサボつたからです」と答えを出してくれましたね。

——言葉の使い方など選手たちと向き合うときは意識されていることはありますか。

**鈴木** 子ども目線です。絶対の上から目線にはならないように。「こうやりなさい」ではなく、「こうやったらいいかもね」というように、彼らと同じ目線で伝えるようにしています。

——まさに、長年積み上げてきた「鈴木

イズム」ですね。

**鈴木** 子どもたちが大人になったときに、どういう選手になっているかが大切だということです。強豪校だろうが、Jクラブだろうが、普通の高校だろうが、どこにいてもサッカーを楽しみながらそのチームで頑張れる、努力できる選手になつてほしい。成長した先でちゃんと花が咲くように、小学生年代の今はサッカーをとにかく好きになつてもらいながら、今できること、やらなければならぬことを教えるのが大切だと思っています。今後もしそういう思いを持って、選手に接していければと思います。



鈴木代表・監督は「人はどこで成長する時期が来るかは分からない。その時にしつかり花が咲くようにアプローチしていきたい」と話す



# 大切なのは、選手の話聞くこと



## ニルス・ニールセン なでしこジャパン監督に聞く

なでしこジャパン(日本女子代表)を率いるニルス・ニールセン監督。デンマーク出身の指揮官はおよそ20年間、育成年代の選手たちの指導に携わった。その経験が自身のキャリアにどんな影響をもたらしたのか話を聞いた。

〇オンライン取材日：2025年5月15日

### 「何ができるか」に着目し 選手の長所を伸ばしていく

じ、それが今につながっています。  
※当時、UEFAライセンスの受講には「25歳以上の年齢制限があった

——指導者を志したきっかけを教えてください。

——ご自身で、指導者に向いていると思われたのはどんなところですか。

**ニールセン** 子どもの頃からサッカーが大好きで、プロ選手を目指していました。しかし19歳のときに椎骨を折る大けがを負い、選手を続けることができなくなりました。そこでコーチになることを考え始めたんです。当時は年齢的にライセンスを取る条件を満たしていませんでしたが(※)、デンマークサッカー協会のサポートで指導者講習に参加でき、20歳で資格を取ることができました。

**ニールセン** 何よりも、「指導することが楽しい」と心から思えたことです。楽しんで取り組み、全てが自然と良い方向に進みますし、それが優れた指導者になることにつながると考えています。日本の選手たちとチームづくりをしていても、こうした考えは万国共通だと感じますね。そこに私の約35年の指導経験、特に国際的な視点を加えることで、さらに良いチームをつくれるのではないかと思っています。だから今もこの仕事をとても楽しんでいるわけです。

私は選手時代から周囲に指示を出しながらプレーすることが多く、どのチームでもキャプテンに指名されましたし、コーチのような役割を担うこともありました。実際に指導してみたら「自分に向いているかもしれない」と感じました。

——20歳でライセンスを取得され、長く育成年代を指導してこられたご経験は、ご自身のキャリアにどんなプラスをもたらしましたか。

**ニールセン** 育成年代の選手たちを指導する上で最も素晴らしいと感じることは、彼らが大きな夢を持っていることです。もちろん、全員がプロになれるわけはありませんが、その夢をどう育てるかがとても大切だと学びました。選手の「できないこと」ではなく「何ができるか」に着目して長所を伸ばしていく。そして、それが彼らの夢に向かう燃料になるようなアプローチを心がけてきました。そうすればサッカーをずっと続けてくれると思ったからです。

——その「聞く力」は、どのようにして身につけられたのですか。

**ニールセン** 選手時代から人の意見をしっかりと聞くようにしていました。分からないことがあれば必ず質問して理解するように心がけていたのです。特に女子チームを指導するとき、私は男性ですから、考え方の違いがあるものと認識した上で、彼女たちと接します。（指導対象が）若い世代の選手となると、さらに考え方やアプローチが異なります。だからこそ、分かったふりではなく、相手を理解しようとする姿勢が大事なんです。相手を知らうとするには謙虚でいなければなりません。謙虚さは日本人の美德であると感じています。

——優れた選手に共通する要素は何でしょうか。

**ニールセン** 才能はもちろん必要ですが、それだけではなく、「プロになりたい」「一流になりたい」と強く思いながら、心からサッカーを楽しんでいる選手が成長します。恐れを抱いていると良いパフォーマンスはできませんし、うまくいかないときに言い訳をする選手もなかなか成長できません。どうしたら目標を達成できるかを考え、努力のプロセスを楽しみながら自分自身の現在地と目標の距離を縮めていける選手がトップ・オブ・トップになるのではないかと思います。

——大学時代に生理学と心理学の学位を取得されていますが、スポーツ科学を学ばれたご経験は、サッカーの現場でどう生かされていますか。

**ニールセン** 知識や理論は、それをどう現場で応用するかが重要です。私が学んだ生理学やトレーニング理論は主に男性向けにつくられたものでしたので、女性のチームで同じように指導してもうまくいきませんでした。女性の体は単に男性よりも小さいだけではなく、構造そのものが全く異なるからです。そこから学び直し、女子チームに合ったアプローチを模索してきました。例えば、男子のデータが代表チームのものであった場合、それをいかに女子チームに適用して使うかを常に考えていました。何を学ぶにしても、理論がどんな前提で成り立ったかを理解した上で自分に取り入れることがポイントで、人間としても指導者としても学び続けなければなりません。

——ニールセン監督は、チームづくりにおいて個性を融合させることを大切にされていると思います。指導者としてのキャリアで、印象に残っている選手を教えてください。

**ニールセン** 印象に残っている選手は大勢いますが、一人挙げるとしたらデンマーク代表のベルニル・ハーダー選手でしょうか。努力とハードワークを惜しまない選手です。チームメイトと積極的にコミュニケーションを取るタイプではありましたが、彼女を代表のキャプテンに指名すると、チームメイトを鼓舞する素晴らしいリーダーシップを発揮してくれました。今では国内最高の選手とも言われています。日本では熊谷紗希選手ですね。選手としてもリーダーとしても模範的な行動を取っており、影響力があります。彼女について語り出したら、1時間はかかりませんよ（笑）。

——育成年代の選手のリーダーシップをどう育んでいらっしゃるのでしょうか。

**ニールセン** リーダーシップが備わっている選手もいますが、多くにチームの力として引き出すか。各選手が自分の持ち味を発揮し、それをチームとしてまとめることが非常に重要だと考えています。また、ピッチ内外で互いを理解し、認め合うことも大切です。ポジションに関係なく、それぞれが与えられた役割を全うすることが強いチームをつくる鍵だと思います。

——育成年代の選手はメンタル的に不安定な選手もいると思いますが、コミュニケーションで重視されたことは何でしょうか。

**ニールセン** 若い選手や女子選手の指導に長く携わってきましたが、難しいと感じたことはあまりありません。大切なのは、選手の話をしっかり聞くこと。そして分かったふりをしないこと。私は今53歳ですので、選手たちとは年齢差もあります。だからこそ、自分に分らないことがあると認識した上で注意深くコミュニケーションを図り、選手が困っていたら一緒に解決策を見つめるようにしてきました。

——育成年代の選手はメンタル的に不安定な選手もいると思いますが、コミュニケーションで重視されたことは何でしょうか。

——育成年代の選手はメンタル的に不安定な選手もいると思いますが、コミュニケーションで重視されたことは何でしょうか。

2025 SheBelieves Cupと4月の国際親善試合でキャプテンマークを巻いた熊谷紗希選手。ドイツ、フランス、イタリア、現在はイングランドと主要なリーグでのぎを削っている



くは経験を通じて学んでいくもの  
です。例えば、うまくいかなかった  
ときにその理由を問いかけ、選  
手自身に考えさせる。そして自  
分で決断して前進していく。そ  
うした経験を積ませることが大  
切で、そのためには選手を信頼し  
て任せることが必須です。キャ  
プテンの決断が勝利につながら  
なかったとしても、失敗から学ぶ機  
会を与えること、トライ&エラー  
を繰り返すことが不可欠だと考  
えています。その過程で選手が  
成長してくれたら、それは指導者  
にとって最大の喜びでしょう。今、  
なでしこジャパンのキャプテンを  
選考中ですが、誰が選ばれても必  
ずレベルアップし、チームを高み  
へ導いてくれると信じています。

**精神的なゆとりがあれば  
最高のプレーで応えてくれる**

——今年2月、なでしこジャパン  
はSheBelieves Cupに臨み、見  
事に初優勝を飾りました。この大  
会に向けて、どのようなアプロ  
チをされたのですか。

**ニールセン** 大会では当初、私た  
ちは格下と見られていました。だ  
からこそ、選手たちに思い切りプ  
レーしてもらったことが重要でし  
た。「サッカーを始めたとき、誰も

が『ボールに触りたい』という気  
持ちだったはず。その気持ちを  
思い出そう」と伝え、マインドセッ  
トを変えたのです。ボール保持  
にこだわり、試合を支配するこ  
とに挑戦しました。そして選手た  
ちは勇敢に戦い、自信を深めるこ  
とができました。ただ、4月のコ  
ロンビア戦はその結果を受け、し  
かも日本で行われたことで期待  
が高まり、安全なプレーが増えて  
やや守備的になってしまったと思  
います。今後の大会では、日本は  
優勝候補の一角になると思います  
のでメンタリティーをどう整えて  
いくかが重要です。

——選手たちは伸び伸びとプレー  
しているように見えます。

**ニールセン** それは喜ばしいで  
すが、私はモチベーターではあり  
ません。モチベーションは選手た  
ちの内側から湧き上がるものだ  
と思っています。私の役割は、そ  
れを引き出し、選手自身が持つて  
いる力を発揮させること。時には  
自主練やクラブでの準備を促す  
こともありますし、状況によって  
アプローチを変えることもあります  
ですが、基本的には常に選手が主役  
であり、私はその力を引き出す存  
在でありたいと考えています。

——デンマーク、中国、スイスなど  
で女子代表を指揮されてきました  
が、文化の違いとはどのように向  
き合っていましたか。

**ニールセン** デンマーク以外の  
国で指導する際は、それぞれの  
文化の特長を生かすことを意識  
してきました。もちろん、どの  
チームでも新しい要素を加える  
必要はありましたが、大切なのは  
「何が必要か」を見極めること  
です。日本の選手たちは賢く、ゲ  
ームに対する理解力も高いので、  
SheBelieves Cupでも短期間で  
結果につながられました。文化  
が異なる場合は、現地のスタッフ  
から文化の良いところや習慣を  
学び、それをチームづくりに反映  
します。選手が実践したいサッ  
カーと全く異なる戦い方を押し  
つけると、選手は不安になり、言  
われた通りにプレーするだけにな  
ってしまいます。大切なのは、  
自分は監督に認められている、こ  
の指導者の下であれば存分に力  
を出せると、安心してプレーでき  
る環境を与えること。精神的な  
ゆとりがあれば、選手たちは最高  
のプレーで応えてくれるはずで  
す。

——日本でのチャレンジをどのよ  
うに受け止めていらっしゃいます

か。  
**ニールセン** 全てをポジティブ  
に受け止め、楽しんでいきます。サッ  
カー以外の場面でも、多くの人々  
と出会う機会がありました。日  
本人は、あいさつを交わすときに  
しっかり目を見て話してくれる  
ので、歓迎されていると感じます。  
また、日本の食べ物はとてもヘル  
シーでおいしい。文化的な魅力も  
含めて、日本でのチャレンジを楽  
しもうと思っています。

——最後に、日本  
の指導者に向けて  
メッセージをお願  
いします。

**ニールセン** 指  
導者にとって何よ  
り大切なのは、自  
分の力を信じる  
ことです。異なる  
スタイルや特長を  
持つ指導者がいる  
と思いますが、ま  
ずチームにおける  
自分の役割を理  
解することが第一  
で、それが分かっ  
ていれば、長所を  
効果的に発揮でき  
ます。選手とのコ  
ミュニケーション

もスムーズになるでしょう。  
また、準備は大事ですが、コン  
トロールしようとし過ぎたり、物  
事を型にはめようとしたりする  
と柔軟性を失います。あまり肩  
肘を張らず、リラックスして指導  
にあたっていいと思いますし、そ  
の面で自身が日本の指導者の  
皆さんを鼓舞できるような存在  
になれたらうれしいです。選手  
の成長を信じ、焦らず、粘り強く、  
一緒にがんばっていきましょう。



「選手たちが『自分はこの位置にいたい』と安心してプレーできる環境をつくるのが大事」とニールセン監督。なでしこジャパンの練習では選手もスタッフも笑顔を見せる



©2025 adidas Japan K.K. adidas, the 3-Bar logo, the 3-Stripes mark, Predator, F50, Y-3 and Climacool are trademarks of adidas, used with permission.

2025 FIFA主要大会 公式試合球

CONEXT 25

コネクト 25

# スポーツ 夢 実現!!

## アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

# MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

### 毎日の体づくりの基本に

1小袋につき

アミノ酸

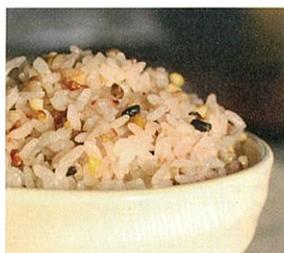
4,284  
mg



## 穀物の力 スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜	鉛 2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

### 食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

1小袋につき

アミノ酸

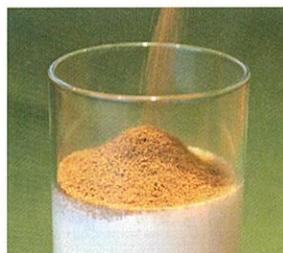
3,788  
mg



## 穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜		鉛	
エネルギー	384kcal	亜	鉛	2.1mg	
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg		
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg		
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg		
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg		
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg		
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18.940mg		
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg		
マグネシウム	190mg				
鉄	4.9mg				

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三瀬町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは  
こちらから →



## サッカー活動中の落雷に注意しましょう!

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。

原則①：危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②：周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について  
[https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/PDF/h20240523\\_02.pdf](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf)



## 2025 Jリーグレフェリングスタンダードの映像を公開

JFA審判委員会は、Jリーグと共に「2025 Jリーグレフェリングスタンダード」の映像を作成した。映像には、選手に求めるプレー、昨シーズンの事例にFIFAの競技規則に基づく解説などが加えられている。

- ①選手生命を脅かすチャレンジ ②ハンドの反則
- ③オフサイド“インパクト” ④競技者の安全への対応

●2025 Jリーグレフェリングスタンダード  
[https://youtu.be/JaZIOJ0dfwo?si=3z\\_v7e8-GfMDI3UJ](https://youtu.be/JaZIOJ0dfwo?si=3z_v7e8-GfMDI3UJ)



▼ルールに関する情報はこちら  
競技規則 <https://www.jfa.jp/laws/>



## 栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一した栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えている。

●JFA栄養ガイドライン  
<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



## スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

- 内容
- |                    |                              |
|--------------------|------------------------------|
| 1. はじめに            | 5. 8人制との比較                   |
| 2. ガイドラインの基本的な考え方  | 6. スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催 |
| 3. 各年代での心身の特性とゲーム  | 7. 指導者の関わり的重要性               |
| 4. ピッチマネージャーの配置・役割 |                              |
- [https://www.jfa.jp/coach/guidelines\\_smallsidegame.html](https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html)



## JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解してほしい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも随時アップデートしていく。

[https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading\\_guidelines.pdf](https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf)



## 選手・指導者・審判登録証の表示は JFA公式アプリ「JFA Passport」へ

2018年から運用してきた「JFA KICKOFF」アプリ(iOS/Android)を、2024年12月をもって終了しました(PC版のKICKOFFシステムに仕様変更はありません)。これまで「JFA KICKOFF」アプリで提供していたJFA登録証(選手証/監督証、指導者証、審判証)やチーム登録選手一覧の表示機能等はJFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できるようになっています。

「JFA KICKOFF」アプリで提供していた以下サービスは、JFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できます。

- ・登録証の表示(選手証、監督証、審判証、指導者ライセンス証)
- ・登録選手一覧の表示 ※チーム登録責任者および責任者代理のみ使用可
- ・お知らせ(あなたへのメッセージ)の表示
- ・その他(顔写真登録、パスワード設定、プッシュ通知など)



詳細はこちら▶

## 小学校体育サポート

### JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT

～教員向けのオンラインレッスンサイトを公開!講師派遣も受け付け中

JFAとKDDIは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」の一環として、教員向けに動画でサッカーの授業を学ぶことのできるオンラインレッスンサイトを公開している。

教員の体育授業の準備における負担を軽減するため、これまでJFAが対面でのみ実施していた小学校体育サポート研修会を初めて動画としてまとめたもので小学校の全学年に対応している。参加費は無料。

また、小学校体育サポート研修会の開催および講師の派遣も引き続き、申し込みを受け付けている。



●JFA学校体育サッカー指導のオンラインレッスン  
<https://soccerlesson.jfa.jp/>



■JFA小学校体育サポート研修会 2025年度実施校の募集を開始!  
<https://www.jfa.jp/news/00034935/>



## ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したものの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

### ●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大

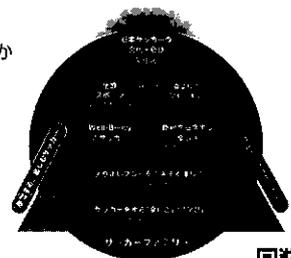
### ●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

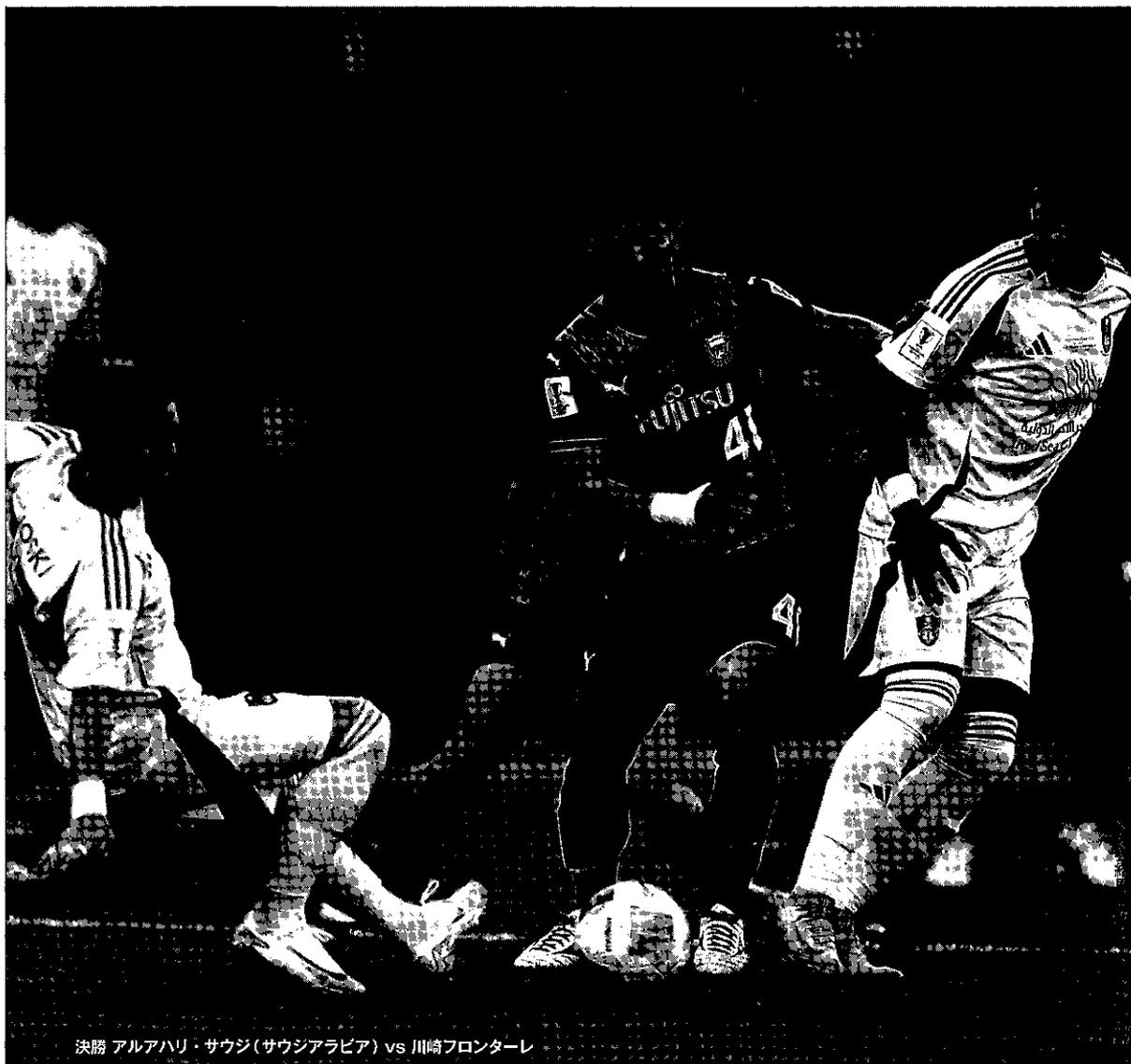
※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される

### ●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



# 川崎フロンターレは決勝進出！ 惜しくもアジア制覇を逃す



決勝 アルアハリ・サウジ(サウジアラビア) vs 川崎フロンターレ

昨年9月に始まったアジアのクラブ王座を巡るAFCチャンピオンズリーグエリート(ACLE)、それに続くAFCチャンピオンズリーグ2(ACL2)の2024/25シーズンの戦いが5月に終了した。ACLEでは川崎フロンターレ、横浜Fマリノス、ヴィッセル神戸がいずれもグループステージを突破。川崎Fは初の決勝進出を果たしたが、タイトルにはあと一歩届かなかった。ACL2ではサンフレッチェ広島が準々決勝で敗退した。

## ACLEは日本勢3チームが グループステージ突破

ACLEのグループステージは東西各12チームに分かれ、各チームは、異なるサッカー協会加盟の8チームとホーム4試合、アウェイ4試合ずつの計8試合を戦う。今年2月に山東泰山(中国)が棄権してその試合結果が無効になったことから、日本の川崎F、横浜F.M、神戸はそれぞれ7試合で順位が確定。その結果、横浜F.Mが1位、川崎Fが2位、神戸が5位となり、それぞれ上位8位によるノックアウトステージ進出を決めた。

ホーム&アウェイ方式によるラウンド16は、川崎Fと横浜F.Mが突破した一方、神戸が敗退した。上海申花(中国)と対戦した川崎Fは、アウェイの第1戦で0-1で敗れたが、ホームでは佐々木旭が先制し、その佐々木のクロスからエリソンが追加点を挙げるなど4-0の快勝を収め、2試合合計スコアで勝ち越して準々決勝進出を決めた。同じく中国の上海海港と顔を合わせた横浜F.Mは、アウェイで

1-0、ホームで4-1と連勝してベスト8へ。この2試合ではアンデルソン・ロペスが3得点を挙げる活躍を見せた。神戸はホームの第1戦、大迫勇也、井出遥也の得点で光州FC(韓国)に2-0と先勝したものの、アウェイの第2戦

決勝では厳しい条件の中、果敢に戦った川崎フロンターレ。アジア制覇にはあと一歩及ばなかった





横浜F・マリノスは準々決勝で個の力を見せたアルナスルに敗戦。準決勝進出はならなかった

では85分に2戦合計で2-1と追いつかれ、延長戦に入った1-18分に手痛い失点を喫して敗戦。計2-1と敗れた神戸の吉田孝行監督は「神戸らしさを出せなかった」と悔しさをにじませた。

### 川崎Fが初の決勝進出もタイトルには一步届かず

準々決勝以降は西地区から勝ち上がった4チームを加え、4月25日(5月3日(現地時間))にサウジアラビアのジッダで開催された。

クラブ史上初の準決勝進出を目指す川崎Fは、アルサッド(カタール)との一戦に臨んだ。試合は川崎Fがリードを奪えば、アルサッドが

追い付くという展開。だが、延長戦に脇坂泰斗が値千金の決勝点をマーク。東地区のチームで唯一、4強入りを果たした。

前回準優勝の横浜F.Mが挑んだのは、ポルトガル代表のクリスティアーノ・ロナウド、セネガル代表のサディオ・マネなど、世界的なスター選手を擁するアルナスル(サウジアラビア)。49分までに、マネ、ロナウドらに得点を許し、53分に渡辺皓太が一矢を報いるものの1-4と完敗。植中朝日は「相手の個の力に圧倒された」と力の差を痛感していた。

川崎Fは準決勝でそのアルナスルとファイナルへの切符を懸けて対戦。10分に伊藤達哉が決めて幸先の良いスタートを切る。一度は同点とされたものの、41分に大関友翔、76分に家長昭博が決めて突き放し、相手の反撃を1点に抑えて3-2の勝利でタイトル獲得に迫った。

アジア制覇にあと一步と迫った川崎Fは、決勝でアルアハリ・サウジと対戦した。試合会場のキング・アブドゥラ・スポーツシティスタジアムをホームとするクラブで、会場の雰囲気は完全アウェイ。準決勝から中3日という相手に対し、川崎Fは中2日という厳しい条件も重なった。

それでもマルシーニョらが果敢に攻め込んだが、35分に均衡を破っ



ヴィッセル神戸はラウンド16の第1戦のホームで勝利したが、アウェイでは失点を重ねて敗れ、無念の敗退となった

たのはアルアハリ。寄せが甘くなった隙を突いてガレーノに決められた。さらにその7分後には、フランク・ケシエにヘディングシュートをたたき込まれ、前半で2点のリードを許す。試合終盤の反撃も実らず、アルアハリが2-0と勝って初優勝。長谷部茂利監督は「悔しい思いでいっぱい。選手たちはよくやってくれたが、足りないところがあると思う」と話し、キャプテンの脇坂は「一人一人が個で勝てなかったで、そこはもっと成長したい」と課題を見据えた。

### ACL2出場の広島は不本意な準々決勝敗退

ACL2のグループステージで



ラウンド16では第1戦と第2戦ともに得点を挙げて勝利に貢献したサンフレッチェ広島の中村草太(中央)

は広島が快調に勝ち進んだ。4チームによるホーム&アウェイの総当たりを5勝1分けの首位通過。ラウンド16のナムディンFC(ベトナム)戦もアウェイの第1戦で3-0と優位に立ち、ホームでは第1戦でも先制点を挙げた中村草太の2得点などで4-0と快勝し、2戦合計7-0でベスト8進出を決めた。

ライオン・シティ・セーラーズ(シンガポール)との準々決勝では、第1戦を6-1と大勝したが、出場資格のない選手を起用したことが明らかに成り、大会規定により没収試合となって0-3の敗戦とされた。この結果を受けて戦ったアウェイの第2戦は20分に先制を許し、34分に中島洋太郎が同点ゴールを決めたものの、その後はスコアが動

かず1-1の引き分け。2戦合計1-4となり、不本意な敗退となった。クラブはこうした事態を重く受け止め、3月21日、レギュレーションや参加資格、海外大会の注意点や問題点の再確認の徹底など再発防止策を発表した。

決勝ではシャルジャ(アラブ首長国連邦)がライオン・シティに2-1で勝って優勝を飾った。

来シーズンのACLEには昨シーズンの明治安田J1リーグ優勝の神戸、同2位の広島、同3位のFC町田ゼルビア、ACL2には天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会優勝の神戸に代わって、明治安田J1リーグで4位だったガンバ大阪が繰り上げて出場する。

#### AFCチャンピオンズリーグエリート 2024/25 (ACLE)

Jリーグ公式ウェブサイト  
<https://www.jleague.jp/acle/2024-25/>



#### AFCチャンピオンズリーグ2 2024/25 (ACL2)

Jリーグ公式ウェブサイト  
<https://www.jleague.jp/acl2/2024-25/>



# メディカル ROOM

## 「基本の食事と補食の重要性」

亀井明子  
(JFA医学委員会栄養サポート部会)  
◎監修: JFA医学委員会

本連載では日本サッカー協会(JFA)医学委員会の監修の下、メディカルに関する情報をお伝えします。

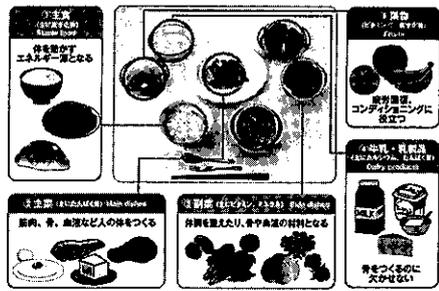
### からだづくりは食事の自己管理から

毎日の食事は、健康維持に欠かせません。日々、練習や試合に打ち込んでいる選手にとってはパフォーマンスにも大きく影響します。日常的に偏った食事をしている、必要とする栄養量が取れていない、食べるタイミングが適切ではないといった場合、将来のパフォーマンスにも負の影響を及ぼすことになるのです。

サッカー選手にとっての食事の重要性は、①からだづくり、②体調管理、③障害予防が挙げられます。からだづくりのために十分なエネルギーと栄養素の摂取をきっちり毎日の体重測定によって練習や試合で消費したエネルギーを補充できているかを確認

■表1 アスリートとしての「基本的な食事の形」

- (1) 主食(体を動かすエネルギー源):  
主に炭水化物…ご飯・パン・麺・もち
- (2) 主菜(筋肉、骨、血液など人の体を作る):  
主にたんぱく質…肉類・魚介類・卵・大豆製品
- (3) 副菜(体調を整えたり、骨や血液の材料となる):  
主にビタミン、ミネラル…野菜・芋・海藻・きのこ
- (4) 牛乳・乳製品(骨をつくるのに欠かせない):  
主にカルシウム、たんぱく質…牛乳・ヨーグルト・チーズ
- (5) 果物(疲労回復、コンディショニングに役立つ):  
ビタミンC、炭水化物



することが必要です。また、体重管理だけではなく、体調管理も大切です。日々の疲労度や食欲など自分自身の体調面を振り返り、十分な栄養素の摂取に努めることで障害予防にもつながります。未成年代のうちから食事を意識し、正しい知識を得て、自ら適切な食事を選択する習慣を身に付けることで丈夫なからだをつくることができま

### トレーニング前後の補食効果的に取り入れよう

補食とは、朝・昼・夕の食で足りないエネルギーや栄養素を摂取することです。また、練習前に空腹の場合や練習後から夕食までに時間が空いてしまう場合は、効果的なトレーニングとリカバリーのために補食が必要です。

運動中の主なエネルギー源は、血中グルコース(血糖)と筋肉・肝臓に貯蔵されているグリコーゲンです。これらが不足すると空腹感・疲労感を起こしやすく、集中力が続かないなどパフォーマンス低下の一因となります。そのため、練習前にはエネルギー補給をしておくことがパフォーマンスの維持と発揮に欠くことができません。練習後

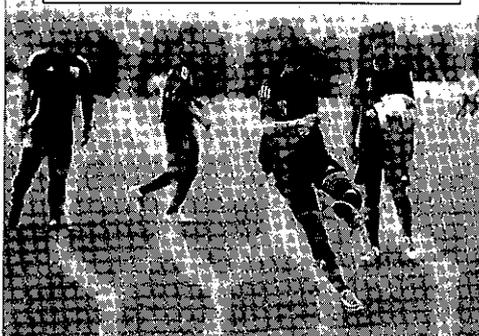
は、消耗したグリコーゲンを速やかに回復させる必要があるため、炭水化物を多く含む食品を十分に取ることが大切です。炭水化物とたんぱく質を摂取することで筋たんぱく質の合成が高まることも報告されています。

基本的には、トレーニング開始2〜3時間前に補食を取るこ

とトレーニング終了後はなるべく早いタイミング(終了後2時間以内)に食事時間を設定できるようスケジュールを組むことが必要です。運動前は炭水化物中心の食品を考え、運動後は炭水化物とたんぱく質を含む食品を考えます。例えば運動前は、おにぎり、バナナ、オレシジュース、カスミア、脂質の少ないパンなど。運動後は、前述した低脂肪質のパンやおにぎり、バナナ、オレシジュースといった炭水化物を多く含む食品と牛乳、ヨーグルト、チーズなどのたんぱく質を豊富に含む食品を組み合わせる、あるいは、サンドイッチなど炭水化物とたんぱく質を同時に取れる食品もよいでしょう。

最後に忘れてはならないのが、食事はリラックス、リフレッシュできる要素でもあるということです。チームメイトや気の合う仲間、家族などと食事を共にすることで心身のリカバリーやコンディショニングにもつながります。食事の重要性を多様な視点で関係者が理解することで、選手育成と強化につながるでしょう。

【参考】JFA栄養ガイドライン  
<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



## ● サッカーの上達を支える不易流行

サッカーは「サッカーをすること  
で上達する」と言われます。これは、  
サッカーに関わる身体的な運動だけ  
でなく、うまくプレーするための知  
識や認知、さらには心理的な事柄を  
全て含んでいます。動きの記憶は脳  
内に保存され、制御されます。ボー  
ルを扱う技術を的確に発揮できる  
ようになるには、何度も繰り返して  
ボールに触るといった身体への刺激  
が不可欠です。そして、サッカーに  
は「正しい答え」や「正しいやり方」  
があるわけではなく、「たくさんの方  
の答え」と「さまざまなやり方」があ  
ります。従って、自分なりに工夫しな  
がら追求する「探索」、その効果を検  
証するために「熟考」という取り  
組みが必要です。

サッカーの指導で選手に「発問(質  
問)」することの大切さはよく知ら  
れています。「なぜそのプレーを選  
択したのか」「プレーが失敗した理由  
は何か」などを問うことで、選手は自  
分のプレーの過程を振り返ることにな  
ります。身体運動の多くは、言葉で  
表現できなくても実行できるので、  
私は、子どもであれば言葉でうまく  
表現できなくても良いと考えていま  
す。感じたり、イメージを描いたり  
することもプレーの精錬につなが  
ると思います。

他人の動きを模倣しても、うまく  
プレーできないことはたくさんあり  
ます。「うまく選手が常に首を振る」  
からといって、その動きをまねたと  
しても効果は低いのです。同じよう  
に、相手からフリーになるためにう  
まい選手の「チェックの動き」をまね  
ても、簡単にフリーにはなれません。  
その動きが生まれた過程が重要な  
のです。

人は「見たい」と思うものに注意  
が向きます。上手な選手はゲーム  
中、必要な情報をタイミングよく得  
るために首を振るのです。相手か  
らフリーになるためには、相手の動  
きを意図的に引き出し、その逆を突  
いて動かなければなりません。相  
手との駆け引きや動き出しのタイ  
ミングなど感覚的な要素が絡んで  
おり、その結果が動きとなって出現  
するので。

パスやシュート、ドリブルといっ  
た技術も、それぞれの選手に意図や  
目的があり、そこには個性がありま  
す。体格や運動能力も異なるた  
め、他人の動きを表面的に模倣す  
ることには注意が必要です。

上達するには、コーチの指示  
通りに練習するだけでなく、  
自らいろいろトライし、多様  
な知識と経験を積むことが必  
要です。練習を機械のようにこな  
す受動的な取り組みから、より適切



隔月連載

# サッカー心育論

Vol.92

～指導者は何を考えるべきか～

中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会部会長 / JFA普及ディレクター / JFAキッズプロジェクトメンバー / 筑波大学体育系教授)

な解を求めて多くの探索をすることが  
大切で、その過程で自分のやり  
方に弱点がないかを自問自答し、評  
価し、他の選手を観察してヒントを  
得ます。なぜそうなったのかを問  
い続けることで知識の再構造化が促  
され、応用力が高まるのです。

話が少し変わりますが、ペンや鉛  
筆で文字を書く機会が以前に比べて  
少なくなっています。パソコンやス  
マートフォンでの入力が増え、ほとん  
どです。私の右手中指には「ペンだこ」が  
できています。学生時代はもっと大  
きくて硬かったと思います。試験勉  
強のために、新聞に挟まれたチラシの  
裏などに文字や文章を書きまくって  
いました。文字を書くということは  
小さな身体運動ですが、知識の獲得  
や定着に良い影響を与えてく  
れます。最近、文字を書くときに  
に漢字を思い出せないことが多  
くなってきました。年齢のせい  
もあるかもしれませんが、運動と  
して「書く」機会が減っているこ  
とも原因の一つである気がします。

一方、テクノロジーの発達により、  
近年はバーチャルリアリティ(VR)  
を活用してサッカー選手の認知能力  
を高めながらパフォーマンスを向上  
させるトレーニングが導入されてい  
ます。さまざまな手法が開発され  
ていますが、基本的には仮想空間を  
知覚しながら実際にボールを蹴ると

いった構成になっています。将来的  
に、簡単には経験できない状況をシ  
ミュレーションすることで、選手の可  
能性を引き出すことができるよう  
なるかもしれません。これらの有効  
性は今後明らかになっていくでしょ  
う。偏見を持たずに注目していきた  
いと思います。

最近、分からないことがあれば生  
成AIに頼ることが多くなりました。  
私の周囲の大学生は英語の文章  
はカメラ機能を使って即座に翻訳し  
ます。プレゼンテーションの資料は  
キーワードと分量をAIに指定して  
あつという間に作ってしまいます。  
「今どきの若者は」と嘆きたいところ  
ですが、私も「今どきの若者」だった  
40年ほど前、「コンピュータ」を使って  
統計データを分析していたら、先生  
から「自分で計算してみたらどうだ」  
という指摘を受けました。自分で  
計算すると時間はかかりますが、結  
果を出すための過程を知ることがで  
き、理解が深まります。その理解が  
他の分析への応用にもつながります。

便利さは必要ですが失うものもあり  
ます。サッカーも合理的・効率的に  
練習して結果を出すといった志向は  
大切ですが、時間をかけて試行錯誤  
を繰り返して、そこに至る過程で何を  
考え、どのように実行してきたのか  
を振り返ることを忘れてはいけな  
いと思います。

# No Football, No Life

「サッカーには課題を  
乗り越えていく力がある」

フットボールに関わる人々やフットボールを支える人々にインタビューを実施し、フットボールの可能性や魅力に迫る本連載。第10回は、サッカーをしたくてもできない子どもたちの環境を変えるために活動している加藤遼也さんに話を聞いた。

○取材日：2025年5月13日



加藤 遼也 認定NPO法人love.futbol Japan代表

サッカーをしたくても  
できない子どもたちがいる

——love.futbol設立の経緯を教えてください。

加藤 アメリカ人のドリュー・チャフェッツ(Drew CHAFFETZ)が2006年、サッカーをしたくてもできない子どもたちの環境を変えることを目的にワシントンD.C.でlove.futbolを設立しました。彼は幼

しょうか。

少期、家族と世界各地を転々とする生活をしていて、サッカーを通じて現地の子どもたちと仲良くなっていったそうです。ところが、アフリカのある国に行つたときに「こんな場所でサッカーをするのか」とその過酷な環境に衝撃を受け、それが原体験となつたlove.futbolを設立するに至つたそうです。現在は本部をニューヨークに移し、ブラジルや日本に支部があります。

——加藤さんほどのようにlove.futbolと関わりを持ったので

加藤 私は幼少期からサッカーをしていたので、サッカーに関わる仕事、特に伝える仕事がしたいと思い、大学卒業後に出版社に就職しました。その後、転職したのですが、やはりサッカー界で働きたいという思いが強くなり、いろいろ探していくうちにサッカーを通じた国際開発という仕事に出会いました。それが11年です。そして、南アフリカに行き、HIVやAIDS、薬物の問題

などを抱える地域でサッカーをツールに教育プログラムを構築して子どもたちの社会復帰を手助けする活動に参加しました。しかし、その団体の意向もあつて途中でプログラムを中止せざるを得なくなつてしまつて、子どもたちの力になりたいはずが彼らを裏切るような形になつてしまつた……。継続的に子どもたちを支える活動はできないかと探していく中で見つけたのがlove.futbolでした。

——love.futbolのどのようなところに魅力を感じたのですか。

加藤 当時、世界で1000くらいこの団体がサッカーを通じた国際開発を行つていましたが、そのほとんどはスポーツを通じて教育を行うフット事業者で、残りのほんの数パーセントの団体が、場所や施設をつくるハード事業を展開していました。love.futbolは後者で、私は継続的な活動を可能にするハード面での取り組みに興味を持ち、アメリカに話を聞きに行きました。そこでドリューに言われた「サッカーコートを作る私たちの活動は、地域の人が自分の居場所を見つめるプロジェクトだ」という言葉に感銘を受けました。日本でもこの活動をしたいと何度かドリューにプレゼンテーションし、12年によくやく任意団体として認め

てもらいました。

——事業を進める上で資金面など困難も多かったのではないのでしょうか。

加藤 13年末くらいまでは無給で働いていました。貯金が5万円になつた時点で、これは厳しいと感じ、国内のNGO団体に就職して、そこで働きながらlove.futbolの活動を続けました。サッカーコートを造る活動は、私たちが資金を集め、地域コミュニティと一緒に造り、彼らに運営してもらつた仕組みです。コートを造る初期費用が大きいにもかかわらず、私たちにコートを運営して得る収益はありません。原資は主に寄付のため、応援していただけの人たちを増やしていく難しさがありました。

誰もが安心して  
サッカーを楽しめるように

——love.futbolは、子どもたちがサッカーをしたくてもできない理由として、場所、お金、安全性、仲間、家族の理解、地域の風習の六つを挙げていますが、日本の現状を教えてくださいいただけますか。

加藤 日本で、経済的な貧困を理由にサッカーをしたくてもできない子どもたちを応援する活動を考えた



JFAと連携し、支援している子どもたちとその家族をFIFAワールドカップのアジア最終予選に招待

とき、最初の壁になったのは、課題の実態が社会で把握されていないことでした。どこにどれだけ困っている子がいて、何に困っているのか、何を必要としているのか。つまり、どんな活動が最も効果的なのか分からなかった。love.futbol JapanをNPO法人化した18年の時点でも実情がつかめていませんでした。ですが、コロナ禍で子どもの体験格差がさらに開いたことを受け、まずは3年間、三つの目的を持って事業に取り組みことを決めました。一つは、経済的な理由でサッカーを始められない、続けられない子どもへの応援を実現すること。二つ目は、課題とニーズを可視化して、日本サッカー界に伝えること。三つ目は、サッカー界の人が活動に支援参加しやすい仕組みをつくること。活動を始めて5年

目ですが、私たちの支援を必要とする子どもは年間1000人単位で増えています。この4年間で人数は5倍に拡大し、今年は520人を超えています。

一般的には見えづらい部分です。

加藤 私たちに支援を希望するご家庭の約6割の世帯年収は200万円以下です。また、約38%の世帯の保護者が、子どもがサッカーをできるような借入れをいたしました。経済的に困窮している場合、やはり衣食住が優先されますし、日本社会では子どもにサッカーをさせるのは贅沢だ、と考える人もいます。そのため、世間からの目が怖くて、当業者は困っていても声を上げづらい、という問題も見えてきました。

——そういった状況の中、現在love.futbol Japanは具体的にどのような活動をしているのでしょうか。

加藤 子どもたちが安心して安全にサッカーを楽しめる場所を残していこう、サッカー界の力で困っている子どもたちを応援する仕組みを残していこう、この二つのミッションの下、小学1年生から大学1年生を対象に主に三つの活動をしています。まずは、サッカーコート

域コミュニティと共創する活動。経済事情やジェンダーなどに関係なく、子どもが誰でも無料で遊べる、スポーツ版の子どもの居場所をつくる活動です。二つ目は、「子どもサッカー新学学期応援」と銘打って、一年で家計の負担が最も大きくなる新学学期に奨励金5万円の給付と用具の寄贈を行っています。また、対象となる子どもたちは孤独感や不安など精神面の課題を抱えていることもあるため、選手たちと6カ月間オンラインで交流できる場や一緒にサッカーをしながら相談できる場も設けています。三つ目は、「1% FOOTBALL CLUB」。これは、現役やOBのサッカー選手が給与などの1%を寄付し応援する仕組みで、現在は25人が参画してくれています。

——活動の進捗状況や課題について教えてください。

加藤 21年のスタートから5年目を迎え、奨励金の総額は2400万円を超えるなど、45の都道府県で2100人以上の子どものために応援できています。サッカーファンを中心に個人のサポーターの輪も560人ほどにまで広がっています。課題は、支援の輪の広がりに、必要とする子どもの規模が拡大していることです。

——加藤さんが現在の活動に取り組まれる情熱の源はどこにあるのでしょうか。

加藤 先述した南アフリカでの失敗経験が関係しています。元々は、サッカーの社会的価値が上がればサッカーに対する投資も増え、中で働く人たちの給与も増えてサッカー界がより豊かになるのではと、「サッカーのため」という思いがありました。でもあの失敗から、活動前提が「サッカーのため」ではなく、「人のために」変わりました。加えて、活動を止めずに継続していくことを大切にするようになりました。

——love.futbolは子どもたちを支援し続けていますが、加藤さんご自身にとって、love.futbolはどういう存在ですか。

加藤 サッカーを通じて社会貢献や国際開発を仕事にしたいくても、そういう団体を日本で探すのは難しいんです。私自身がそうだったように、身近に相談相手がいなかったり、経験を積む場がなかったり。そういう意味で、love.futbolは私に居場所を与えてくれた存在です。これから先、日本でこうした活動がしたいと思う人たちが成長できる、自分の居場所を見つけたと思える組織にしたいと思っています。

——最後に、今後の目標を教えてください。

加藤 毎年、最低でも一つは国内に子どもも大人も誰でも無料で楽しめるサッカーコートを造り続けることです。



「子どもサッカー新学学期応援」を通じてこれまで3000点を超える用具を子どもたちに贈っている

## Profile

加藤 遼也(かとう りょうや)

1983年12月5日生まれ、愛知県出身

2011年からサッカーを通じた国際開発で働き始め、南アフリカでHIV、AIDS、薬物の問題、アメリカで移民の子どもたちの問題に対してサッカーの教育プログラムを実施。12年にlove.futbol Japanの代表に就くと、18年に同組織をNPO法人化し、経済面や社会格差を理由にサッカーをプレーしなくてもできない子どもたちの環境を変える活動に取り組んでいる。

love.futbolの詳細については、ホームページを参照ください。

<https://www.lovefutbol-japan.org>



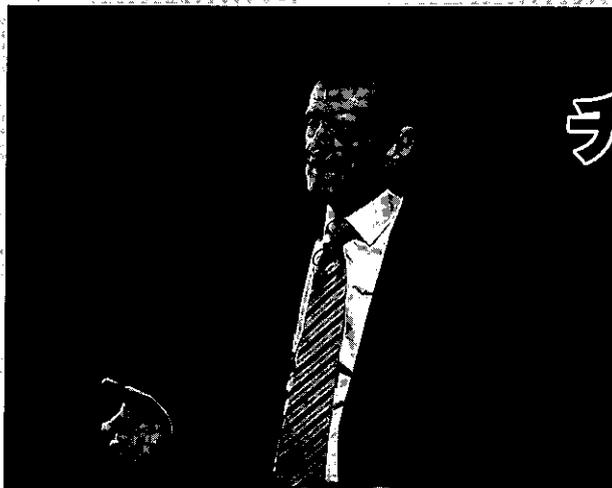
# 第14回 JFAフットボールカンファレンス

## 子どもから チャンピオンへ

今年1月18日と19日に開催された「第14回 JFAフットボールカンファレンス」。短期連載第5回は、毎回好評のアンディ・ロクスブルグ氏による「子どもからチャンピオンへ～育成のパスウェイ」のレクチャーを要約してお送りする。



フットボールカンファレンスは、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。



ワールドカップ優勝は  
ミッション・ポッシブル

アンディ・ロクスブルグ氏  
(AFCテクニカルダイレクター)の「子どもからチャンピ

オンへ」育成のパスウェイと題したレクチャーでは、選手の成長プロセスに関して興味深い解説がなされた。

日本サッカー協会(JFA)は、2050年のFIFAワールドカップで優勝することを目標に掲げているが、ロクスブルグ氏はこれを「ミッション・インポッシブル(実現不可能な目標)ならぬミッション・ポッシブル(実現可能な目標)である」と語り、そのために必要なこととして育成プロセスや環境の整備を挙げた。

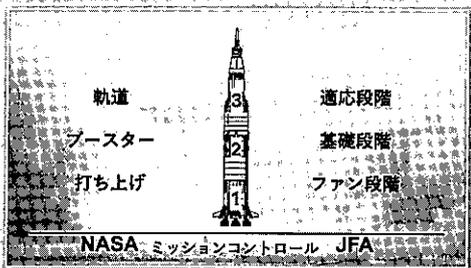
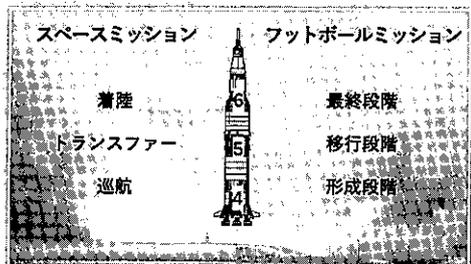
フットボールミッションと置き換えて説明していった。

フットボールミッションとして育成プロセスや環境を整える

「打ち上げ」に該当するのは「ファン」。つまり8歳までのサッカーを楽しむ段階では、ボールに多く触れさせて「好き」という気持ちを充足させることが大切だという。続いて推力を追加する「ブースター」のフェーズは、9〜12歳で「基礎」を習得させる段階。個人技や運動能力を高め、チームプレーを覚えさせる必要があるが、ここで指導者は、自分の野心をぶつけないようにしなければならぬ。「軌道」に乗るフェーズは「適応」の段階で、13〜15歳に該当する。心身の変化に伴って自分自身を成長させる必要があ

り、テクニクを身に付けさせつつ、また1人制サッカーの戦略や戦術も習得させなければならぬ。

その後の「巡航」のスピードに入るフェーズは、さらなる成長を促す「形成」の段階に当てはまる。プロ選手が具体的な目標になり、それに向けたテクニクや知識、メンタルの強化が求められる。一方で、サッカー以外の誘惑やけがのリスクも高まるため、指導者の質の高いサポートが必要になる。軌道から外れて着陸態勢に入る「トランスファー」は「移行」で、これはユース年代の選手をプロまで押し上げる、極めてデリケートな段階となる。メンタルや技術力、戦術理解力、適応力など、さまざまな面でハイレベルなものが要求され、サポートする側も繊細なマネジメントが必要

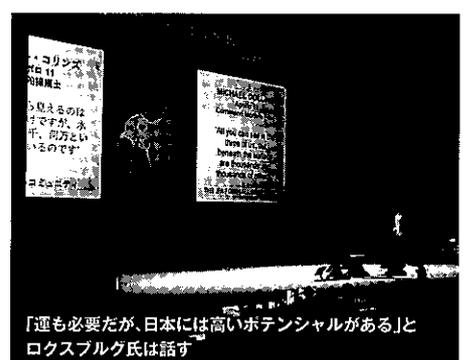


である。そして「着陸」は「最終」の段階、つまりトップレベルへの到達を意味する。プロ選手として活躍し、ステップアップするための技術や戦術理解力を身に付けていることはもちろん、失敗から早急

「着陸」は「最終」の段階、つまりトップレベルへの到達を意味する。プロ選手として活躍し、ステップアップするための技術や戦術理解力を身に付けていることはもちろん、失敗から早急

に立ち直るリバウンドメンタリティーなども求められる。一方で、けがや不調、チームスタイルと合わずに成長が滞ってしまうケースや派手なライフスタイルにおぼれる危険性もあるため注意が必要だ。

FIFAワールドカップ優勝というミッションは、「NASA」における月面着陸のミッションと同じようなものだ」と解説したロクスブルグ氏。最後に、「皆さんが関わっていると、皆を忘れないでほしい。『三人寄れば文殊の知恵』とは日本のことわざだが、全くその通りで、全員



「運も必要だが、日本には高いポテンシャルがある。」とロクスブルグ氏は話す

目を疑いました。ガンバ大阪のGK一森純選手が、100メートル近く離れた相手チーム浦和レッズのペナルティーエリアまで走ったのです。

5月6日に埼玉スタジアム2002で行われたJ1リーグ第15節の「浦和×G大阪」。ここまで5連勝の浦和、2連勝のG大阪。好調同士の好試合が期待されました。

しかし開始早々に大きなアクシデントが起きます。

ジャンプしてクロスをキャッチした浦和GK西川周作選手が、プレー後、左足を気にして伸ばす動作を見せたのです。試合を止めてもらい、チームドクターを呼んで状況を伝え、一度はプレーに戻った西川選手でしたが、1分もしないうちに再び座り込み、交代を求めました。小屋幸栄主審は即座にドクターと担架を呼びます。西川選手の動作から、左足の太もも裏側の筋肉の故障であることは明らかでした。

浦和の選手たちが次々に走り寄り、無念そうな表情の西川選手を励まします。西川選手が「自分で歩いて出る」と話したのです。担架要員が離れると、入れ違いにやってきたのはG大阪のキャプテン、FWの宇佐美貴史選手でした。そしてそれを追うように、黄色いユニフォーム

いつも心に

連載 Vol.146

大住良之

# リスペクト

RESPECT  
大切に思うこと

(サッカージャーナリスト)

## 相手GKに走り寄ったGK

を着たG大阪のGK一森選手が走ってきたのです。

一森選手が走り始めたとき、私はこの中断を利用して味方選手と何か打ち合わせをしようとしているのかと思いました。しかし彼はそのままハーフウェイラインを越え、浦和のペナルティーエリアに入つて、座り込んだままの西川選手のところまでいったのです。そして西川選手の背に左手を置きながら何か話しました。

やがて宇佐美選手が西川選手と握手してその場を離れ、自分で立ち上がった西川選手は、自陣に戻る一森選手の背中を「ありがとう」とでも言うようにたたきました。

1986年生まれの38歳。西川選手はこの試合がJ1出場639試合目。歴代2位、現役選手最多の出場数を誇る名GKです。大分県宇佐市出身、大分トリニータのU-18からプロになり、サンフレッチェ広島を経て2014年に浦和に移籍、J1での活躍は、21シーズン目にもなります。

一方の一森選手は、1991年生まれの33歳。セレッソ大阪のU18出身ですが、18歳でJ1クラブのレギュラーとなった西川選手とは対照的に、関西大学を経て日本フットボールリーグのレノファ山口に加入、チームの

J3昇格、そしてJ3優勝とJ2昇格に貢献した後、2020年にJ1のG大阪に移籍しました。しかしなかなか出番がなく、23年には横浜F・マリノスに1年間の期限付き移籍。ここでの活躍を評価され、翌24年、ようやくG大阪でレギュラーのGKとなりました。

試合後、一森選手は思いがけないことを話してくれました。

2年前、一森選手が横浜FMでプレーしていたとき、埼玉スタジアムでの浦和戦に出場し、胸振蓋の疑いで後半に交代を余儀なくされました。身をていしてピンチを防いだときに倒れ、数分プレーしましたが再びふらついたのです。

一森選手が担架で運ばれるタイミングで飲水タイムとなったのですが、そのときに西川選手が寄ってきて声をかけてくれたといいます。そして西川選手は、試合後にもわざわざ一森選手を力づけてくれたというのです。

頭を打ったときの一森選手のプレーは勇敢そのもので、その飛び込みがなければ横浜FMの失点は必至でした。西川選手は同じGKとして一森選手の好守を称え、早い回復を祈ったのです。

一森選手はそのときのことをよく覚えていました。そして西川選手が自分と同じように一度プレーしてから再び座り込んだとき、「あのとき」の自分を見るような思いがして、知らないうち走り出していたのです。

試合は後半にG大阪が1点を



座り込んだ浦和の西川選手にG大阪の宇佐美選手(右から3人目)と一森選手(背番号22)が思わず駆け寄る

奪い、1-0の勝利。大黒柱の西川選手を失ったことで、浦和の選手たちに大きな動揺があったのは間違いありません。

幸いなことに西川選手は軽症で、1試合を休んだだけで11日後のFC東京戦でピッチに戻り、浦和に勝利をもたらしました。



## 日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>Veo Technologies APSとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結  
～日本サッカーの持続的成長を支える技術連携と協働

JFAは、「テクノロジーの力でスポーツの未来を変える」というVeo Technologies AP（以下、Veo）のミッションに共感し、同社とJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結した（5月27日発表）。

同パートナーシップは、VeoのAIカメラおよび映像プラットフォームを活用して指導者養成や選手育成の質を高めるとともに、トレーニングや試合を可視化することで、効果的な指導と選手のパフォーマンス向上を図ることを目的としている。

## 【JFAソーシャルバリューパートナー契約概要】

契約社名：Veo Technologies APS（事業内容：AIカメラ、分析・共有プラットフォームの製造販売）

対象：ユース育成（男子）、指導者養成

目的：AIカメラや映像プラットフォームを活用することで、さまざまな環境下でのトレーニングや試合の撮影・分析のプロセスを簡素化し、分析精度の向上、指導の効率化、選手の成長サポート、運営の合理化、指導者養成プログラムの質の向上を目指す。

## ●宮本恒靖JFA会長コメント

Veo Technologies APSとパートナーシップ契約を締結したことを大変うれしく思います。

VeoはAIを活用した試合分析などで世界的な実績を持つ会社です。同社

のAIカメラと映像分析プラットフォームを導入することによって育成年代の選手も自分のプレーを手軽に客観視できるようになり、それが彼らの成長を大きく後押しするでしょう。また、指導者にとっても学ぶ機会が格段に増えるはずで、JFAはテクノロジーの力を最大限に活用し、指導者養成と選手育成事業に新たな価値を生み出すべく、Veoと手を携えて日本サッカーの環境を次のステージへと押し上げていきたいと考えています。

## ●Henrik Teisbæk Veo Technologies APS CEOコメント

Veo Technologiesは、JFAとのパートナーシップを締結したことを心より光栄に存じます。Veoは「スポーツテクノロジーをすべての人により身近で利用しやすいものにする」というミッションの下、本パートナーシップを通じて、日本におけるVeoカメラユーザー様の力強いコミュニティを今後も継続して支援するとともに、あらゆるレベルのサッカー現場にVeoのテクノロジーを広く展開してまいります。VeoのAIカメラ技術は、日本のサッカーにおける選手・指導者のさらなる育成を支えると同時に、2050年までにワールドカップで優勝するというJFAの目標にも寄与できるものと信じております。JFAとの協働を通じて、このパートナーシップの価値を最大限に高め、日本全国における選手および指導者の育成に貢献できるよう、Veoは真摯に取り組んでまいります。

AFCチャンピオンズリーグエリートおよびAFCチャンピオンズリーグ2  
2025/26シーズンの出場権獲得チーム

2025/26シーズンのAFCチャンピオンズリーグエリート（ACLE）およびAFCチャンピオンズリーグ2（ACL2）の日本における出場権獲得クラブは下記の通り（5月4日発表）。

## ■AFCチャンピオンズリーグエリート 2025/26 出場権獲得クラブ

- ・ヴィッセル神戸（2024 明治安田J1リーグ 優勝）
- ・サンフレッチェ広島（2024 明治安田J1リーグ 準優勝）
- ・FC町田ゼルビア（2024 明治安田J1リーグ 3位）

## ■AFCチャンピオンズリーグ2 2025/26 出場クラブ

- ・ガンバ大阪（2024 明治安田J1リーグ 4位）

※ACL2 2025/26出場クラブは天皇杯 JFA 第104回全日本サッカー選手権大会優勝チームとなるが、当該チームがACLE 2025/26出場権を獲

得しているヴィッセル神戸であるため、J1リーグ4位が繰り上げで出場。※両大会への出場は、今後実施される判定会議においてAFCクラブライセンスが交付された後に正式に決定する。

※参考：各クラブのAFCチャンピオンズリーグ戦績

[ACLおよびACLE]

- ・ヴィッセル神戸：ベスト4（2020）、ベスト8（2022）、ベスト16（2024/25）
  - ・サンフレッチェ広島：ベスト16（2014、2019）、グループステージ敗退（2010、2013、2016）
  - ・FC町田ゼルビア：なし（初出場）
- [ACL2]
- ・ガンバ大阪：なし（初出場）

## JFA/Jリーグポストユース強化施策 第2回活動

ポストユース（19～21歳）の選手育成・強化などを目的とした「JFA/Jリーグポストユース強化施策」の第2回の活動として、5月12日から13日に「JFA/Jリーグポストユースマッチ」を下記の通り行った。

## ■「JFA/Jリーグポストユースマッチ」第2回活動概要

- 活動期間：2025年5月12日（月）～13日（火）  
主催：公益財団法人日本サッカー協会／公益社団法人日本プロサッカーリーグ

主管 : 公益財団法人日本サッカー協会  
対戦カード : U-22 Jリーグ選抜 vs 関西学生選抜  
試合日時 : 2025年5月13日(火) 17:00キックオフ  
会場 : J-GREEN堺 S1 天然芝メインフィールド  
試合方式 : 90分(前後半45分)の試合を行い、勝敗が決定しない場合はPK戦で勝敗を決定。選手登録人数は18名、交代人数は最大7名、交代回数は3回までとする(ハーフタイムを除く)。※選手の再出場可能、「脳振盪による交代」あり  
インターネット配信 : Jリーグ公式YouTube チャンネルにて無料ライブ配信

#### ●U-22 Jリーグ選抜 スタッフ体制

団長 : 山本昌邦(JFA ナショナルチームダイレクター)  
足立修(Jリーグ フットボールダイレクター)  
監督 : 菅原大介(U-20日本代表 コーチ)  
コーチ : 前田遼一(日本代表コーチ)  
遠藤保仁(ガンバ大阪コーチ)  
青山敏弘(サンフレッチェ広島コーチ)  
GKコーチ : 高原寿康(U-20日本代表GKコーチ)  
フィジカルコーチ : 矢野由治(U-23日本代表フィジカルコーチ)  
テクニカルスタッフ : 越智滋之(U-23/U-20日本代表 テクニカルスタッフ)

## JFA/Jリーグポストユース強化施策 第3回活動

JFA/Jリーグポストユース強化施策の一環として、U-20 Jリーグ選抜が6月、ホンコン・チャイナで開催される「International Youth Invitational Football Cup at KTSP June 2025」に出場することが決まった(5月16日発表)。

### ■International Youth Invitational Football Cup at KTSP June 2025 概要とスタッフ体制

大会名 : International Youth Invitational Football Cup at KTSP June 2025  
日程 : 2025年6月4日(水)～9日(月)  
会場 : Kai Tak Youth Sports Ground(ホンコン・チャイナ/九龍)  
出場チーム : U-20 Jリーグ選抜、U-20ホンコン・チャイナ代表、マラガCF U-20、U-18湖北選抜

大会方式 : 4チームによるトーナメント方式(準決勝、決勝、3位決定戦の計4試合を実施)

#### ●U-20 Jリーグ選抜 スタッフ体制

団長 : 小林祐三(Jリーグ 企画戦略ダイレクター)  
監督 : 井原正巳(フリー)  
コーチ : 菊地直哉(サガン鳥栖)  
GKコーチ : 佐藤洋平(U-22日本代表GKコーチ)  
フィジカルコーチ : 中村大輔(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)

※今後の活動予定 : 第4回活動(11月中旬予定/U-18 Jリーグ選抜 欧州遠征)

## 天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会 前回大会に続き、「SCO GROUP Award」を設置

天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会に特別協賛している株式会社SCOグループ(以下、SCOグループ)の協力により、昨年に引き続き、SCOグループ特別協賛賞「SCO GROUP Award」を設置する。

前回の第104回大会では、優勝したヴィッセル神戸の酒井高德選手が同賞を受賞。今大会も、期間中、最も記憶に残る感動的なプレーで多くのサッカーファミリーの輝く表情を生み出した選手を「SCO GROUP Award」として表彰する。

### ■「SCO GROUP Award」概要

- ・選考基準 : 大会の全試合の中から、最も記憶に残る感動的なシーンを演出し、観客を熱狂と興奮に導き輝く表情を生み出した選手を表彰
- ・選考者 : 株式会社 SCO グループ
- ・表彰式 : 決勝(2025年11月22日)終了後の表彰式の中で実施
- ・賞品 : クリスタルトロフィー
- ・副賞 : 賞金1,000万円

### ●玉井雄介 株式会社SCOグループ代表取締役コメント

サッカーの試合で生まれる一つのプレー、一瞬のひらめき、仲間との連携——その全てが、私たちの心を動かし、明日への力を与えてくれます。当社が掲げる「テクノロジーで『105年生きる』を創造する」というビジョンには、人生をより豊かに、そして生きがいをもって活き抜く未来への想いが込められています。スポーツは、その実現に欠かせない原動力であり、だからこそ私たちは今年もこの「SCO GROUP Award」を通じて、サッカーを愛する全ての人々の“生きる力”に寄り添いたいと考えています。

昨年、多くの方々の中に残るプレーを届けてくれた酒井高德選手のように、本年もまた、見る人全てに感動を与える瞬間がきっと生まれるはずです。このアワードが、選手やファン、そしてスポーツに関わる全ての方々の夢と挑戦を後押しするきっかけとなれば、これ以上の喜びはありません。

## 【「MIZUHO BLUE DREAMサッカー教室」を開催

JFAメジャーパートナーである株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、みずほ）は5月25日、高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）で、小学生年代を対象とするサッカーグラスルーツ活動の一環として「MIZUHO BLUE DREAMサッカー教室」を開催した。

みずほは「ともに挑む。ともに突る。」のパーパスの下、「BLUE DREAM」を冠して挑戦する全ての人を応援するプロジェクトを展開。今回のサッカー教室は、サッカー経験の有無にかかわらず、「サッカーが好き、やってみたい」と思っている小学生を対象にサッカーという競技の素晴らしさ、ボール

と触れ合うことの楽しさを味わってもらうことを目的としており、その様子を家族にも感じてもらい、生涯スポーツとしてサッカー普及の実現を目指すもの。

当日はゲスト選手としてSAMURAI BLUE（日本代表）の谷口彰悟選手、大橋祐紀選手、なでしこジャパン（日本女子代表）の熊谷紗希選手、初木結花選手、植木理子選手が参加し、JFAコーチの下、子どもたちとのプログラムを楽しんだ。

## 【JFA×KIRIN キリンファミリーチャレンジカップ2025を開催

JFAは5月31日、高円宮記念JFA夢フィールドで、JFAオフィシャルトップパートナーのキリンホールディングス株式会社（以下、キリン）と共催で「キリンファミリーチャレンジカップ」を開催した。第6回となる同大会には、SAMURAI BLUEの遠藤航選手、鈴木彩艶選手のほか、元日本代表の森脇良太さん、柏木陽介さんがゲストとして参加した。

キリンファミリーチャレンジカップは、「家族がチームになる日」をコンセプトにした、家族や仲間と楽しむウォーキングフットボールイベント。2022年12月に高円宮記念JFA夢フィールドで行った第1回以降、全国で計5回開催してきた。これまで1~83歳まで計1,700人を超える幅広い年齢の人々が家族や仲間たちとチームを組んで参加し、毎回、会場はたくさんの笑顔であふれ、初めて出会った人たちもウォーキングフットボールを通じて交流を育んできた。今後も日本各地で開催する予定。

### 【<JFA×KIRIN>キリンファミリーチャレンジカップ 2025 in 千葉開催概要】

主催：公益財団法人日本サッカー協会、キリンホールディングス株式会社

場所：高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県千葉市美浜区美浜11）

開催日：2025年5月31日（土）

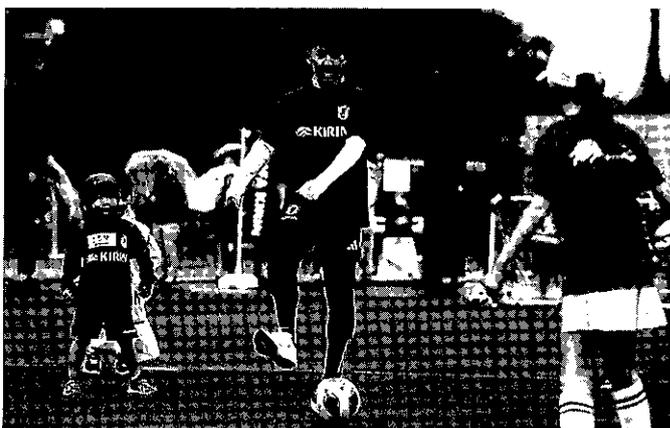
実施内容：5人制ゴールキーパーなしのウォーキングフットボール（JFA

### 推奨ルール）

対象：単独または複数の家族や仲間で開催された5人以上10人以下のチーム。試合は1チーム5名で実施するが、そのうち①小学生以下、②20歳以上の男性、③20歳以上の女性の各1名以上が常時ピッチ上で試合に出場することが条件となる。

募集チーム数：32チーム

参加料：無料



SAMURAI BLUEの遠藤選手（中央）らも参加

## 【三井不動産レジデンシャル「日本代表サッカークリニック」に協力

JFAの協力で5月31日、「日本代表サッカークリニック」が東京都江東区にあるMIFA Football Park豊洲で開催された。

これは、JFAメジャーパートナーの三井不動産株式会社のグループ会社である三井不動産レジデンシャル株式会社が推進する、東京湾岸エリアの活性化を目的としたまちづくり推進プロジェクト「WANGAN ACTION

プロジェクト」の一環として行われたもので、当日はSAMURAI BLUEの田中碧選手、藤田譲瑠チマ選手、元日本代表の福西崇史さんが講師を務め、約100名の小学生を対象にサッカークリニックを実施。ウォーミングアップを通じた基本スキルの指導のほか、代表選手との5vs1チャレンジやミニゲームを通して交流を楽しんだ。

## 【モータースポーツの「SUPER GT MALAYSIA 2025」でSAMURAI BLUE応援グッズの販売ブースを出展

JFAは、6月26日から28日にマレーシアで開催される「SUPER GT MALAYSIA 2025」の会場にSAMURAI BLUE応援グッズの販売ブースを出展する（5月26日発表）。

SUPER GTは、日本のみならず海外でも開催されているモーターレースのシリーズ戦。2020年以降はコロナ禍の影響で海外開催が見送られてきたが、今年は「SUPER GT MALAYSIA 2025」として12年ぶりにマレーシアで開催される。

レース前日の6月26日とレースが行われる同27・28日の3日間、「NIHON MATSURI（日本祭り）」と銘打ったイベントが開催される予定で、JFAはその隣の主要スポンサーが集まるAutoShowcaseエリアにブースを出展。レプリカユニフォームやタオルマフラー、日本ならではの法被などSAMURAI BLUE応援グッズを販売する。アジアトップレベルのSAMURAI BLUEをPRするとともに、アジアの日本サッカーファンとの交流をより一層深めていく考えだ。



## 9月のアメリカ遠征でメキシコ代表、アメリカ代表との対戦が決定

SAMURAI BLUE(日本代表)は9月6日、アメリカのカリフォルニア州オークランドでメキシコ代表と、同日にオハイオ州コロンバスでアメリカ代表と国際親善試合を行う(5月14日発表)。

### ■国際親善試合 対 メキシコ代表 開催概要

試合日 : 2025年9月6日(土)  
キックオフ : 現地時間19:00(日本時間7日11:00)  
会場 : Oakland-Alameda County Coliseum(オークランド・コロシアム)(カリフォルニア州オークランド)  
対戦 : メキシコ代表 対 SAMURAI BLUE(日本代表)  
テレビ放送 : 調整中

### ■国際親善試合 対 アメリカ代表 開催概要

試合日 : 2025年9月9日(火)  
キックオフ : 現地時間19:37(日本時間10日8:37)予定  
会場 : Lower.com Field(Lower.com フィールド)(オハイオ州コロンバス)  
対戦 : アメリカ代表 対 SAMURAI BLUE(日本代表)  
テレビ放送 : 調整中

### ●森保一SAMURAI BLUE 監督コメント

FIFAワールドカップ本番を見据えた世界トップレベルの対戦相手と素晴らしい環境で試合を行えることに感謝を申し上げます。  
ワールドカップに向けてチーム強化を進める私たちにとって非常に重要な試合となりますし、われわれの現在地を知る絶好の機会になります。今回対戦するメキシコ代表、アメリカ代表は両国とも世界的な名将に率いられた素晴らしいチームです。われわれのSAMURAI BLUEとはFIFAランキングで順位が近く、似通った立ち位置にいると思います。これらの相手に確実に勝ち、さらに高みを目指したいと思います。2026年のワールドカップ本番で最高の景色を見るための準備を選手・スタッフ全員で行ってまいります。

### ※参考：対戦関連データ

- ・メキシコ代表  
FIFAランキング(2025年4月3日更新)：17位  
過去の対戦成績：日本の1勝0分け4敗(5得点9失点)
- ・アメリカ代表  
FIFAランキング(2025年4月3日更新)：16位  
過去の対戦成績：日本の2勝0分け1敗(7得点4失点)

## U-22日本代表



## 7月の海外遠征でU-22サウジアラビア代表、U-22ウズベキスタン代表との対戦が決定

2028ロサンゼルスオリンピックを目指すU-22日本代表は、7月25日(金)にウズベキスタンのタシュケントでU-22サウジアラビア代表と、同日(月)、U-22ウズベキスタン代表と対戦する。日本、サウジアラビア、ウズベキスタンの3チームによる総当たり方式の国際親善試合となる。なお、当初は6月に海外遠征を行う予定だったが7月に変更となった(5月13日発表)。

### 【U-22日本代表 国際親善試合 概要】

日時：2025年7月25日(金)キックオフ時間未定  
対戦：U-22日本代表 対 U-22サウジアラビア代表  
会場：JAR Stadium(ウズベキスタン/タシュケント)

日時：2025年7月28日(月)キックオフ時間未定  
対戦：U-22日本代表 対 U-22ウズベキスタン代表  
会場：JAR Stadium(ウズベキスタン/タシュケント)

### ●大岩剛U-22日本代表監督コメント

いよいよ2028年ロサンゼルスオリンピックを目指すチームが始動します。まずは9月に控えるAFC U23アジアカップ予選に向けて、アジアの強豪2カ国との対戦で自分たちの力を試す機会にもなるので、実りある遠征にできるようしっかり準備したいと思います。  
今回の遠征で選手個人はもちろん、チームとしての成長につながると考えていますので、いろいろなことに積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

## AFC U23 アジアカップサウジアラビア2026 予選の組み合わせが決定

今年9月に開催されるAFC U23アジアカップサウジアラビア2026予選の組み合わせ抽選会がマレーシアのクアラルンプールで行われ、日本はグループBに入り、クウェート、ミャンマー、アフガニスタンと同組になった。本大会には予選各グループ1位の11チームと、各グループ2位のうち成績上位の4チームにホスト国のサウジアラビアを加えた16チームが出場する(5月29日発表)。

### 【グループ組み合わせ】

- 【グループA】 A1：ヨルダン、A2：トルクメニスタン、A3：チャイニーズ・タイペイ、A4：ブータン
- 【グループB】 B1：日本、B2：クウェート、B3：ミャンマー、B4：アフガニスタン
- 【グループC】 C1：ベトナム、C2：イエメン、C3：シンガポール、C4：バングラデシュ

[グループD] D1: オーストラリア、D2: 中国、D3: 東ティモール、D4: 北マリアナ諸島

[グループE] E1: ウズベキスタン、E2: パレスチナ、E3: キルギス、E4: スリランカ

[グループF] F1: タイ、F2: マレーシア、F3: レバノン、F4: モンゴル

[グループG] G1: イラク、G2: カンボジア、G3: オマーン、G4: パキスタン

[グループH] H1: カタール、H2: バーレーン、H3: インド、H4: ブルネイ

[グループI] I1: アラブ首長国連邦(UAE)、I2: イラン、I3: ホンコン・チャイナ、I4: グアム

[グループJ] J1: 韓国、J2: インドネシア、J3: ラオス、J4: マカオ

[グループK] K1: タジキスタン、K2: シリア、K3: フィリピン、K4: ネパール

※下線チームは各グループのホスト(予選開催国)チーム

●グループB マッチスケジュール

第1戦: **日本** 対 アフガニスタン、クウェート 対 ミャンマー

第2戦: アフガニスタン 対 クウェート、ミャンマー 対 **日本**

第3戦: **日本** 対 クウェート、ミャンマー 対 アフガニスタン

●大岩剛U-22日本代表監督コメント

AFC U23アジアカップ予選の組み合わせが決まり、どのグループを見ても簡単なグループは一つもないので、厳しい戦いになると思います。予選で対戦する3チームは力がありますし、予選といえども対戦相手だけでなく、暑さや環境面も含めて準備をしなければなりません。その中でも来年のアジアカップに向けて、しっかり勝ち上がれるよう選手、スタッフと共にしっかり準備をして戦っていききたいと思います。

U-20日本代表

[https://www.jfa.jp/national\\_team/u20\\_2025/](https://www.jfa.jp/national_team/u20_2025/)



FIFA U-20ワールドカップチリ2025のグループステージ組み合わせが決定

9月27日から10月19日に開催されるFIFA U-20ワールドカップチリ2025の組み合わせ抽選会がチリのサンティアゴで行われ、日本はグループAに入り、チリ、ニュージーランド、エジプトと同組になった(5月30日発表)。

[グループステージ組み合わせ]

[グループA] A1: チリ、A2: ニュージーランド、A3: **日本**、A4: エジプト

[グループB] B1: 韓国、B2: ウクライナ、B3: パラグアイ、B4: パナマ

[グループC] C1: ブラジル、C2: メキシコ、C3: モロッコ、C4: スペイン

[グループD] D1: イタリア、D2: オーストラリア、D3: キューバ、D4: アルゼンチン

[グループE] E1: アメリカ、E2: ニューカレドニア、E3: フランス、E4: 南アフリカ

[グループF] F1: コロンビア、F2: サウジアラビア、F3: ノルウェー、F4: ナイジェリア

●マッチスケジュール(時間は現地時間)

第1戦 9月27日(土)17:00 対 U-20エジプト代表

会場: Estadio Nacional Julio Martínez Prádanos

第2戦 9月30日(火)20:00 対 U-20チリ代表

会場: Estadio Nacional Julio Martínez Prádanos

第3戦 10月3日(金)20:00 対 U-20ニュージーランド代表

会場: Estadio Elias Figueroa Brander

※各グループ上位2チームと各グループ3位のうち成績上位の4チームがノックアウトステージに進出

●船越優蔵U-20日本代表監督コメント

FIFA U-20ワールドカップの組み合わせが決定しました。開催国のチリをはじめ、ニュージーランド、エジプトと非常にタフなグループに入ったと思います。しかし、それ以上に強豪国と真剣勝負をすることで、選手とチームの成長スピードが上がるのが非常に楽しみです。まずはグループステージを突破し、1試合でも多く戦い経験を積むこと、そしてその後のSAMURAI BLUEで活躍できる選手がたくさん出てくるような大会にしたいと思います。ワールドカップという最高の舞台で持っている力を存分に発揮し、躍動する姿をお見せできるよう、しっかりと準備して臨みたいと思います。

U-17日本代表

[https://www.jfa.jp/national\\_team/u17\\_2025/](https://www.jfa.jp/national_team/u17_2025/)



FIFA U-17ワールドカップカタール2025のグループステージ組み合わせが決定

11月3日から27日に開催予定のFIFA U-17ワールドカップカタール2025の組み合わせ抽選会が5月25日、カタールのドーハで行われた。日本はグループBに入り、モロッコ、ニューカレドニア、ポルトガルと同組になった。同大会は、前回大会の28チームから48チームに拡大され、4チームずつ12グループに分かれてグループステージを実施し、各グループ上位2位と3位のうち成績上位8チームの合計32チームがノックアウトステージに進出する。

[グループステージ組み合わせ]

[グループA] カタール(ホスト)、イタリア、南アフリカ、ボリビア

[グループB] **日本**、モロッコ、ニューカレドニア、ポルトガル

[グループC] セネガル、クロアチア、コスタリカ、アラブ首長国連邦(UAE)

[グループD] アルゼンチン、ベルギー、チュニジア、フィジー

[グループE] イングランド、ベネズエラ、ハイチ、エジプト

[グループF] メキシコ、韓国、コートジボワール、スイス

[グループG] ドイツ、コロンビア、朝鮮民主主義人民共和国、エルサルバドル

[グループH] ブラジル、ホンジュラス、インドネシア、ザンビア

[グループI] アメリカ、ブルキナファソ、タジキスタン、チェコ

[グループJ] パラグアイ、ウズベキスタン、パナマ、アイルランド共和国

[グループK] フランス、チリ、カナダ、ウガンダ

[グループL] マリ、ニュージーランド、オーストラリア、サウジアラビア

### ●マッチスケジュール

第1戦 対 U-17モロッコ代表

第2戦 対 U-17ポルトガル代表

第3戦 対 U-17ニューカレドニア代表

会場はすべてカタール/アスパイアアカデミー

### ●廣山望U-17日本代表監督コメント

FIFA U-17ワールドカップカタール2025の組み合わせが決定し、アフリカチャンピオンのモロッコ、ヨーロッパの強豪ポルトガル、オセアニア代

表のニューカレドニアとの対戦が決まりました。それぞれスタイルの異なる相手との真剣勝負は大変楽しみです。

世界のトップレベルとの戦いという最高の舞台で、選手が躍動してグループステージを突破し、さらに勝ち上がることで、貴重な経験と自信を積み上げ、将来のSAMURAI BLUEでの活躍につながるような成長を遂げる機会にできればと強く思います。まずは、大会までの残りの5カ月間、選手たちが、代表活動、そして所属チームでの日常で意識を更に変化させ、心身共に大きく強くなった状態で大会に臨めることを期待しています。

## なでしこジャパン(日本女子代表)

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>



### 6月にスペイン女子代表との国際親善試合を実施

なでしこジャパン(日本女子代表)は6月27日、にスペインのマドリードでスペイン女子代表と対戦することが決定した(5月23日発表)。

#### 【開催概要】

日時 : 2025年6月27日(金) 21:00キックオフ(予定)

※日本時間6月28日(土) 4:00

対戦 : なでしこジャパン(日本女子代表) 対 スペイン女子代表

会場 : Butarque Stadium(スペイン/マドリード)

テレビ放送 : ABEMAにて生配信

### ●ニルス・ニールセン監督コメント

スペインは2023年のFIFA女子ワールドカップ王者であり、日本が再び世界の頂点に立つためには、いずれ必ず対峙し乗り越えなければならない相手です。今回、UEFA Women's EURO 2025の優勝候補としてスイスに向かう直前の彼女たちとの対戦は、将来的にブラジルでのワールドカップで再びスペインと対戦する可能性を見据え、われわれがどこを改善すべきかを知る貴重な機会になります。日本とスペインは、ボール

保持を通じて主導権を握って攻撃を構築しようとする点で共通していますが、われわれは単にスペインのスタイルを模倣することが目標ではありません。日本は技術的なパスワークやボールコントロールに加え、規律やチームとしての強いメンタリティを融合させることで、独自のアイデンティティを築こうとしています。これらの要素に絶え間ない努力を加えることで、唯一無二のスタイルをつくり上げていきたいと考えています。だからこそ、今回のスペイン戦はファンの皆さんにとっても非常に興味深い試合になるはずです。楽しんでいただくとともに、応援をよろしくお願いします。

皆さんの応援は、いつもなでしこジャパンの力になっています。FIFAランキング2位で絶好調のチームと対戦するこの試合は、私たちにとって大きな挑戦となります。

※対戦国関連データ：スペイン女子代表

・FIFAランキング(2025年3月6日更新)：2位(日本：5位)

・過去の対戦成績：日本の1勝1分け4敗(8得点9失点)

## 審判員

<https://www.jfa.jp/referee/>



### 審判交流プログラム～ドイツより審判員を招聘

JFAはJリーグと協働し、ドイツサッカー連盟との「審判交流プログラム」として、下記2名の審判員を招聘した(5月15日発表)。

#### 【審判交流プログラム 概要】

招聘期間：2025年5月14日(水)～6月10日(火)

来日メンバー：

<審判員>

●BADSTUEBNER Florian(フロリアン・バドストゥーブナー)

1991年2月2日生まれ

・2020年～現在 ブンデスリーガ(58試合)

・2016～2019年 ブンデスリーガ2(67試合)

・2025年 国際審判員登録

●PETERSEN Martin(マルティン・ペーターセン)

1985年2月28日生まれ

しょうへい

・2017年～現在 ブンデスリーガ(76試合)

・2011～2016年 ブンデスリーガ2(110試合)

割り当て予定試合：明治安田J1リーグ 第17節～第19節

明治安田J2リーグ 第17節

JリーグYBC ルヴァンカップ3回戦

※審判交流プログラム：JFAは、審判員やインストラクターの国際経験を積むため、2008年より海外のサッカー協会や連盟と「審判交流プログラム」を提携し、各国との国際交流と共に国際経験の機会創出に注力している。派遣される審判員は、海外でのリーグ戦や国際試合を担当し、現地のインストラクターの指導を通して、技術向上を図り、異なる文化や環境下でも審判ができる柔軟性や適応力を養うことを目的として活動する。また、海外から日本に招聘した審判員はJリーグやWEリーグ、国際試合を担当する。

## 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>



### Jリーグと日本財団 サステナビリティ領域における連携協定を締結

Jリーグと日本財団は5月9日、日本のスポーツ界におけるサステナビリティへの取り組みの機運を高めるため、「サステナビリティ領域における連携協定」を締結した。本協定は、日本財団の「海洋」「国際」「子ども」「災害」「障害」「社会」などの活動領域と、Jリーグがサステナビリティ推進事業として進める「気候アクション」「インクルーシブ社会の実現」「地域コミュニティの醸成」という3つのテーマが重なる領域について、継続的に連携していくことを目的としている。

連携の第一ステップとして、「PLANET/気候アクション」における連携事業を2025年度に開始する。Jリーグは日本財団からの助成金を活用し、「Jリーグサステナビリティ事業活性化プロジェクト」を発足し、Jリーグ全60クラブの気候アクションを支援・促進していく。また、気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性を把握できる仕組み「Sport Positive Leagues(スポーツポジティブリーグ、略称SPL)」に2026年1月から参画すべく推進していく。また、日本財団は2025年7月に開催される「明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団」において、困難に直面する子どもたちの招待など「PEOPLE/子ども・障害者領域」の施策を実施する他、地震や豪雨災害などの発災時に全国のJクラブが被災地を支援できる物資支援のプラットフォームの構築など「COMMUNITY/社会基盤づくり(災害、人材)領域」に両者で取り組む予定。

#### ■連携協定に至った背景

日本財団は60年以上にわたり、国内外の社会課題解決に取り組むNPO等の非営利団体による事業への資金助成をはじめ、新たな社会課題の調査と解決のための実践を行っている。2017年に「HEROs~Sportsmanship for the future~」(以下、HEROsプロジェクト)を発足し、アスリートやスポーツ団体と共に子どもや障害、災害、環境といった領域において社会課題解決に向けた取り組みを行ってきた。HEROsプロジェクトを通じて60競技300名以上もの国内アスリートや100以上のスポーツチームと連携し、スポーツを通じた社会課題の解決を推進している。

Jリーグは開幕以来、全国60のJクラブが2万試合を超えるプロサッカー興行を営み、年間1250万人以上の来場者がスタジアムを訪れる。それだけでなく、スポーツを通じた地域活性化に向け、地域やファン・サポーターの協力により、長年にわたり環境保全や社会課題解決、地域振興に関連する活動を実施してきた。近年ではパートナー企業の協力も得て、2023年からは

年間約1200試合の全ての公式試合においてスタジアムで排出される電力由来のCO2を実質ゼロにするなど気候アクションの推進に注力している。これまでも日本財団の推進する「HEROs PLEDGE」事業にJリーグの14クラブが参加するなど、さまざまな形で連携してきたが、今後は両団体の強みを最大限に生かし、「持続可能な社会の実現」という両団体共通の目標に向けサステナビリティ領域の活動をさらに加速させるべく、連携協定に至った。

#### ■連携協定の概要

- 名称:「Jリーグ・日本財団 サステナビリティ領域における連携協定」
- 連携目的:両者の活動領域が重なる「PEOPLE/子ども・障害者」、「COMMUNITY/社会基盤づくり」、「PLANET/気候アクション」の3つの領域での取組を中長期的な視点で推進
- 連携内容:共通ゴール=スポーツ・アスリートの力を活用した持続可能な社会の実現  
 [取り組みの柱1] PEOPLE(子ども・障がい者)…地域コミュニティによる子ども支援、子どもへのスポーツ機会の提供、障害理解の促進  
 [取り組みの柱2] PLANET(気候アクション)…気候アクション、廃棄物削減、循環型社会のショーケース化  
 [取り組みの柱3] COMMUNITY(社会基盤づくり)…災害支援、社会課題解決の担い手の育成
- 両団体の強み:

	日本財団	Jリーグ
活動理念	市民、企業、NPO、政府など、あらゆるネットワークに働きかけ、知識・経験・人材をつなぎ、「みんなが、みんなを支える社会」を実現する	・日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進 ・豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与 ・国際社会における交流及び親善への貢献
活動領域	海洋、国際、子ども、災害、災害、社会	サステナビリティ領域として PLANET、PEOPLE、COMMUNITY
強みやアセット	・60年以上の社会課題解決の知見 ・社会課題解決領域におけるNPOや企業、行政とのネットワーク ・これまでに約10万の社会貢献事業に対し、累計約2兆円を助成	・日本全国60クラブのネットワークを基にした発信力 ・年間3万回を超えるホームタウン活動、3,000回を超えるシャレン!活動を実施する活動量 ・リーグ全体で推進する気候変動対策(気候アクション)

### 2025 Jリーグシャレン! アウォーズの各賞決定

Jリーグは5月19日、全国のJクラブのホームタウン・社会連携(シャレン!)活動の中から、特に社会に幅広く共有したい活動を表彰する「2025 Jリーグシャレン! アウォーズ」(後援:スポーツ庁)を開催し、各賞を決定した。

Jリーグシャレン! アウォーズは今年で6回目の開催。地域に根差したスポーツクラブとして、多くの協働者と連携し、各地域で抱える課題に対する取り組みやその活動に関する発信など、クラブが行う多種多様な社会連携活動を称える目的で実施している。2025年は2024シーズンに行われた3,700を超える活動のうち、Jリーグ58クラブ(2025年新加入の栃木Cと高知は除く)よりエントリーのあった活動の中から選考の上、6クラブの受賞を決定した。

なお、多くのファン・サポーターが、個性あふれるJクラブのシャレン!活動の中から魅力的な活動や応援したい活動を選ぶ「ファン・サポーター選考賞」では、昨年と同様、特設ページを通じて1人最大2票を投じる形で選考を実施。合計17,000票を超える投票があった。

#### ■2025 Jリーグシャレン! アウォーズ・各賞発表

賞	活動	クラブ名
ソーシャルチャレンジャー賞	「NO PLANET, NO TOKYO」が描く未来。少年たちの夢を育む「HIGH HOPE」	FC東京
パブリック賞	“街なかスタジアム”開業に伴う、横川商店街の逆襲	サンフレッチェ広島
メディア賞	被爆地のプロスポーツクラブ(Jリーグクラブ・B.LEAGUEクラブ)として、自治体・高校生とともに日本全国、世界、そして次世代へと発信する平和へのメッセージ	V・ファーレン長崎
明治安田地元の元気賞	ヴァンラーレ八戸「School Trip Day」	ヴァンラーレ八戸
クラブ選考賞	「声」のチカラを起点に高齢者が輝き活躍する地域へ! O-60モンテディオやまびこ	モンテディオ山形
ファン・サポーター選考賞	2,000人の“一歩”が次の日からの日常を変えていく! 『TAKE ACTION Week!』	アビスパ福岡

※その他の詳細は下記参照

<https://www.jleague.jp/sharen/article/3050/>



## Ｊリーグ地域再生可能エネルギー推進助成、プロスポーツクラブによる初の「スポーツ×再生可能エネルギー×農業」を組み合わせた取り組み

Ｊリーグは、気候アクション推進の一環で、Ｊクラブが実施する再生可能エネルギー事業に特化した活動を対象に「Ｊリーグ地域再生可能エネルギー推進助成制度」を2024年に新設し、応募を受け付けていた。5月22日、Ｊクラブ初の助成交付事業となるガイナレ鳥取による「彦名堂農型太陽光発電所事業（通称 しばふる太陽光発電所）」の開所式が鳥取県米子市で行われ、交付事業が開始された。

本事業は「スポーツ×再生可能エネルギー×農業」の3要素から成り、プロスポーツクラブが地域の電力事業者と共同で農型太陽光発電所事業（ソーラーシェアリング事業）を行う形は国内でも初の取り組み（Ｊリーグ調べ）。交付第1号となるガイナレ鳥取による事業は、耕作放棄地の解消と地域の再エネ創出を実現する新しい地域貢献の形として期待されている。

### 【Ｊリーグ地域再生可能エネルギー推進助成制度】

名称：Ｊリーグ地域再生可能エネルギー推進助成金  
対象活動：地域の自然資源（太陽光、風力、水力、地熱等）を活用した再生可能エネルギー普及および地域内循環促進のための発電設備の新設および拡張等のプロジェクトであること。原

則、申請Ｊクラブのホームタウンで実施され、申請受け付け開始日2024年1月1日以降に実施される事業。

助成金額：助成制度総額2000万円／年、1クラブ上限1,000万円  
対象活動費用の50%に対して支給。1クラブあたりの上限額は1,000万円

審査：有識者委員会による審査を経て決定

評価項目例：  
・助成事業の実施内容の適切性…助成対象事業の内容（設備内容、設備容量、設置場所等）、助成事業の実施による地域内外への効果、電力供給スキームの適切性等  
・実施体制や費用等の適正性…助成事業を適切に行うための体制、費用や請負会社の選定方法の適正性・合理性、助成事業に必要な許認可やガイドライン順守状況等

●ガイナレ鳥取「彦名堂農型太陽光発電所事業」の詳細はこちら

<https://www.gainare.co.jp/news/detail/25471/>



## 「U-21 Jリーグ」創設を決定、東西2リーグ制で2026/27シーズンに開始

Ｊリーグは5月27日の理事会において、ポストユース（19歳～21歳）および周辺年代の選手育成・強化を目的として、21歳以下の選手を主な対象とする大会「U-21 Jリーグ」（仮称）の創設を決定した。「U-21 Jリーグ」は2026/27シーズンに開始し、東西2リーグ制で計11クラブが参加予定。

### ■「U-21 Jリーグ」創設の目的・背景

日本サッカーにおいて、18歳まではＪユースや高校サッカーを通して継続的な出場機会が確保できている中、19歳以降（高校卒業以降）は大学サッカー等に進むか、プロリーグに進むかの限られた選択肢の中で適正なプレー環境を確保する難しさがある。プロ選手としての可能性を高めるために重要な期間である19歳から21歳の選手に対して、「年間を通して90分フル出場できる機会」「試合→休息→トレーニング→試合のサイクル」「観られている状況での真実勝負」といった適正なプレー環境を確保し、日本サッカー全体の可能性を最大化するために、「U-21 Jリーグ」の創設を決定した。

### ■参加予定クラブ（計11クラブ）

浦和レッズ、FC東京、東京ヴェルディ、川崎フロンターレ、清水エスバル

ス、ジュビロ磐田、名古屋グランパス、ガンバ大阪、ヴィッセル神戸、フジアーノ岡山、V・ファーレン長崎

### ■大会構想（抜粋／2025年5月27日時点）

#### ●概要

・名称：U-21 Jリーグ（仮称）  
・有観客での開催および全試合インターネット配信  
・2027/28シーズン頃まではさまざまな緩和措置を設定（選手年齢、試合会場等）

#### ●開催時期

・2026/27シーズンに開始  
・8月から9月頃に開幕し、4月頃に閉幕  
・土曜日から月曜日の開催を基本とする

#### ●大会方式

・東西2リーグ制  
・同リーグ内でのホーム&アウェイ（2試合）+他リーグとのホームorアウェイ（1試合）  
・各リーグ上位によるプレーオフを実施

## 2025/26シーズンAFCクラブライセンス判定結果

AFCクラブライセンス判定の結果、FC町田ゼルビア、川崎フロンターレ、横浜F・マリノス、ガンバ大阪、ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島スの6クラブに対して、2025/26シーズンのAFCクラブライセンスが交付された

（5月27日発表）。AFCクラブライセンスは、J1クラブライセンスと同様、クラブから提出された申請書類に基づき、Ｊリーグから独立した第三者機関であるクラブライセンス交付第一審機関（FIB）で判定される。

## Jリーグインパクトレポート2024を発行

Ｊリーグは、サステナビリティ活動に特化した年次報告書として、新たに「Jリーグインパクトレポート」を発行し、2024年度の活動を報告した。

新たに発行する「Jリーグインパクトレポート」は、ホームタウン活動調査報告書を発展させる形で、「気候アクション／PLANET」「インクルーシブな社会の実現／PEOPLE」「地域コミュニティの醸成／COMMUNITY」というサステナビリティに関する3つの重点テーマに沿って実施状況を報告するとともに、短期、中期、長期という3つの時間軸で策定したロード

マップを掲載することで、今後の目指すべき姿やその道筋を発信。次号以降は、環境や地域社会にどのような変化や効果をもたらしたのかにも目を向け、重点テーマごとのロードマップの進捗状況を報告する。

タイトル：Jリーグインパクトレポート 2024 サステナビリティ活動に関する報告書

発行日／頁：2025年5月／全50ページ

発行頻度 : 年次報告を予定  
掲載内容 : Jクラブ・Jリーグのサステナビリティ活動  
制作協力 : KPMG コンサルティング株式会社  
公開形態 : Jリーグコーポレートサイトに電子版を公開  
主な内容 : Jリーグが目指す世界観、ミッション実現のための歩み、3つのテーマの取り組みと共創事例、Jリーグが今後もたらすインパクト

掲載URL : [https://about.jleague.jp/corporate/assets/pdf/sustainability/impact\\_report\\_2024.pdf](https://about.jleague.jp/corporate/assets/pdf/sustainability/impact_report_2024.pdf)

※本レポートは日本財団の助成事業



## ■ ミャンマー地震に対する支援

Jリーグは、3月に発生したミャンマー地震の被災に伴い、JFAと共にミャンマーサッカー連盟に2万ドルの支援金を拠出することを決定した。地震発生後、JFAと共に現地の被災状況に関する調査を行い、マンダレイ地区にあるミャンマーサッカー連盟のアカデミーの建物の倒壊や、ミヤ

ンマー代表選手ならびにミャンマーナショナルリーグ所属クラブのトップチーム、アカデミー所属の選手・スタッフが被災するなど、広範囲におよぶ被災状況が明らかになったことから支援を決定した(5月28日発表)。

## ■ 東急不動産株式会社と気候アクションパートナー契約を締結

Jリーグは、東急不動産株式会社(以下、東急不動産)と気候アクションパートナー契約を締結した(5月29日発表)。契約開始日は2025年4月1日。

### ■ パートナー締結の背景

Jリーグは、“未来の地球にいいパスを”を掲げ、サッカーがある風景を守り、持続可能な形で発展していくことを目指し、自治体や企業、ファン・サポーターを巻き込みながら、気候変動問題や地域課題の解決に取り組んでいる。2023年5月には、Jリーグ・Jクラブが行う気候アクションの推進や気候変動対策への興味・関心の喚起、さらには人々との日々の行動変容への寄与を目指し、気候アクションに特化した「Jリーグ気候アクションパートナー」を新設した。

東急不動産が推進する「ReENE」は、日本全国で150事業・定格容量1,963MW(2025年4月末基準、開発中案件を含む)の規模の再エネ事業を展開しており、「地域との共生と相互発展」を目指して、各地域での課題解決を見据えた再生可能エネルギー(以下、再エネ)の導入や、環境教育活動等を通じた地域活性化に取り組んでいることから、高い親和性を感じ、「Jリーグ気候アクションパートナー」の契約締結に至った。

### ■ 契約概要

本契約を基に、Jリーグの掲げる気候アクション大方針である「気候変動問題の解決と地域創生の両方に寄与する気候アクションを推進すること」に向けて、以下の取り組みを双方連携の上で実施する。

- ・ 地域の子供たちを対象とした環境教育授業の共同実施
- ・ 全国規模での環境PRイベントの企画・共同実施
- ・ 東急不動産が保有する再エネ発電所由来の環境価値のスタジアムへの提供検討
- ・ その他両者で取り決めた内容

### ■ 環境教育授業について

Jリーグ選手OBや東急不動産およびリエネ社員が講師となり、全国各地の小学校高学年を対象に2025年秋以降に複数回実施。授業の中では、「気候変動」をテーマに、それぞれの知見を生かした解説を行い、参加者との意見交換や交流を通じた学びの機会を提供。双方のアセットを生かしてより多くの人々に環境に対する啓発活動を行うとともに、地域資源を活用した再エネの普及・拡大および地域活性化に向け、取り組みを広げていく。

## 日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)

<https://weleague.jp/>



## ■ 2024-25 WEリーグ公式戦、年間総入場者数過去最多337,290人を記録

2024-25シーズンのWEリーグ年間総入場者数が過去最多の337,290人を記録した(5月17日発表)。

### 【2024-25 シーズンWEリーグ公式試合 入場者数一覧】

大会名	総入場者数	試合数	平均入場者数
2024-25 SOMPO WEリーグ	282,221	132	2,138
2024-25 WEリーグ クラシエカップ	55,069	33	1,669
計	337,290	165	2,044

※これまでの年間総入場者数最多は2023-24シーズンの271,878人/全163試合

### ■ 過去WEリーグ公式試合入場者数一覧

シーズン	総入場者数	試合数	平均入場者数
2021-22	171,601	110	1,560
2022-23	180,284	136	1,326
2023-24	271,878	163	1,668

※2021-22シーズンはリーグカップ戦の開催なし

## ■ 2024-25 WEリーグアウォーズの各賞受賞者決定！ 最優秀選手賞は山本柚月(東京NB)が受賞

WEリーグは5月19日、2024-25 WEリーグアウォーズを開催し、下記の通り、各賞の受賞者が決定した。

### 【2024-25 WEリーグアウォーズ開催概要】

開催日時：2025年5月19日(月) 17:30~19:00

内容：2024-25 SOMPO WEリーグ各賞の発表をWEリーグ公式YouTubeチャンネルでライブ配信

■2024-25 WEリーグ各賞受賞者

●2024-25 SOMP O WEリーグ優勝

日テレ・東京ベレーザ ※初優勝

●最優秀選手賞 (MVP)

MF 山本柚月 (日テレ・東京ベレーザ) ※初受賞

●ベストイレブン

GK 池田咲紀子 (三菱重工浦和レッズレディース) ※初受賞

DF 遠藤優 (三菱重工浦和レッズレディース) ※2年連続2回目

DF 石川璃音 (三菱重工浦和レッズレディース) ※3年連続3回目

DF 土光真代 (INAC神戸レオネッサ) ※初受賞

MF 北村菜々美 (日テレ・東京ベレーザ) ※初受賞

MF 菅野奏音 (日テレ・東京ベレーザ) ※初受賞

MF 山本柚月 (日テレ・東京ベレーザ) ※初受賞

MF 成宮唯 (INAC神戸レオネッサ) ※3年ぶり2回目

FW 高橋はな (三菱重工浦和レッズレディース) ※3年ぶり2回目

FW カルロタ スアレス (INAC神戸レオネッサ) ※初受賞

FW 中嶋淑乃 (サンフレッチェ広島レジーナ) ※初受賞

●得点王

FW カルロタ スアレス (INAC神戸レオネッサ) ※初受賞

●ベストヤングプレーヤー賞

MF 眞城美春 (日テレ・東京ベレーザ)

●最優秀監督賞

松田岳夫 (日テレ・東京ベレーザ) ※初受賞

●MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY

ジェフ千葉レディース ※初受賞

●フェアプレー賞

アルビレックス新潟レディース ※初受賞

●最優秀主審賞

小泉朝香 ※3年連続3回目

●最優秀副審賞

一木千広 ※初受賞

●グラスルーツ賞 受賞クラブ

マイナビ仙台レディース、三菱重工浦和レッズレディース、大宮アルディージャ VENTUS、ちふれ ASエルフェン埼玉、ジェフ千葉レディース、日テレ・東京ベレーザ、ノジマステラ神奈川相模原、AC長野パルセイロ、レディース、アルビレックス新潟レディース、セレッソ大阪ヤンマーレディース、INAC神戸レオネッサ、サンフレッチェ広島レジーナ

●ベストイレブンフォーメーション

ベストイレブン選考方法(2023-24シーズンより変更)：監督および選手投票結果から得票数上位よりDF1名、MF1名、FW1名、右サイド1名、左サイド1名を選出。GKを含むその他6名については、表彰選考委員会にて決定する(選考ポジションは選者が任意で指定。複数ポジションで選出された場合、得票数の多いポジションを採用)

	FW カルロタ スアレス	FW 高橋はな
FW 中嶋淑乃	MF 成宮唯	
	MF 菅野奏音	MF 山本柚月
MF 北村菜々美	MF 菅野奏音	
	DF 石川璃音	DF 遠藤優
DF 土光真代		
	GK 池田咲紀子	

※2024-25 WEリーグアウォーズその他詳細は下記参照

<https://weleague.jp/awards/>



ベストイレブンに選出された選手たち



最優秀選手賞に輝いた山本柚月

## WEリーグシーズンレビュー 2024/25公開

WEリーグは「WEリーグシーズンレビュー2024/25」を公開した。2024/25シーズンにおけるWEリーグの活動やさまざまなデータを掲載し、速やかに情報公開することで、成果や課題を可視化し、WEリーグが目指すべき姿を日本サッカー界全体で考えるきっかけにしたいと考えている。

名称：WEリーグシーズンレビュー 2024/25

発行日：2025年5月29日

発行：公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ

URL：[https://weleague.jp/pdf/about/24-25\\_](https://weleague.jp/pdf/about/24-25_seasonreview.pdf)

[seasonreview.pdf](https://weleague.jp/pdf/about/24-25_seasonreview.pdf)



主な内容：チェアあいさつ、WEリーグの理念と事業構造、年間トピック、フットボール(2024-25 SOMP O WEリーグ/2024-25 WEリーグ クラシエカップ/AFC女子チャンピオンズリーグ/皇后杯/今後の展望と施策)、事業・マーケティング(入場者数/認知度/パートナーとの協業・連携実績/プロモーション施策/メディア関連/今後の展望と施策)、社会連携事業(WE ACTION/渋谷関連/今後の展望)、財務情報

日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)

<https://www.nadeshikoleague.jp/>



プレナスなでしこガールズサッカークリニックを開催

日本女子サッカーリーグは、トップパートナーである株式会社プレナスと「プレナスなでしこガールズサッカークリニック」を開催している。

同クリニックは2018年から開催され、今年で5年目。現役選手も参加し、楽しく安全に楽しむほか、選手が「食」の大切さを伝える食育の時間も設けている。今季は、第21回となるクリニックを4月26日、ディアヴォロッソ広島、公益財団法人広島県サッカー協会の協力を得て東広島運動公園 陸上競技場(広島県)で実施し、5月18日には第22回をFC今治レディース、一般社団法人愛媛県サッカー協会と共にアシックス里山スタジアム(愛媛県)で開催。これまで延べ1,026人が参加している。

日本女子サッカーリーグとプレナスは、今後も、地域の子どもたちの健全な育成を応援する取り組みとして、加盟チーム、都道府県サッカー協会と協力しながらクリニックを全国に展開していく。

●プレナスなでしこガールズサッカークリニック

サッカーボールを初めて蹴る女の子、サッカー経験のある女の子など、誰でも参加できる女の子のためのサッカークリニック。なでしこリーグの選手たちと一緒にドリブルやパス、シュートなどの基本的なトレーニングやミニゲーム(少人数の試合)を楽しみながら、サッカー(スポーツ)と食の大切さを学ぶ。一人でも多くの子どもたちのからだところの元気を育み、サッカーを通して初めて会った人たちと仲良くなれる、女子サッカーの裾野を広げるためのプログラム。

<https://www.nadeshikoleague.jp/soccerclinic/>



【2025年度今後の開催予定】

第23回プレナスなでしこガールズサッカークリニック in 大和

日時：2025年6月29日(日) 会場：神奈川県/大和なでしこスタジアム

第24回 プレナスなでしこガールズサッカークリニック in 磐田(予定)

日時：2025年9月14日(日) 会場：静岡/ヤマハスタジアム



第21回は広島県で開催。ディアヴォロッソ広島の選手たちも参加



クリニック終了後には食育講座を実施。選手と食事の大切さを学ぶ

日本フットサルトップリーグ

メットライフ生命Fリーグ2025-26、メットライフ生命女子Fリーグ2025-26のスポンサーおよびパートナー

2025-26シーズンのメットライフ生命Fリーグおよびメットライフ生命女子Fリーグを支援するスポンサーおよびパートナー各社は下記の通り(5月22日発表)。

【メットライフ生命Fリーグ2025-26】

F.LEAGUE TITLE PARTNER：メットライフ生命保険株式会社

OFFICIAL SPONSOR：アビームコンサルティング株式会社

OFFICIAL BALL SPONSOR：株式会社ミカサ

OFFICIAL PARTNER：株式会社アスレタ、ルートインホテルズ(ルートインジャパン株式会社)、BS日テレ(株式会社BS日本)、株式会社BOKURA

OFFICIAL PR PARTNER：株式会社PR TIMES

OFFICIAL SUPPORT COMPANY：ウェッジ株式会社、株式会社ベアリッジ、株式会社ドワンゴ

【メットライフ生命女子Fリーグ2025-26】

TITLE PARTNER：メットライフ生命保険株式会社

OFFICIAL SPONSOR：アビームコンサルティング株式会社

OFFICIAL BALL SPONSOR：株式会社ミカサ

OFFICIAL PARTNER：株式会社アスレタ、BS日テレ(株式会社BS日本)、株式会社BOKURA

OFFICIAL PR PARTNER：株式会社PR TIMES

OFFICIAL SUPPORT COMPANY：株式会社ドワンゴ

## ホームページがリニューアル、 Fリーグを楽しむための「初めての観戦ガイド」公開

日本フットサルトップリーグは5月22日、メットライフ生命Fリーグの公式ホームページをリニューアルした。リニューアルにあたっては、従来通り、トップページから試合日程・結果・順位表にアクセスできる設計としつつ、各試合のチケット情報によりスムーズにアクセスできるよう改善。フットサルのルールや観戦方法、注目選手、よくある質問など、Fリーグをより楽しむための情報を集約した『初めての観戦ガイド』も新たに公開された。

### ●初めての観戦ガイド

[https://www.fleague.jp/beginner\\_guide/](https://www.fleague.jp/beginner_guide/)



## インドネシアフットサル連盟と戦略的パートナーシップを調印

日本フットサルトップリーグは、松井大輔理事長が掲げる「チェアズ・ミッション」の一つである「グローバルマインド」の具体的な取り組みとして、海外フットサルリーグとの提携を推進している。その第一歩として5月22日、初の提携国となるインドネシアと戦略的パートナーシップ協定を締結した。

インドネシアは日本と同様、男女の全国フットサルリーグがある国であり、最新のFIFAフットサルランキングでは、男子がアジアベスト4、女子が同ベスト5にランクインするなど、近年急速に実力を伸ばしている。日本とインドネシアのフットサル交流は、2002年の「AFCフットサル選手権（ジャカルタ）」にさかのぼり、その後も2014年にはバルドラル浦安がFリーグのクラブとして初めてインドネシアフットサル代表と国際親善試合を実施。さらに、2018年から2022年にかけては、高橋健介氏（現、フットサル日本代表監督）がインドネシア代表3カテゴリーの総監督を務めた。また、森岡薫選手（ベスカドーラ町田）や渡邊知見選手（元立川・府中アスレティックFC）は過去にインドネシアリーグでプレーしたほか、現在もFリーグ出身の指導者1名と選手2名が同国リーグで活躍している。

今回の提携は「フットサルを通じて日本とインドネシア両国の新しい世代の関係を築き、国際平和に貢献すること」「互いのフットサルリーグの持つアセットと価値を持ち寄り、アジアのフットサルを発展させること」を目的とし、さまざまな協働を展開していく。

### 【目的と目標】

インドネシアフットサル連盟と一般社団法人日本フットサルトップリーグは、フットサルによって日本・インドネシア両国の新しい世代の関係を築き国際平和に貢献すること、また互いのフットサルリーグの持つアセットと価値を持ち寄り、アジアのフットサルを発展させることを目的として連携することに合意した。2団体は、今回締結した協定に基づき、以下に掲げる目標を達成できるよう、今後も継続的に協働していく。

1. 選手、指導者、医事スタッフ、アドミニスタッフ等の人材交流
2. クラブやパートナー企業などに関する定期的な情報交換
3. 社会貢献活動、国際的なキャンペーンへの協働
4. SNS等でのPRコラボレーション
5. オンラインセミナー、ワークショップの開催
6. 両リーグ主催カップ戦への参加（育成年代チーム、トップチーム、女子チーム）
7. インターリーグカップの開催
8. この取り組みを広げ、アジア複数国でアライアンスを形成する

## 日本知的障がい者サッカー連盟

<https://jffid.com/>



## 知的障がい者サッカー女子日本代表、 なでしこリーグ前座でエキシビションマッチを実施 ～国内で初めてサッカー日本代表ユニフォームを着用

日本知的障がい者サッカー連盟（JFFID）は、6月1日、大和なでしこスタジアム（神奈川県）で開催される2025プレナスなでしこリーグ2部第13節の前座として、知的障がい者サッカー女子日本代表と大和シルフィードアカデミーによるエキシビションマッチを実施した。

このエキシビションマッチは「大和シルフィードインクルーシブスタジアムDAY～Football For ALL～」の取り組みの一環として行われ、サッカーを通じて、誰もがスポーツを身近に、楽しみ、心身が元気になる一日を目指すもの。大和シルフィードが同テーマの下に実施するのは今年で3回目。

2023年には神奈川県と静岡県の知的障がい者女子サッカーチーム同士のエキシビションマッチ、2024年にはアンパティサッカーチームを招いてのパフォーマンスや体験ブースの出展を実施し、障がいの有無や年齢、ジェンダーにかかわらず、誰もが安心して心地よく過ごせるスタジアム運営を目指し、各種取り組みを継続的に行っている。

また、同日のエキシビションマッチでは、知的障がい者サッカー女子日本代表が国内で初めてサッカー日本代表と同じデザインのユニフォームを着用した（これまでは海外遠征での着用のみ）。



## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り



## 地域活動の成果をまとめた『インパクトレポート』を公開、クリアソン新宿が実現する未来へのロードマップ

クリアソン新宿 広報室・クリエイティブ室 室長 井筒陸也

<https://criacao.co.jp/soccerclub/>

クリアソン新宿は、2005年に大学サッカーサークルのメンバーを中心に創設され、今年で20周年を迎えました。2022年にJFLに参入して4シーズン目。節目となる今年、東京23区をホームタウンにするクラブとして初めてのJリーグ入りを目指しています。

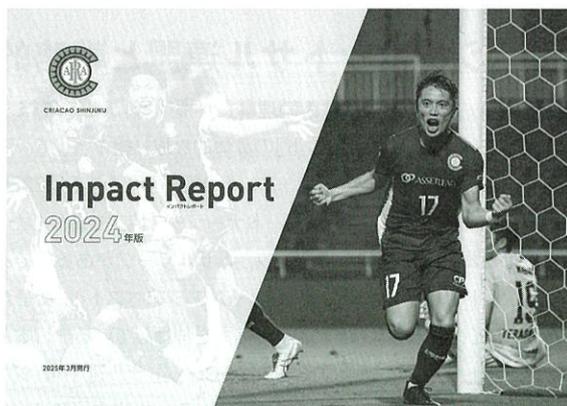
2018年にチーム名に「新宿」を冠し、2020年に新宿区と包括連携を締結して以来、この地で「サッカーは人々を豊かにすることはできるのか?」という問いに挑戦し続けています。具体的には、クリアソンは豊かな社会を実現するためのストーリーの中で、提供できる価値を次の7つに定義しています。

①子ども達のこころとからだの教育・育成環境の整備、②若者が主体となったコミュニティづくり、③企業/社会が求める人材の創出・マッチング、④パートナー企業の従業員の活性化を通じた社会貢献、⑤新宿全体での地域活性化、⑥全ての人に開かれた安心・安全な暮らし(ダイバーシティ/多文化共生)、⑦高齢者の健康増進と地域で支える仕組みづくり(自助・互助・共助・公助)。

これら7つに基づいて、選手・スタッフ・社員が地域・企業を巻き込み、月20~30回程度、その価値創造のためのアクションを起こしています。3月には、前年度の取り組みをまとめたインパクトレポートを初めて発行。われわれのアウトプットが実際にどのようなアウトカム(成果)につながっているのかを可視化するとともに、わ

れわれが実現したい未来への道筋を描いています(クリアソン新宿の『インパクトレポート 2024年版』は公式ウェブサイトよりダウンロードいただけます)。

今シーズンは新たに、アカデミーが地域で塾事業を開始するほか、デフサッカー日本代表との親善試合を開催し、パートナー企業とともに区立小学校29校と区立新宿養護学校の新小学一年生にマスコット「くりあにゃん」をデザインしたランドセルカバーと帽子を寄贈するなど、取り組みの幅も広がっています。



インパクトレポート2024年版

## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り



## 「共闘」

横河武蔵野フットボールクラブ 事務局 中川隆和

<https://fc.yokogawa-musashino.jp/>

2025シーズン、当クラブは「JFL優勝と天皇杯への継続的な出場」をチームの目標に掲げ、監督、コーチングスタッフだけでなく、サポーター、ボランティア、チームに関係する全ての人の気持ちを一つにして戦います。

発足は1939年、株式会社横河電機の社内同好会として創部し、その60年後の1999年に日本フットボールリーグ(JFL)のオリジナル9として参画、以後四半世紀にわたりJFLで戦い続けています。

アマチュアリーグのトップでサッカーを続けられる喜びと、仕事とサッカーの真の両立を目指す中で人間力を高め、個人としても成長していくことを大切にしています。そして、横河武蔵野フットボールクラブを経由し、サッカー界、ビジネス界で活躍する「人財」をいかに多く送り出していくかをチームの価値と捉え、JFLの中でユニークな存在であり続けたいと思っています。

2025年は、「共闘」をテーマとしています。

## ■意味

- ・多くの方々に『応援したい』と思ってもらえる一体感のあるチームを目指す
- ・選手、スタッフ、サポーター、地域、関わる全ての人(武蔵野ファミリー)が一丸となって勝利をつかみ取る

・2025シーズンこそ良い結果を残せるように、ワンチームで戦う

この三つを大切に、チーム一丸となってリーグに臨んでいます。

また、一般社団法人横河武蔵野スポーツクラブの中には、サッカーに限らず、横河武蔵野アトラスターズという男子ラグビーチーム、横河武蔵野アルテミ・スターズという女子ラグビーチームもあり、それらが三位一体となり、スピード感をもってスポーツで街全体を活性化していきたいと考えています。

武蔵野市から発信し、日本全体が盛り上がるようこれからも活動してまいりますので、引き続き、JFL、そして横河武蔵野フットボールクラブの応援をよろしくお願いたします。



武蔵野ファミリー一丸となって2025シーズンも戦う



## 悲願のなでしこリーグ1部優勝を目指して

ニッパツ横浜FCシーガルズ 事業本部長 小池寛

<https://seagulls.yokohamafc-sc.com/>

生涯スポーツとして女性がサッカーをプレーできる環境をつくることと女子サッカーの普及・強化を目的に、2013年に一般社団法人横浜FCスポーツクラブとNPO法人横須賀シーガルズスポーツクラブが提携して「横浜FCシーガルズ」を発足させました。2016年より日本発条株式会社(ニッパツ)とパートナー契約を締結し、チーム名を「ニッパツ横浜FCシーガルズ」としました。

クラブ発足12年目の昨シーズンは、なでしこリーグ1部で2位という、クラブ史上最高順位の成績で終わりました。サポーターをはじめ、自治体やパートナー企業、クラブに関わる多くの方々からお祝いのお言葉を頂戴しました。一方、選手・スタッフの口からは「悔しい」という言葉があふれ出ていました。今シーズンは、昨シーズンのリーグ最少失点の堅守に加えて攻撃的なサッカーを実践し、3シーズン目を迎える石田美穂子監督の下、悲願のなでしこリーグ1部優勝を目指して戦っています。

なでしこリーグを戦う背景には、われわれの存在意義やミッションがあります。横浜FCは神奈川県で最初の男女チームを保有するプロサッカーチームではありますが、女子チームの選手は全員アマチュアで、サッカーと仕事を両立しながら活動しています。今シーズンの始動にあたり、あらためてニッパツ横浜FCシーガルズのミッションとして二つ定義し、選手・スタッフと共有しました。一つは「女

性の社会進出を応援/後押しする」、二つ目は「横浜の『まち』と『人』に活力を与える」です。サッカーも仕事も頑張っている選手たちがスタジアムで躍動する姿を「横浜の女性活躍のシンボル」として、また、ひたむきにプレーする姿に共感・感動してもらい、「次は私も頑張ろう」という相乗効果を生んでいきたいと考えています。選手の頑張る姿を見た人たちに活力を与え、その人たちが横浜で活躍する。また、子どもたちにも夢や目標を持ってもらい、10年後の横浜を担う人材に育ってほしいと願っています。

横浜には、サッカー、野球、バスケットボール、ラグビー、アイスホッケーと多くのプロスポーツクラブがあります。その中で、われわれは女子サッカーチームとして横浜に存在する価値を考え、横浜の人々に愛され、横浜の未来を創る存在を目指しています。



横浜の未来を創る存在に



## 「止める、蹴る」徹底したメソッドで戦うWINGS

南葛SC WINGS 広報 如月拓未

<https://www.nankatsu-sc.com/wings>

2024年、川崎フロンターレや名古屋グランパスで指揮を執った風間八宏氏が、南葛SCの男子トップチーム監督兼クラブテクニカルダイレクターに就任しました。これにより、クラブ全体に一貫したサッカーの哲学が浸透しています。

風間氏が提唱する「止める・蹴る」や「技術の6項目」といった“風間メソッド”は、男子チームのみならず、女子チーム、アカデミーにも共有され、結果だけでなく内容にこだわるサッカーを追求しています。私たち南葛SC WINGS(ウイングス)も松本彰総監督の下、その哲学を受け継ぎ、見る人にとっても、プレーする選手にとっても、楽しいサッカーを目指しています。

WINGSは2014年、南葛SCの女子チームとして発足しました。多くの支援と選手たちのたゆまぬ努力に支えられ、設立11年目となる昨年、6度目の挑戦でなでしこリーグ参入条件を満たし、今シーズンから同リーグ2部に参戦しています。

また、2024年にWEリーグ所属のINAC神戸レオネッサと業務提携を結び、INAC神戸東京アカデミーの移管および、相互交流を開始。東東京で、進学してもサッカーを続けたい10代の女子選手に向けた育成環境を整え、クラブとしての育成体制にも注力しています。

女子トップチームの多くの選手は現在も、商社、保育士、清掃業、介護事業など、多様な仕事に従事しながら夜間にトレーニングを行い、

週末には試合に挑むという二重生活を送っています。限られた時間の中でも「技術へのこだわり」を貫き、成長を止めない姿勢で日々チャレンジを重ねています。

地域とのつながりも大切にしており、5月4日には葛飾区新宿および水元の商店街で清掃活動を実施しました。選手たちは日頃の感謝の思いを込めて、清掃活動のほか、地域の方々にポスター掲出をお願いするなど、地元との絆を深めています。

初挑戦となるなでしこリーグの舞台でも、私たちは「技術」と「楽しさ」にこだわる“南葛らしさ”を貫き、誇りある戦いを続けてまいります。今後とも、南葛SC WINGSへの温かいご声援をどうぞよろしくお願いいたします。



葛飾区新宿(にいじゅく)の練習場周りを清掃活動したWINGS



## 日本フットサル連盟便り

## 北海道における大学フットサルの未来像

(一社)北海道フットサル連盟 常務理事 細川貴史

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

北海道で大学生が競技としてフットサルをプレーするには、おおむね二つの方法があります。一つ目は社会人チームに所属して北海道リーグやブロックリーグなどに参加する、二つ目は地域大学フットサルリーグに参加することです。私は二つ目の地域大学フットサルリーグの運営委員長として大学フットサルに携わっています。

北海道の大学フットサルリーグは、前身となるカレッジスーパーリーグから数えて今年で21回目の開催となります。ここ数年、北海道リーグ、ブロックリーグに参戦しているチームに所属する選手が増えており、大学フットサルリーグのレベルが向上してきています。

一方でフットサルの普及振興も大学フットサルリーグの持つ大きな役割の一つです。その一環として、審判員を一部帯同制にしています。プレーをしながら審判もする負担を強いていることは感じていますが、審判活動もしっかりやりたいという思いからフットサル3級審判員に昇級する審判員もいて、「自分たちでリーグを作り上げる」という理念に共鳴し活動してくれることに感謝しています。

もう一つ、2024年度は参加ができませんでした。2023年度には、毎年関西で行われている大学選抜フットサル交流大会に初めて出場しました。選抜チームを編成するにあたって、リーグに参加している選手たちが自発的にチームを編成し、お手伝いしながら大会に参加しました。将来的なリーグの自主運営に向けて少しずつ歩

みを進めています。

大学フットサルリーグを活性化するにあたって大きな障壁になっているのが「距離」です。例えば札幌-釧路間は東京-名古屋間に相当します。この距離が札幌圏外のチームの参加を難しくしている要因の一つと捉えています。過去にフットサルの裾野の拡大策として大学oneday大会をやってはどうかという話もありましたが、実現せずに今に至ります。

「僕たち、本当にフットサルが好きなんですよ」

ある選手に言われた言葉です。これからもこの言葉をそっと支えられるよう、北海道の大学フットサルの未来に携わっていきたくと考えています。



学生たちが自主編成した2023年度北海道大学選抜チームメンバー

## 日本ビーチサッカー連盟便り

## 2025シーズン、各地でビーチサッカー大会を開催！

一般財団法人日本ビーチサッカー連盟 運営事務局

<https://jbsf.or.jp/>

4月から各地でビーチサッカー大会やフェスティバルが開催され、ビーチサッカーのシーズンが本格的に始まりました。

5月17日(土)・18日(日)には、毎年恒例の「K.D.S 神戸電機産業カップ BEACH SOCCER AKASHI FESTA 2025」が兵庫県の明石大蔵海岸で行われました。同大会は、昨年度から取り組んでいる「JBSF TOUR」の一環として開催されています。

JBSF TOURとは、各地域で開催されるカップ戦(点)をつないで「線」にし、強豪チームらが全国を巡回。1年を通して獲得したポイントで年間チャンピオンを決める新たな試みです。今年のJBSF TOURは明石会場をラウンド1としてスタートしました(JBSF TOURは12月のラウンド5まで開催)。

大会は、全国の強豪6チームが参加し、2つのグループに分けて総当たりリーグおよび順位決定戦を実施。熱戦が繰り広げられ、優勝はラソアペーゴ北九州、準優勝は浜松ビーチサッカークラブアレイアが飾りました。

また、5月24日(土)・25日(日)には、毎年、後援事業として実施している「タチヒビーチCUP2025」が行われました。この大会は、開催地の東京都立川市の地域振興を目的とした大会で、子どもたちが参加できるビーチサッカークリニックや各種イベントが併催され、地域の活性化にも大きく寄与しています。今年も全国から強豪

チームが参加して白熱した戦いが繰り広げられ、東京ヴェルディ BS が優勝、ソーマブライア沖縄が準優勝に輝きました。

その他にも、たくさんのフェスティバルが始まっています。今年の5月に開催されたFIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025の熱を受けて、この夏もさらなる盛り上げをつくれるように、ビーチサッカーの魅力を各地から発信していきたいと思ひます。



K.D.S 神戸電機産業カップ BEACH SOCCER AKASHI FESTA 2025で優勝したラソアペーゴ北九州



タチヒビーチCUP2025 開会式の様子

## 日本障がい者サッカー連盟便り



# 障がい者の指導者、審判講習会等への参加しやすい環境づくりを推進 主催団体向けアクセシビリティ補助を2025年4月より拡充

日本障がい者サッカー連盟(JIFF) 事務局

<https://www.jiff.football/>

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、障がい者が健常者と同様にサッカー・フットサルの指導者養成講習会や審判講習会等に参加できるよう環境整備を行うため、2018年度から主催者に対して手話通訳費用を補助する「JIFF手話通訳費用補助制度」を運用してきました。そして、サッカー界の組織横断での「アクセス・フォー・オール宣言」や障害者差別解消法の改正による民間事業者による合理的配慮の義務化などを背景に、2025年4月からさらに補助の対象を広げ、「JIFFアクセシビリティ補助制度」として制度を拡充し、運用を開始しています。

制度を拡充するにあたって、JIFFは日本サッカー協会(JFA)と連携し、さまざまなケースを想定して検討を進めてきました。例えば、視覚障がい者や車椅子利用者が受講する際、スタッフの追加など人的サポートによって受講できる環境を整えられる場合には、その人件費が今回の制度の補助対象となります。バリアフリー設備が不十分な会場に簡易スロープなどを設置する場合には、レンタル費用が補助対象となります。その他、講習会の内容や受講者の希望等によって必要な対応も変わってきます。予算的な問題で主催者側でのアクセシビリティ対応が難しく、障がい者が受講する際のハードルになっているところを補助することで環境改善を図るとともに、その後は主催者側が独自で

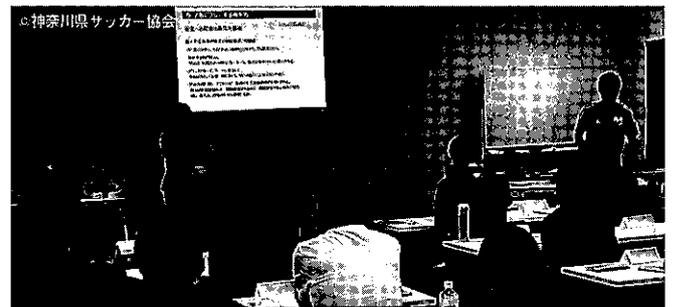
対応できるよう促していきます。

受講環境の整備に向けて柔軟に検討できる制度になっていますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。今後もサッカー界全体での環境整備がより進んでいくよう、JIFFも引き続き皆さまと連携して取り組んでまいります。

### ■制度の詳細・申請方法：

<https://www.jiff.football/about/sign/>

### ■お問い合わせ先：JIFF事務局 jiff\_info@jfa.or.jp



本補助制度は、指導者のリフレッシュ研修会等でも活用されている

## 日本クラブユースサッカー連盟便り



# 中国クラブユースサッカー連盟について

中国クラブユースサッカー連盟 理事長 澤井誠司

<https://www.jcy.jp/>

中国クラブユースサッカー連盟は、中国地方5県(鳥取・島根・岡山・広島・山口)に拠点を持つクラブで構成され、2024年度の加盟クラブ数は、U-15カテゴリーが96クラブ、U-18が7クラブ、U-18女子が6クラブの計109クラブでした。微増ではありますが、各クラブが中国地域の育成の中核を担っています。

中国地方は広域にわたるため、移動距離や時間の確保は大きな課題です。しかし、大会運営や交流機会の創出により、これまで地域間のつながりを深めてきました。特にU-15年代は、新人戦やクラブユースサッカー選手権中国地域予選を通じて県を越えた競争環境が整備され、他県の強豪との対戦によって選手、指導者がそれぞれ刺激を受け、成長する機会となっています。

2025年度のクラブユースサッカー選手権中国地域予選については、U-18は6クラブで予選トーナメントおよび代表決定戦を行い、全国大会出場クラブを決定します。また、U-15は4月に各県予選がスタート。U-18女子も高校総体予選期間と調整しながら6月から7月にかけてトーナメント形式で代表決定戦を行う予定です。

U-18の活動において、2024年度夏季に開催された「第48回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会」は、4地域に分かれてグループステージからラウンド8までが行われ、山口県も開催地の一つとなりました。中国地域のサッカー関係者に対し、クラブユース連盟の育成

理念や大会運営の具体像を伝える貴重な機会となり、今年度は山口・広島での実施に向けて準備しているところです。

U-18女子については、加盟数が伸び悩んでいますが、2024年度からサンフレッチェ広島レジーナが新たに加盟し、クラブ間で切磋琢磨しながら競技レベルの向上を図っています。U-15では、選手権中国地域予選や各県連盟主催大会に加え、3年前からU-14を対象にした新人戦の中国大会を新設し、毎年2月中旬に実施しています。各県予選を勝ち上がった16クラブによるトーナメント戦は、翌年度の主力となるU-14世代にとって重要な経験の場となっており、早期からの競争意識の醸成とチーム力の向上に寄与しています。

さらに、中国連盟では2025年度から法人格の取得に向けた準備を進めており、より自律的かつ透明性の高い運営体制の構築を目指しています。これにより、加盟クラブへの支援体制の強化と持続可能な育成環境の整備を実現したいと考えています。

今後も中国地域の地理的特性を踏まえて競技力向上と人間的成長の両立を図り、サッカーを通じた地域貢献と新たな価値創出に努めてまいります。



各年代の加盟クラブが中国地域の育成の中核を担っている

# サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。  
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。  
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。  
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

## 日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

## 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

## 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

## 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

## 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

## 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

## 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体

JIFFパートナー



日本サッカー後援会



Johnson & Johnson



Nabtesco



Bewith



# 会議レポート



## 公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第5回理事会

公式URL [https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/executive\\_committee.html](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html)



日本サッカー協会（JFA）は2025年5月22日、2025年度第5回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

### 決議事項

- 1 評議員推薦加盟団体規則 改正 ..... P43
- 2 技術委員会 ゲーム環境部会設置 ..... P43
- 3 ミャンマーサッカー連盟への義援金 ..... P43

### 評議員推薦加盟団体規則 改正

評議員推薦加盟団体規則を下記の通り改正する。

#### 【背景】

加盟団体が評議員推薦加盟団体としての資格を喪失した場合、当該評議員推薦加盟団体からの推薦により評議員会で選任された評議員が自動的にその資格を喪失することではなく、定款第17条の規定に基づく評議員会の解任決議または評議員本人の辞任によって当該評議員の資格が喪失する。これを明確にする。

【改正内容：太字下線箇所を加除】

（評議員推薦加盟団体）

#### 第2条

3 評議員推薦加盟団体に次の各号のいずれかの事由が生じた場合には、**当該評議員推薦加盟団体は、評議員推薦加盟団体としての資格を喪失するとともに、当該評議員推薦加盟団体からの推薦により評議員会で選任された評議員はも、定款に基づく評議員会における解任決議又は辞任により、その資格を喪失するものとする。**

- (1) 当該団体が解散した場合
- (2) 当該団体が本協会の加盟団体ではなくなった場合
- (3) 本条第1項第3号について、当該クラブがJリーグの所属クラブでなくなった場合

### 技術委員会 ゲーム環境部会設置

育成年代のゲーム環境の充実に向けた議論を加速させるため、技術委員会にゲーム環境部会を新設する。

- 部会名 : 技術委員会 ゲーム環境部会
- 部会長 : 葎森紀昭（くらもり のりあき）JFA技術委員会 副委員長
- 所管事項 : ゲーム環境の整備に関する事項
- 取り組む事項 : (1) 各カテゴリーのゲーム環境方針の策定  
(2) ゲーム環境方針の競技会フォーマットへの反映

趣旨：従来、ゲーム環境については技術委員会ユース育成部会の所管事項の一つだったが、地域・都道府県サッカー協会の声を聞きながら当該事項を議論し、よりスピード感を持って各種施策を実行するため、本部会を設置する。本部会の下に各育成年代別（U-18,U-15,U-12）のタスクフォースを設置し、地域や連盟からのメンバーも含め、各年代に特化した議論を集中的に行う体制を構築する。

### ミャンマーサッカー連盟への義援金

ミャンマー中部で3月28日に発生したマグニチュード7.7規模の地震により、深刻な被害が発生している。被災地域の一刻も早い復旧を願い、「海外における自然災害等に対する支援事業の実施に関するガイドライン」に基づき、下記の通り支援する。

なお、財源は災害復興継続支援引当特定資産を活用する。

支援内容：ミャンマーサッカー連盟（MFF）に義援金としてUS \$20,000を寄付。

#### ●参考1：過去10年の災害時支援実施内容（国外）

時期	災害	支援先	各支援先への支援内容
2015年4月	ネパール大地震	ネパールサッカー協会	義援金 US \$20,000
2016年4月	エクアドル地震	エクアドルサッカー連盟	
2016年8月	イタリア中部地震	イタリアサッカー連盟	
2017年9月	メキシコ中部地震	メキシコサッカー連盟	

時期	災害	支援先	各支援先への支援内容
2017年12月	イラン・イラク地震 ※被害のほとんどがイラン国内で発生	イランサッカー連盟	義援金 US \$20,000
2018年9月	インドネシア大地震	インドネシアサッカー協会	
2018年11月	北マリアナ諸島 台風26号被害	北マリアナ諸島サッカー協会	
2020年10月	バイルート爆発	レバノンサッカー協会	
2021年9月	ハイチ大地震	ハイチサッカー協会	
2023年2月	トルコ南部・シリア地震	トルコサッカー協会 シリアサッカー協会	
2024年4月	台湾東部地震	チャイニーズ・タイペイ サッカー協会	

#### ●参考2：海外における自然災害等に対する支援事業の実施に関するガイドライン

#### 2. 支援対象

海外で発生した地震や津波、台風（ハリケーン）、洪水、山火事等の災害の中で、その国民に甚大な被害をもたらす、特に支援が必要と判断される災害を対象とする。

次ページ左上へ続く

### 3. 支援内容

具体的な支援の方法として、災害の規模等に鑑み、以下の内容の支援事業を行うものとする。

#### (1) 海外サッカー協会への義援金

- ① JFAとしての義援金の拠出
- ② 義援金口座の開設による義援金募金の実施
- ③ その他の方法による義援金の拠出

#### (2) 個別支援

- ① 生活支援物資等の提供
- ② サッカー用品の提供
- ③ その他、必要な支援

#### 4. 支援内容の決定方法等

(1) 支援内容の決定は、原則として、理事会の決議事項とする。

## 報告事項

- 1. 第32回FIFAカOUNシル会議 (5月9日開催) ..... P44
- 2. 第75回FIFA総会 (5月15日開催) ..... P44
- 3. 指導者ライセンス (Proライセンス) 認定 ..... P44

- 4. 審判員海外派遣 ..... P45
- 5. JFAロングバイル人工芝ピッチ公認 (更新) ..... P45

## 第32回FIFAカOUNシル会議 (5月9日開催)

第32回FIFAカOUNシル会議が5月9日、オンラインで開催された。

主な決定・報告事項は、下記の通り。

- (1) FIFA女子ワールドカップ™について、2031年大会から出場枠を現行の32から48に拡大することを決定した。これに伴い、グループステージは各4チームから成る12グループで実施され、試合数は現行の64試合から104試合へと増加、大会開催期間も1週間延長される。
- (2) 2031年大会以降の出場枠拡大に伴い、FIFA女子ワールドカップ2031™とFIFA女子ワールドカップ2035™両大会のホスト要件概要改正版を承認した。

- (3) アフガニスタン国内で女性がサッカーをプレーできない現状に鑑み、アフガニスタン女子サッカーのためのFIFA行動戦略を承認した。
- (4) 第74回FIFA総会で採択された反人種差別キャンペーンの取り組みの一環としてFIFA懲罰規程改正案を承認し、差別行為に対する罰金上限を500万スイスフラン (約8.7億円) に引き上げるなど処分が厳格化された。
- (5) FIFAワールドカップ26™大会規則とFIFAインターコンチネンタルカップ2025™大会規則を承認した。

## 第75回FIFA総会 (5月15日開催)

第75回FIFA総会が5月15日、パラグアイのアスンシオンで開催された。

主な決定・報告事項は、下記の通り。

- (1) 2026年度詳細予算および2023-2026年サイクル予算を承認した。
- (2) 2024年連結財務諸表および法定財務諸表を承認した。
- (3) 第74回FIFA総会で承認された反人種差別キャンペーンのさらなる推進のため、FIFA懲罰規程を改正したことを報告した。
- (4) FIFA独立委員会の選挙が行われ、右記の委員長、委員長代理ほか委員が選出された。

(任期は2025年-2029年)

#### ① 規律委員会

Mohammad Al-Kamali委員長、Jorge Palacio委員長代理

#### ② 倫理委員会 調査室

Martin Ngoga委員長、Bruno De Vita委員長代理、

Parusuraman Subramanian委員長代理

#### ③ 倫理委員会 裁定室

María Claudia Rojas委員長、Fiti Sunia委員長代理、

Anin Yeboah委員長代理

#### ④ 不服申立委員会

Neil Eggleston委員長、Thomas Bodström委員長代理

#### ⑤ ガバナンス、監査およびコンプライアンス委員会

Bruno Chiomento委員長、Chris Mihm委員長代理

※三好豊JFA法務委員長が委員に選出

- (5) 第76回FIFA総会を2026年4月30日にカナダ・バンクーバーで開催することを報告した。

## 指導者ライセンス (Proライセンス) 認定

Proライセンスコーチ養成講習会において、国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記1名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、Proライセンスを認定した。

[2024年度]

(1) 名前 : 西嶋弘之 (にしじま ひろゆき)

指導チーム : JFA所属 (各育成年代日本代表、各FAトレセン活動) 等

生年月日 : 1982年4月7日

資格 : 2020年 Aジェネラルライセンス 取得

指導歴 : 2018~2023年 DREAM福島アクションプラン フロントオフィス  
 2022~2023年 CPサッカー日本代表 コーチ  
 2023年 JFAコーチ (U-15日本代表コーチ)  
 2024年 JFAコーチ (U-15日本代表コーチ)  
 2025年 JFAコーチ (U-16日本代表コーチ・U-18日本代表コーチ予定)

※2024年度Proライセンスコーチ認定者数: 18名/20名中 (上記1名含む)

※Proライセンスコーチ認定者数: 599名 (上記1名含む)

## 審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
AFC U17 アジアカップ サウジアラビア 2025	審判員	長峯洸希、西橋勲	4月3日～20日	ジッダ/サウジアラビア
	テクニカルアナリスト	柿沼亨		
AFC チャレンジリーグ 2024/25 / SF 2 FC ARKADAG vs AL ARABI SC	審判員	笠原寛貴、嵯峨巧、浅田武士、谷本涼	4月16日	アルカダグ/トルクメニスタン
AFC チャンピオンズリーグ エリート Finals	審判員	荒木友輔、三原純	4月25日～5月3日	ジッダ/サウジアラビア
AFC Futsal Referees Recruiting 2025: 3rd Assessment Visit	審判指導者(リクルーター)	小崎知広	4月3日	ドバイ/アラブ首長国連邦(UAE)
FIFA Regional Instructors Course 2025	受講者	岡野宇広、手代木直美	4月22日～25日	北京/中国
	審判指導者(インストラクター)	深野悦子、山岸佐知子		

## JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

(1)申請者(施設所有者): 静岡県

施設名 : 小笠山総合運動公園 人工芝グラウンド(静岡県掛川市篠場)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフPT2065RS+

公認期間: 2025年4月14日～2026年4月13日

公認番号: 第011号

(2)申請者(施設所有者): 東京都

施設名 : 駒沢オリンピック公園総合運動場 補助競技場

(東京都世田谷区駒沢公園1-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチDS E-50 XC

公認期間: 2025年5月19日～2028年5月18日

公認番号: 第015号

(3)申請者(施設所有者): 甘日市市

施設名 : 甘日市市サッカー場(広島県甘日市市地御前北1-2-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチDS E-60-EPB

公認期間: 2025年5月22日～2028年5月21日

公認番号: 第056号

(4)申請者(施設所有者): 堺市

施設名 : J-GREEN堺 S6(大阪府堺市堺区築港八幡町145番地)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U-25 PSD75-E (Be)

公認期間: 2025年5月22日～2028年5月21日

公認番号: 第090号

(5)申請者(施設所有者): 公益社団法人岩手県サッカー協会

施設名 : 岩手県フットボールセンター

(岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目1-1)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U-17 ACS70-E (Gr)

公認期間: 2025年5月22日～2028年5月21日

公認番号: 第112号

(6)申請者(施設所有者): 相馬市

施設名 : 福島県相馬光陽サッカー場 人工芝Dコート

(福島県相馬市光陽3丁目3-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチSL ProN-60

公認期間: 2024年12月14日～2025年12月13日

公認番号: 第149号

(7)申請者(施設所有者): 相馬市

施設名 : 福島県相馬光陽サッカー場 人工芝Eコート

(福島県相馬市光陽3丁目3-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチSL ProN-60

公認期間: 2025年1月16日～2026年1月15日

公認番号: 第156号

(8)申請者(施設所有者): 浦安市

施設名 : 浦安市運動公園陸上競技場人工芝グラウンド

(千葉県浦安市舞浜2-27)

使用製品: 奥アンツーカー株式会社 フィールドターフ・レボリューションFTRV-1

公認期間: 2025年2月12日～2026年2月11日

公認番号: 第171号



# JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

## SAMURAI BLUE



©JFA/2024年11月 日本代表先発メンバー

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



- ① U-16日本代表 第52回モンテギュー国際大会
- ② U-15日本代表 クロアチア遠征 (International U-15 tournament "Vlatko Marković" 2025)
- ③ フットサル日本女子代表 AFC女子フットサルアジアカップ中国2025
- ④ ビーチサッカー日本代表 国際親善試合/FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025
- ⑤ 2025ナショナルトレセンU-14 前期
- ⑥ 2025ナショナルトレセン女子U-14 前期
- ⑦ JFA 第19回全日本O-70サッカー大会

- ⑧ JFA 第25回全日本O-60サッカー大会
- ⑨ 2024-25 SOMPO WEリーグ
- ⑩ AFCチャンピオンズリーグエリート2024/25
- ⑪ AFCチャンピオンズリーグ2 2024/25
- ⑫ AFC女子チャンピオンズリーグ 2024/25
- ⑬ AFC女子フットサルアジアカップ中国2025
- ⑭ FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ, JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー, AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

## U-16日本代表 第52回モンテギュー国際大会

### <スタッフ>

○団長: 吉野伸彦(JFA技術委員会 強化部会 部会員/JC) ○監督: 小野信義(NCS) ○コーチ: 山橋貴史(JC) ○GKコーチ: 井出大志(NCS) ○フィジカルコーチ: 小嶺肇之(NCS)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大下幸誠	鹿島アントラーズユース	MF	岩土そら	鹿島アントラーズユース
	川中碧音	セレッソ大阪U-18		小田脩人	川崎フロンターレU-18
DF	伊藤優	三菱養和サッカークラブユース		小枝翔太郎※1	ジュビロ磐田U-18
	井芹響輔	RB大宮アルディージャ U18		中島璃久	FC東京U-18
	西野陽向	ジュビロ磐田U-18		岡本新大	ガンバ大阪ユース
	熊田佳斗	RB大宮アルディージャ U18		五十嵐陵	柏レイソルU-18
	落合哉太	柏レイソルU-18		児山雅稀	帝京長岡高校
	橋本凜来	FC東京U-18	FW	立野京弥	昌平高校
	竹内悠三	名古屋グランパスU-15		高木瑛人	鹿島アントラーズユース
MF	滝川颯馬	京都サンガF.C.U-18			
	里見汰福	ヴィッセル神戸U-18			

※1: ケガのため離脱

### <スケジュール>

4月10日 集合  
11日 羽田発、パリ経由  
ナント着  
12日~14日 トレーニング (STADE DE LA SALMONDIERE)  
15日 第52回モンテギュー国際大会  
グループステージ第1戦 vs U-16イングランド代表 (STADE DE LA SALMONDIERE)  
16日 トレーニング (STADE DE LA SALMONDIERE)  
17日 グループステージ第2戦 vs U-16ポルトガル代表 (STADE DE LA SALMONDIERE)  
18日 トレーニング (STADE DE LA SALMONDIERE)  
19日 グループステージ第3戦 vs U-16メキシコ代表 (STADE DE LA SALMONDIERE)  
20日 トレーニング (STADE DE LA SALMONDIERE)  
21日 5・6位決定戦 vs U-16カメルーン代表 (STADE CLAUDE BETARD)  
22日 ナント発、パリ経由  
パリ着  
23日 羽田着

### グループステージ第1戦

U-16日本代表 **2** (前半2-1 後半0-2) **3** U-16 イングランド代表

●2025年4月15日 18:30 ●STADE DE LA SALMONDIERE ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](12)川中碧音 [DF](2)橋本凜来<→62'(19)落合哉太>(4)熊田佳斗(13)井芹響輔<→62'(5)伊藤優>(20)竹内悠三<→62'(3)西野陽向> [MF](8)小田脩人<→40'(14)中島璃久>(10)里見汰福(11)五十嵐陵<→62'(7)岡本新大>(15)岩土そら(16)児山雅稀<→59'(18)滝川颯馬> [FW](9)高木瑛人<→59'(17)立野京弥>

控え:(1)大下幸誠

得点 | 35', 52', 69' 失点(0-1)(2-2)(2-3)、40'高木瑛人(1-1)、45'里見汰福(2-1)

### グループステージ第2戦

U-16日本代表 **1** (前半1-0 後半0-3) **3** U-16ポルトガル代表

●2025年4月17日 18:30 ●STADE DE LA SALMONDIERE ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](1)大下幸誠 [DF](3)西野陽向(5)伊藤優<→55'(13)井芹響輔>(19)落合哉太<→62'(2)橋本凜来>(20)竹内悠三 [MF](7)岡本新大<→66'(16)児山雅稀>(8)小田脩人(10)里見汰福<→39'(15)岩土そら>(14)中島璃久(18)滝川颯馬<→62'(11)五十嵐陵> [FW](17)立野京弥<→55'(9)高木瑛人>

控え:(12)川中碧音(4)熊田佳斗

得点 | 17'立野京弥(1-0)、60', 66', 76'失点(1-1)(1-2)(1-3)

警告 | 60'井芹響輔

### グループステージ第3戦

U-16日本代表 **1** (前半1-0 後半0-0) **0** U-16メキシコ代表

●2025年4月19日 18:00 ●STADE DE LA SALMONDIERE ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](1)大下幸誠 [DF](2)橋本凜来(3)西野陽向(13)井芹響輔(20)竹内悠三 [MF](7)岡本新大<→61'(8)小田脩人>(11)五十嵐陵<→40'(16)児山雅稀>(14)中島璃久<→70'(18)滝川颯馬>(15)岩土そら [FW](9)高木瑛人(17)立野京弥

控え:(12)川中碧音(4)熊田佳斗(5)伊藤優(10)里見汰福(19)落合哉太

得点 | 14'岩土そら(1-0)

### 5・6位決定戦

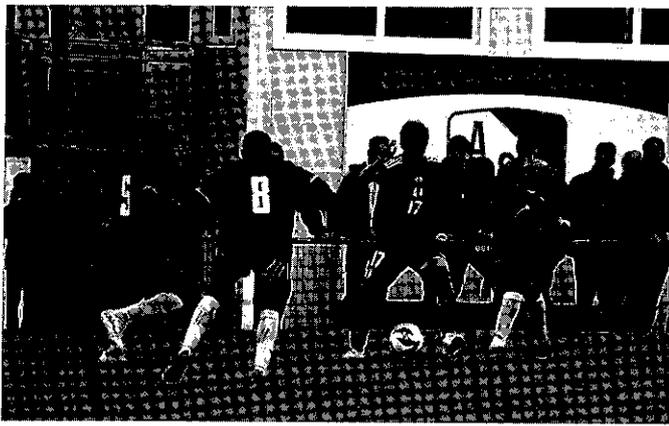
U-16日本代表 **1** (前半1-0 後半0-1) **1** U-16カメルーン代表 PK5-3

●2025年4月21日 10:30 ●STADE DE LA SALMONDIERE ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](12)川中碧音 [DF](2)橋本凜来(4)熊田佳斗(5)伊藤優<→71'(13)井芹響輔>(19)落合哉太 [MF](8)小田脩人(11)五十嵐陵<→52'(7)岡本新大>(15)岩土そら<→41'(14)中島璃久>(16)児山雅稀<→71'(20)竹内悠三>(18)滝川颯馬 [FW](17)立野京弥<→61'(9)高木瑛人>

控え:(1)大下幸誠(3)西野陽向(10)里見汰福

得点 | 31'立野京弥(1-0)、80+4'失点(1-1)



5・6位決定戦 U-16日本代表 vs U-16カメルーン代表



第52回モンテギュー国際大会

## U-15日本代表 クロアチア遠征(International U-15 tournament"Vlatko Marković"2025)

### 【スタッフ】

○団長:高司裕也(JFA技術委員会強化部会員) ○監督:平田礼次(NCS) ○コーチ:三浦佑介(JC) ○GKコーチ:吉岡慎輔(NCS) ○フィジカルコーチ:芝田貴臣(株式会社エスパルス)  
○テクニカルスタッフ:引田真尋(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	シュルツ建斗	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	MF	布袋田結太	鹿島アントラーズつくばジュニアユース
	三崎斗馬	鹿島アントラーズジュニアユース		深谷朔共	名古屋グランパスU-15
DF	笹倉拓真	川崎フロンターレU-18	山田凌也	ヴィッセル神戸U-15	
	三谷友浩	ヴィッセル神戸U-15	竹信瑛治	アビスパ福岡U-15	
	瀬賀結臣	JFAアカデミー福島U-15	有吉渉	サガン鳥巣U-15	
	庄司瑛人	東急スレイエスFC U-15	宮園蒼空	北海道コンサドーレ札幌U-15	
	對馬羽琉	川崎フロンターレU-15生田	オツコロ海桜※2	FC LAVIDA	
	山川弘飛	FC岐阜U-15	FW	八色隼人※1	名古屋グランパスユース
	柏尚希	柏レイソルU-15		藤澤斗亜	横浜F・マリノスジュニアユース
鮫島充輝	FCグランリオ鈴鹿	土井空芽		鹿島アントラーズつくばジュニアユース	
MF	嵯峨日向	前橋育英高校	小松大馳	浦和レッズジュニアユース	
	三井寺眞	FC FUORICLASSE SENDAI			

※1:ケガのため離脱  
※2:追加招集

### <スケジュール>

5月9日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド) 羽田発  
10日 ドーハ経由、ザグレブ着  
トレーニング(Sveti Martin na Muri)  
11日~12日 トレーニング(Sveti Martin na Muri)  
13日 International U-15 tournament"Vlatko Marković" 2025  
第1戦 vs U-15ポルトガル代表(Sveti Martin na Muri)  
第2戦 vs U-15イングランド代表(Stadium Cakovec)  
14日 トレーニング(Sveti Martin na Muri)  
15日 トレーニング(Sveti Martin na Muri)  
16日 第3戦 vs U-15ギリシャ代表(Sveti Martin na Muri)  
17日 トレーニング(Sveti Martin na Muri)  
18日 5・6位決定戦 vs U-15ルーマニア代表(Stadium Ludbreg)  
19日 ザグレブ発、ドーハ経由  
20日 成田着

### グループステージ第1戦

U-15日本代表 **1** (前半0-2 後半1-2) **4** U-15ポルトガル代表

●2025年05月13日 12:15 ●Sveti Martin na Muri ●試合時間:80分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)三崎斗馬 [DF](3)對馬羽琉(5)笹倉拓真(13)三谷友浩(16)鮫島充輝 [MF](7)宮園蒼空<→66'(22)小松大馳>(8)深谷朔共(10)オツコロ海桜<→73'(21)藤澤斗亜>(11)嵯峨日向<→73'(20)山田凌也>(19)三井寺眞<→66'(17)竹信瑛治> [FW](9)土井空芽<→66'(18)有吉渉>

控え:(12)シュルツ建斗(2)柏尚希(4)山川弘飛(6)布袋田結太(14)瀬賀結臣(15)庄司瑛人

得点:19'、22'、49'、73'失点(0-1)(0-2)(0-3)(0-4)、80+2'藤澤斗亜(1-4)

### グループステージ第2戦

U-15日本代表 **1** (前半1-2 後半0-1) **3** U-15イングランド代表

●2025年05月14日 14:45 ●Stadium Cakovec ●試合時間:80分

日本(監督:平田礼次):[GK](12)シュルツ建斗 [DF](2)柏尚希(4)山川弘飛(14)瀬賀結臣(15)庄司瑛人 [MF](7)宮園蒼空<→41'(8)深谷朔共>(17)竹信瑛治<→53'(13)三谷友浩>(18)有吉渉<→68'(19)三井寺眞>(20)山田凌也<→53'(11)嵯峨日向> [FW](21)藤澤斗亜<→68'(10)オツコロ海桜>(22)小松大馳<→53'(9)土井空芽>

控え:(1)三崎斗馬(3)對馬羽琉(5)笹倉拓真(6)布袋田結太(16)鮫島充輝

得点:13'、17'、68'失点(0-1)(0-2)(1-3)、35'小松大馳(1-2)

### グループステージ第3戦

U-15日本代表 **6** (前半3-2 後半3-1) **3** U-15ギリシャ代表

●2025年05月16日 12:15 ●Sveti Martin na Muri ●試合時間:80分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)三崎斗馬 [DF](3)對馬羽琉(5)笹倉拓真(13)三谷友浩(16)鮫島充輝 [MF](6)布袋田結太<→56'(18)有吉渉>(10)オツコロ海桜<→65'(8)深谷朔共>(11)嵯峨日向(17)竹信瑛治<→65'(21)藤澤斗亜>(19)三井寺眞 [FW](9)土井空芽<→56'(7)宮園蒼空>

控え:(12)シュルツ建斗(2)柏尚希(4)山川弘飛(14)瀬賀結臣(15)庄司瑛人(20)山田凌也(22)小松大馳

得点:13'土井空芽(1-0)、23'對馬羽琉(2-1)、26'オツコロ海桜(3-1)、53'、64'、80'三井寺眞(4-3)(5-3)(6-3)、15'、37'、45'失点(1-1)(3-2)(3-3)

警告:58'三井寺眞

### 5・6位決定戦

U-15日本代表 **0** (前半0-1 後半0-1) **2** U-15ルーマニア代表

●2025年05月18日 11:15 ●Stadium Ludbreg ●試合時間:80分

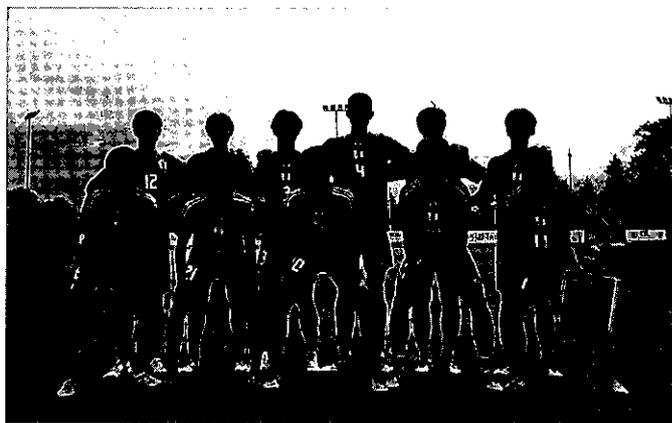
日本(監督:平田礼次):[GK](12)シュルツ建斗 [DF](3)對馬羽琉<→47'(16)鮫島充輝>(4)山川弘飛(14)瀬賀結臣(15)庄司瑛人 [MF](6)布袋田結太(8)深谷朔共<→47'(17)竹信瑛治>(10)オツコロ海桜<→47'(9)土井空芽>(11)嵯峨日向(18)有吉渉<→66'(7)宮園蒼空> [FW](21)藤澤斗亜<→47'(19)三井寺眞>

控え:(1)三崎斗馬(2)柏尚希(5)笹倉拓真(13)三谷友浩(20)山田凌也(22)小松大馳

得点:35'、61'失点(0-1)(0-2)



5・6位決定戦 U-15日本代表 vs U-15ルーマニア代表



U-15日本代表 クロアチア遠征

## フットサル日本女子代表 AFC女子フットサルアジアカップ中国2025

### 【スタッフ】

※関連記事は68~71ページに掲載

○団長：前川義信(JFAフットサル・ビーチ部会 副部会長) ○監督：須賀雄大(NCS) ○コーチ：藤田安澄(JFAフットサルインストラクター/湘南ベルマーレ) ○GKコーチ：富澤宇(JFAフットサルGKプロジェクト/バルドラール浦安/東急SレイエスFC) ○フィジカルコーチ：大森知(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/フウガドールすみだ/東急SレイエスFC) ○テクニカルスタッフ：林誠晃(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	井上ねね	立川アスレティックFCレディース	FP	PIVO	岩崎裕加	フウガドールすみだレディース
	須藤優理亜	トレブランカ・メリリャ (ESP)	ALA	池内天紀※2	バルドラール浦安ラス・ポニータス	
FP	PIVO	笹井りさ	バルドラール浦安ラス・ポニータス	(須藤は5月1日に合流)		
	ALA	網城安奈	SWHLレディース西宮	ESP：スペイン		
	ALA	宮原ゆかり	バルドラール浦安ラス・ポニータス	※1：ケガのため離脱		
	FIXO	伊藤果穂	バルドラール浦安ラス・ポニータス	※2：追加招集		
	WEXL	江口未珂	バルドラール浦安ラス・ポニータス	<スケジュール>		
	ALA	四井沙樹	SWHLレディース西宮	4月24日	トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)	
	PIVO	江川涼	SWHLレディース西宮	25日	練習試合 vs フットサルベトナム女子代表 (高円宮記念JFA夢フィールド)	
	ALA	松本直美	バルドラール浦安ラス・ポニータス	26日	トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)	
	ALA	松木里緒※1	立川アスレティックFCレディース	27日	練習試合 vs バルドラール浦安ラス・ポニータス (高円宮記念JFA夢フィールド)	
	ALA	高橋京花	アルコ神戸		活動終了後、一時解散	
	FIXO	追野沙羅	SWHLレディース西宮	5月1日	成田発、上海浦東経由、フフोट着	

<トレーニングパートナー> ※4月27日までチームに帯同

Pos.	名前	所属
GK	中田風咲	SWHLレディース西宮

2日 トレーニング  
3日 練習試合 vs フットサルチャイニーズ・タイペイ女子代表  
4日~6日 トレーニング

7日 AFC女子フットサルアジアカップ中国2025 グループステージ第1戦 vs フットサルインドネシア女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
8日 トレーニング  
9日 グループステージ第2戦 vs フットサルバーレーン女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
10日 トレーニング  
11日 グループステージ第3戦 vs フットサルタイ女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
12日 トレーニング  
13日 準々決勝 vs フットサルベトナム女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
14日 トレーニング  
15日 準決勝 vs フットサルイラン女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
16日 トレーニング  
17日 決勝 vs フットサルタイ女子代表 (Hohhot Sports Centre)  
18日 フフोट発、上海浦東経由、羽田着

### ■グループステージ

順位	グループA	中国	チャイニーズ・タイペイ	ウズベキスタン	オーストラリア	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	中国	5○3	3○1	3○1	9	3	0	0	11	5	6	
2	チャイニーズ・タイペイ	3●5	6○1	1○0	6	2	0	1	10	6	4	
3	ウズベキスタン	1●3	1●6	3○1	3	1	0	2	5	10	-5	
4	オーストラリア	1●3	0●1	1●3	0	0	0	3	2	7	-5	

順位	グループB	ベトナム	イラン	ホンコン・チャイナ	フィリピン	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	ベトナム	0△0	5○3	3○0	7	2	1	0	8	3	5	
2	イラン	0△0	3○1	1○0	7	2	1	0	4	1	3	
3	ホンコン・チャイナ	3●5	1●3	7○3	3	1	0	2	11	11	0	
4	フィリピン	0●3	0●1	3●7	0	0	0	3	3	11	-8	

順位	グループC	タイ	日本	インドネシア	バーレーン	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	タイ	3○1	0△0	4○0	7	2	1	0	7	1	6	
2	日本	1●3	5○2	3○2	6	2	0	1	9	7	2	
3	インドネシア	0△0	2●5	5○1	4	1	1	1	7	6	1	
4	バーレーン	0●4	2●3	1●5	0	0	0	3	3	12	-9	

○：勝ち(勝ち点3)、△：引き分け(勝ち点1)、●：負け(勝ち点0)

### ■ノックアウトステージ



<3位決定戦> 中国 1-3 イラン

### ■大会各賞

フェアプレー賞：中国  
MVP：追野沙羅(日本)  
得点王：MARAL TORKAMAN(イラン)  
ベストゴールキーパー賞：井上ねね(日本)

グループステージ第1戦

フットサル 日本女子代表 5 (第1ピリオド4-0) 2 (第2ピリオド1-2) フットサル インドネシア女子代表

●2025年5月7日 20:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]GELAREH NAZEMIDEYLAMI (IRN) [第2審判]ZAHRA RAHIMI (IRN) [第3審判]AFINOGENOV NIKITA (UZB) [タイムキーパー]NAJAT ALBLOOSHI (UAE) ●マッチコミッショナー:NGUYEN THANH HA (VIE) ●観衆:275人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 1 SELLA SALSADILA AGUSTIN
須藤優理亜 2 GK GK 2 DIYANA HERLIANA
江口未珂 3 FP FP 3 INSYAFADYA SALSABILLAH
四井沙樹 4 FP FP 4 DINAR KARTIKA SARI
伊藤果穂 5 FP FP 5 FITRIYA HILDA
池内天紀 6 FP FP 6 NOVITA MURNI
追野沙羅 7 FP FP 7 DIAH TRI LESTARI
宮原ゆかり 8 FP FP 8 DHEA FEBRINA BANGUN
江川涼 9 FP FP 9 ALYA ANANDA HENDRITA
網城安奈 10 FP FP 10 FITRI ROSDIANA
筏井りさ 11 FP FP 11 AGNES MATULAPELWA
岩崎裕加 12 FP FP 12 JEIN SITTY WAY
高橋京花 13 FP FP 13 IKEU ROSITA
松本直美 14 FP FP 14 NISMA FRANCIDA RUSDIANA
須賀雄大 監督 監督 LUIS GONCALO ESTRELA

得点 [日本]2' 筏井りさ(1-0)、12' 江川涼(2-0)、13'、28' 宮原ゆかり(3-0)(5-0)、17' 四井沙樹(4-0) [インドネシア]28' オウンゴール(5-1)、29' DINAR KARTIKA SARI(5-2)

警告 [インドネシア]40' IKEU ROSITA

○:先発、△:交代出場

グループステージ第3戦

フットサル 日本女子代表 1 (第1ピリオド0-0) 3 (第2ピリオド1-3) フットサル タイ女子代表

●2025年5月11日 20:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]GELAREH NAZEMIDEYLAMI (IRN) [第2審判]ZAHRA RAHIMI (IRN) [第3審判]AFINOGENOV NIKITA (UZB) [タイムキーパー]MARYAM SALIM ALI AL-HADHRAMI (OMA) ●マッチコミッショナー:JILL ESPIRITU (GUA) ●観衆:414人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 1 SUKSEN SASIPRAPH
須藤優理亜 2 GK GK 2 NUENGRUTHAI SORAHONG
江口未珂 3 FP FP 3 JENJIRA BUBPHA
四井沙樹 4 FP FP 4 PATITTA MOOLPHO
伊藤果穂 5 FP FP 5 HATAICHANOK TAPPAKUN
池内天紀 6 FP FP 6 SANGRAWEE MEEKHAM
追野沙羅 7 FP FP 7 SASIKARN TONGDEE
宮原ゆかり 8 FP FP 8 PAERPLOY HUAJAIPETCH
江川涼 9 FP FP 9 ARRIYA SAETOEN
網城安奈 10 FP FP 10 LALIDA CHIMPABUT
筏井りさ 11 FP FP 11 NATTAMON ARTKLA
岩崎裕加 12 FP FP 12 SAOVAPHA TRANGA
高橋京花 13 FP FP 13 DARIKA PEANPAILUN
松本直美 14 FP FP 14 JANISTAR NUNABEE
須賀雄大 監督 監督 THANATORN SANTANAPRASIT

得点 [日本]26' 網城安奈(1-1) [タイ]26' オウンゴール(0-1)、29、33 PAERPOY HUAJAIPETCH(1-2)(1-3)

警告 [タイ]29' HATAICHANOK TAPPAKUN

○:先発、△:交代出場

準決勝

フットサル 日本女子代表 3 (第1ピリオド2-0) 2 (第2ピリオド1-2) フットサル イラン女子代表

●2025年5月15日 20:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]ZHU XIN (CHN) [第2審判]PANADDA KHOTSENAPHATTRA (THA) [第3審判]NURUL ATIKAH JANAH (MAS) [タイムキーパー]LIANG QINGYUN (CHN) ●マッチコミッショナー:WENDY ASSUNTA D'COSTA (IND) ●観衆:418人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 1 FARZANEH TAVASOLI
須藤優理亜 2 GK GK 2 MAHDIYEH MAHMOUDI
江口未珂 3 FP FP 3 FATEMEH HOSSEINI
四井沙樹 4 FP FP 4 FATEMEH RAHMATI
伊藤果穂 5 FP FP 5 SARA SHIRBEIGI
池内天紀 6 FP FP 6 FERESHTEH KHOSRAVI
追野沙羅 7 FP FP 7 FERESHTEH KARIMI
宮原ゆかり 8 FP FP 8 ELHAM ANAFJEH
江川涼 9 FP FP 9 ZAHRA KIYANI MANESH
網城安奈 10 FP FP 10 NASIMEH GHOLAMI
筏井りさ 11 FP FP 11 NASTARAN MOGHIMI
岩崎裕加 12 FP GK 12 TAHEREH MEHDI POUR
高橋京花 13 FP FP 13 MAHTAB BANAEI
松本直美 14 FP FP 14 MARAL TORKAMAN
須賀雄大 監督 監督 FOROUZAN SOLEIMANI

得点 [日本]3' 筏井りさ(1-0)、4' 高橋京花(2-0)、30' 宮原ゆかり(3-1) [イラン]24'、32' MARAL TORKAMAN(2-1)(3-2)

警告 [イラン]32' ELHAM ANAFJEH

○:先発、△:交代出場

グループステージ第2戦

フットサル 日本女子代表 3 (第1ピリオド3-0) 2 (第2ピリオド0-2) フットサル バーレーン女子代表

●2025年5月9日 14:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]NAJAT ALBLOOSHI (UAE) [第2審判]REEM HEZAM ALBISHI (KSA) [第3審判]MUHAMAD FAIZ BIN JAMALUDDIN (MAS) [タイムキーパー]ZAHRA RAHIMI (IRN) ●マッチコミッショナー:WENDY ASSUNTA D'COSTA (IND) ●観衆:234人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 1 DALAL ABDULLA MOHAMED SALEH
須藤優理亜 2 GK GK 2 FATEMA SALMAN ALI
江口未珂 3 FP FP 3 EMAN ALKHATTAL
四井沙樹 4 FP FP 4 FATEMA ALNESUF
伊藤果穂 5 FP FP 5 H.E. SH. ALANOOD ALKHALIFA
池内天紀 6 FP FP 6 FARAH JEHAD KHALED
追野沙羅 7 FP FP 7 RAWAN ALALI
宮原ゆかり 8 FP FP 8 AMIRA SOWAR
江川涼 9 FP FP 9 HESSA ALISA
網城安奈 10 FP FP 10 ALYAA JUMA ALMUDHAHAKI
筏井りさ 11 FP FP 11 ROSE TOBELLAH
岩崎裕加 12 FP GK 12 KHULOOD SALEH ABDULLA
高橋京花 13 FP FP 13 MANAR YAQOOB
松本直美 14 FP FP 14 LELEYA SAKAR
須賀雄大 監督 監督 MARCELINO DA SILVA

得点 [日本]6'、6' 江川涼(1-0)(2-0)、11' 四井沙樹(3-0) [バーレーン]31' MANAR YAQOOB(3-1)、36' HESSA ALISA(3-2)

○:先発、△:交代出場

準々決勝

フットサル 日本女子代表 2 (第1ピリオド1-0) 0 (第2ピリオド1-0) フットサル ベトナム女子代表

●2025年5月13日 11:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]ZHU XIN (CHN) [第2審判]LIANG QINGYUN (CHN) [第3審判]MOON DAESUNG (KOR) [タイムキーパー]WAHYU WICAKSONO (IDN) ●マッチコミッショナー:JILL ESPIRITU (GUA) ●観衆:168人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 1 TRAN THI HAI YEN
須藤優理亜 2 GK GK 2 NGUYEN THI VAN ANH
江口未珂 3 FP FP 3 TRAN THI THU XUAN
四井沙樹 4 FP FP 4 TRAN THI LAN MAI
伊藤果穂 5 FP FP 5 TRAN NGUYET VI
池内天紀 6 FP FP 6 LE THI THANH NGAN
追野沙羅 7 FP FP 7 NGUYEN PHUONG ANH
宮原ゆかり 8 FP FP 8 TRAN THI THUY TRANG
江川涼 9 FP FP 9 TRINH NGUYEN THANH HANG
網城安奈 10 FP FP 10 PHO NGOC THANH THY
筏井りさ 11 FP FP 11 K' THUA
岩崎裕加 12 FP FP 12 BIEN THI HANG
高橋京花 13 FP FP 13 BUI THI TRANG
松本直美 14 FP GK 14 NGO NGUYEN THUY LIGN
須賀雄大 監督 監督 NGUYEN DINH HOANG

得点 [日本]3' オウンゴール(1-0)、24' 江川涼(2-0)

警告 [日本]20' 網城安奈、27' 松本直美

○:先発、△:交代出場

決勝

フットサル 日本女子代表 3 (第1ピリオド1-1) (第2ピリオド1-1) (延長第1ピリオド1-1) (延長第2ピリオド0-0) 3 (第1ピリオド1-1) (第2ピリオド1-1) (延長第1ピリオド1-1) (延長第2ピリオド0-0) フットサル タイ女子代表

●2025年5月17日 20:00 ●Hohhot Sports Centre ●試合時間:40分(プレーイングタイム)、延長10分、PK ●審判員:[主審]LIANG QINGYUN (CHN) [第2審判]ZHU XIN (CHN) [第3審判]REEM HEZAM ALBISHI (KSA) [タイムキーパー]ZARI FATHI (IRN) ●マッチコミッショナー:WENDY ASSUNTA D'COSTA (IND) ●観衆:1,701人

選手名 出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
井上ねね 1 GK GK 2 NUENGRUTHAI SORAHONG
須藤優理亜 2 GK GK 3 JENJIRA BUBPHA
江口未珂 3 FP FP 4 PATITTA MOOLPHO
四井沙樹 4 FP FP 5 HATAICHANOK TAPPAKUN
伊藤果穂 5 FP FP 6 SANGRAWEE MEEKHAM
池内天紀 6 FP FP 7 SASIKARN TONGDEE
追野沙羅 7 FP FP 8 PAERPLOY HUAJAIPETCH
宮原ゆかり 8 FP FP 9 ARRIYA SAETOEN
江川涼 9 FP FP 10 LALIDA CHIMPABUT
網城安奈 10 FP FP 11 NATTAMON ARTKLA
筏井りさ 11 FP FP 12 SAOVAPHA TRANGA
岩崎裕加 12 FP FP 13 DARIKA PEANPAILUN
高橋京花 13 FP FP 14 JANISTAR NUNABEE
松本直美 14 FP FP 14 JANISTAR NUNABEE
須賀雄大 監督 監督 THANATORN SANTANAPRASIT

得点 [日本]5' 追野沙羅(1-0)、21' 高橋京花(2-1)、44' 宮原ゆかり(3-3) [タイ]9' JENJIRA BUBPHA(1-1)、25' NATTAMON ARTKLA(2-2)、43' PAERPLOY HUAJAIPETCH(2-3)

警告 [日本]36' 網城安奈

○:先発、△:交代出場

データボックス

# ビーチサッカー日本代表 国際親善試合 / FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

[スタッフ]

※関連記事は64~67ページに掲載

○団長: 小西鉄平(JFAフットサル・ビーチサッカー部会長) ○監督: 田畑輝樹(NCS) ○コーチ: 奥山正憲(NCS/レーヴェ横浜) ○GKコーチ: 宜野座寛也(無所属) ○フィジカルコーチ: 山口将史(株式会社Reborn) ○テクニカルスタッフ: 渡邊大(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	河合雄介	東京ヴェルディ BS
	宮田政宗	アヴェルタージ熊本BS
	古里健	レーヴェ横浜
FP	茂怜羅オズ	東京ヴェルディ BS
	松田康佑	レーヴェ横浜
	松本憲	レーヴェ横浜
	赤熊卓弥	レーヴェ横浜
	上里琢文	東京ヴェルディ BS
	鈴木将人	ヴィアティン三重BS
	大場崇晃	東京ヴェルディ BS
	坪谷亮太	ソーマブライア沖縄
	大田誠人	アヴェルタージ熊本BS
	江黒力	ソーマブライア沖縄
安永海童	ラソアペーゴ北九州	

<スケジュール>

4月16日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド/ピッチ・カリオカ)
17日	トレーニング(ピッチ・カリオカ)
18日	地域交流・みらいつむぎ保育園(ピッチ・カリオカ)
19日~20日	トレーニング(ピッチ・カリオカ)
21日	成田発、ドーハ着
22日	ドーハ発、セーシェル着
23日~24日	トレーニング
25日	国際親善試合 vs ビーチサッカータヒチ代表
26日	国際親善試合 vs ビーチサッカーパラグアイ代表
27日~29日	トレーニング
30日	公式トレーニング

5月1日	FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025
2日	グループステージ第1戦 vs ビーチサッカーグアテマラ代表(The Paradise Arena)
3日	トレーニング
3日	グループステージ第2戦 vs ビーチサッカーペラルーシ代表(The Paradise Arena)
4日	トレーニング
5日	グループステージ第3戦 vs ビーチサッカーセーシェル代表(The Paradise Arena)
6日~7日	トレーニング
8日	準々決勝 vs ビーチサッカーポルトガル代表(The Paradise Arena)
9日	セーシェル発、ドーハ着
10日	ドーハ発、成田着、解散

## 国際親善試合

ビーチサッカー日本代表 7 (第1ピリオド1-3 第2ピリオド4-1 第3ピリオド2-0) 4 ビーチサッカータヒチ代表

●2025年4月25日 16:00 ●Roche Caimar(ヴィクトリア/セーシェル) ●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	3	△	松本憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	坪谷亮太
FP	4	○	松田康佑	FP	6	△	赤熊卓弥
FP	8	○	上里琢文	FP	9	△	鈴木将人
FP	7	○	大場崇晃	FP	11	△	江黒力
GK	12	△	古里健	FP	13	△	安永海童
GK	14	△	宮田政宗				
FP	2	△	大田誠人				

得点 2', 9', 11', 13' 失点(0-1) (1-2) (1-3) (1-4), 6', 22' 赤熊卓弥(1-1) (4-4), 15', 29' 坪谷亮太(2-4) (6-4), 21', 31' 茂怜羅オズ(3-4) (7-4), 23' 安永海童(5-4)

○:先発, △:交代出場

## 国際親善試合

ビーチサッカー日本代表 4 (第1ピリオド3-1 第2ピリオド0-5 第3ピリオド1-1) 7 ビーチサッカーパラグアイ代表

●2025年4月26日 16:00 ●Roche Caimar(ヴィクトリア/セーシェル) ●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	12	○	古里健	FP	3	△	松本憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	4	△	松田康佑
FP	8	○	上里琢文	FP	5	△	坪谷亮太
FP	7	○	大場崇晃	FP	6	△	赤熊卓弥
FP	9	○	鈴木将人	FP	11	△	江黒力
GK	1	△	河合雄介	FP	13	△	安永海童
GK	14	△	宮田政宗				
FP	2	△	大田誠人				

得点 1' 大場崇晃(1-0), 6' 赤熊卓弥(2-0), 8', 26' 大田誠人(3-0) (4-7), 8', 12', 14', 15', 16', 22', 26' 失点(3-1) (3-2) (3-3) (3-4) (3-5) (3-6) (3-7)

○:先発, △:交代出場

## <FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025>

### ■グループステージ

順位	グループA	ペラルーシ	日本	グアテマラ	セーシェル	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ペラルーシ	6○3	12○3	6○3	9	3	0	0	0	0	0	24	9	15
2	日本	3●6	6○2	10○2	6	2	0	0	0	1	19	10	9	
3	グアテマラ	3●12	2●6	4○3	3	1	0	0	0	2	9	21	-12	
4	セーシェル	3●6	2●10	3●4	0	0	0	0	0	3	8	20	-12	

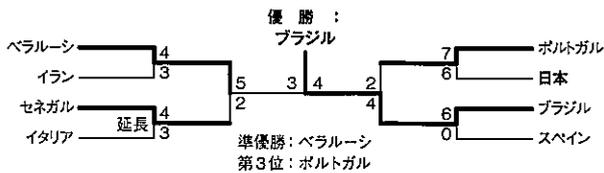
順位	グループC	セネガル	スペイン	チリ	タヒチ	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	セネガル	4○1	7○3	6○3	9	3	0	0	0	0	17	7	10	
2	スペイン	1●4	4○2	8○3	6	2	0	0	0	1	13	9	4	
3	チリ	3●7	2●4	7○6	3	1	0	0	0	2	12	17	-5	
4	タヒチ	3●6	3●8	6●7	0	0	0	0	0	3	12	21	-9	

順位	グループB	ポルトガル	イラン	パラグアイ	モリタニア	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ポルトガル	7○5	11○9	8○4	9	3	0	0	0	0	26	18	8	
2	イラン	5●7	5○1	5○4	6	2	0	0	0	1	15	12	3	
3	パラグアイ	9●11	1●5	9○5	3	1	0	0	0	2	19	21	-2	
4	モリタニア	4●8	4●5	5●9	0	0	0	0	0	3	13	22	-9	

順位	グループD	ブラジル	イタリア	オマーン	エルサルバドル	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ブラジル	2○1	11○1	3○1	9	3	0	0	0	0	16	3	13	
2	イタリア	1●2	7○4	5○0	6	2	0	0	0	1	13	6	7	
3	オマーン	1●11	4●7	0△0 7PK6	1	0	0	1	0	2	9	22	-13	
4	エルサルバドル	1●3	0●5	0△0 6PK7	0	0	0	0	1	3	5	12	-7	

○:勝ち(勝ち点3), 延勝勝ち(勝ち点2), △:PK勝ち(勝ち点1), ▲:PK負け(勝ち点0), ●:負け(勝ち点0)

### ■ノックアウトステージ



<3位決定戦> セネガル 2-3 ポルトガル

### ■大会各賞

FIFA Fair Play Trophy: 日本

adidas Golden Ball: RODRIGO (ブラジル)  
adidas Silver Ball: BRYSHTSEL Ihar (ペラルーシ)  
adidas Bronze Ball: BÊ MARTINS (ポルトガル)

adidas Golden Scorer: BRYSHTSEL Ihar (ペラルーシ)  
adidas Silver Scorer: ANDRÉ LOURENÇO (ポルトガル)  
adidas Bronze Scorer: RODRIGO (ブラジル)

adidas Golden Glove: AVGVSTOV Mikhail (ペラルーシ)

グループステージ第1戦

ビーチサッカー 日本代表 **6** (第1ピリオド2-2, 第2ピリオド0-0, 第3ピリオド4-0) **2** ビーチサッカー グアテマラ代表

●2025年5月1日 15:00 ●The Paradise Arena ●試合時間:12分×3ピリオド  
●審判員:[主審]SULTANOLU Oezcan(TUR) [第2審判]OSTROWSKI Lukasz(POL) [第3審判]BOTTALICO Saverio(ITA) [タイムキーパー]PLANCHAIS-GODEFROY Aurelien(TAH) ●観衆:1,003人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	△	1	GK	GK	1	○	CORDOVA Hendrick
大田誠人	△	2	FP	FP	2	△	LOPEZ Luis
松本憲	△	3	FP	FP	3	△	MONTEPEQUE Erick
松田康佑	△	4	FP	FP	4	○	LEM Jose
坪谷亮太	○	5	FP	FP	5	△	LOPEZ Edwin
赤熊卓弥	○	6	FP	FP	6	△	ALVAREZ William
大場崇晃	○	7	FP	FP	7	○	MARROQUIN Bery
上里琢文	△	8	FP	FP	8	△	PEREZ Samuel
鈴木将人	△	9	FP	FP	9	○	GONZALEZ Miguel
茂村羅オズ	○	10	FP	FP	10	○	CROCKER Pablo
江黒力	△	11	FP	FP	11	△	GONZALEZ Christopher
古里健	○	12	GK	GK	12	△	CRESCO Anderson
田畑輝樹			監督				CASTRO Farley

得点 [日本]2', 35'坪谷亮太(1-0)(6-2), 11'松田康佑(2-2), 28'古里健(3-2), 29'赤熊卓弥(4-2), 32'茂村羅オズ(5-2)  
[グアテマラ]2'MARROQUIN Bery(1-1), 3'GONZALEZ Miguel(1-2)

警告 [日本]5'松田康佑, 28'赤熊卓弥  
[グアテマラ]13'CROCKER Pablo, 32'CASTRO Farley

○:先発, △:交代出場

グループステージ第2戦

ビーチサッカー 日本代表 **3** (第1ピリオド0-1, 第2ピリオド1-3, 第3ピリオド2-2) **6** ビーチサッカー ペラルーシ代表

●2025年5月3日 15:00 ●The Paradise Arena ●試合時間:12分×3ピリオド  
●審判員:[主審]BCHIR Hamdi(TUN) [第2審判]SIAVE Steven(MRI) [第3審判]PALOMINO Micke(PER) [タイムキーパー]CARBALLO Gonzalo(SLV) ●観衆:1,041人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	△	1	GK	GK	1	△	USTSINOVICH Uladzimir
大田誠人	△	2	FP	FP	2	△	BOKACH Vadzim
松本憲	△	3	FP	FP	3	△	KANSTANTSINAU Ivan
松田康佑	△	4	FP	FP	4	○	DROZD Artsemi
坪谷亮太	○	5	FP	FP	5	△	CHAIKOUSKI Mikita
赤熊卓弥	○	6	FP	FP	6	○	PIATROUSKI Yury
大場崇晃	○	7	FP	FP	7	○	NOVIKAU Yauheni
上里琢文	△	8	FP	FP	8	○	BRYSHSEL Ihar
鈴木将人	△	9	FP	FP	9	△	HARDZETSKI Yahor
茂村羅オズ	○	10	FP	FP	10	△	RYABKO Anatoliy
江黒力	△	11	FP	FP	11	△	HAPON Aleh
古里健	○	12	GK	GK	12	○	AVGUSTOV Mikhail
田畑輝樹			監督				ALVARADO Nico

得点 [日本]16'鈴木将人(1-1), 26'大場崇晃(2-4), 29'茂村羅オズ(3-5)  
[ペラルーシ]6', 19', 23'NOVIKAU Yauheni(0-1)(1-2)(1-4), 21'HAPON Aleh(1-3), 26'BOKACH Vadzim(2-5), 35'DROZD Artsemi(3-6)

警告 [日本]26'松田康佑, 34'大田誠人 [ペラルーシ]33'HARDZETSKI Yahor

○:先発, △:交代出場

グループステージ第3戦

ビーチサッカー 日本代表 **10** (第1ピリオド2-1, 第2ピリオド6-1, 第3ピリオド2-0) **2** ビーチサッカー セーシェル代表

●2025年5月5日 19:00 ●The Paradise Arena ●試合時間:12分×3ピリオド  
●審判員:[主審]BOTTALICO Saverio(ITA) [第2審判]DOR Matthieu(FRA) [第3審判]ANGELES Juan(DOM) [タイムキーパー]TASHKOV Vladimir(BUL) ●観衆:3,572人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	○	1	GK	GK	1	△	ADELA Damien
大田誠人	△	2	FP	FP	2	○	PROSPER Herrode
松本憲	△	3	FP	FP	3	○	ONEZIME Rony
松田康佑	△	4	FP	FP	4	△	BALETTE Mike
坪谷亮太	△	5	FP	FP	5	△	BIBI Lienal
赤熊卓弥	○	6	FP	FP	6	△	SARAH Wayne
大場崇晃	○	7	FP	FP	7	○	AMADE Terrence
上里琢文	○	8	FP	FP	8	△	LABROSSE Brandon
鈴木将人	△	9	FP	FP	9	△	SERVINA Ryan
茂村羅オズ	○	10	FP	FP	10	○	DE KETELAERE Remy
江黒力	△	11	FP	FP	11	△	WILLIAM Martin
古里健	△	12	GK	GK	12	○	BOUCHEREAU Dominic
田畑輝樹			監督				KNOWLESSUR Herald

得点 [日本]10', 26'大場崇晃(1-0)(9-2), 12', 14', 17', 34'赤熊卓弥(2-1)(3-1)(4-2)(10-2), 19'江黒力(5-2), 19'坪谷亮太(6-2), 23'松本憲(7-2), 24'鈴木将人(8-2)  
[セーシェル]11', 16'BIBI Lienal(1-1)(3-2)

警告 [日本]29'坪谷亮太  
[セーシェル]26'BIBI Lienal, 29'AMADE Terrence, 36'BALETTE Mike

○:先発, △:交代出場

準々決勝

ビーチサッカー 日本代表 **6** (第1ピリオド1-2, 第2ピリオド1-1, 第3ピリオド4-4) **7** ビーチサッカー ボルトガル代表

●2025年5月8日 16:30 ●The Paradise Arena ●試合時間:12分×3ピリオド ●審判員:[主審]TASHKOV Vladimir(BUL) [第2審判]ALRAEESI Ibrahim(UAE) [第3審判]AL BALUSHI Fallah(OMA) [タイムキーパー]DOR Matthieu(FRA) ●観衆:2,442人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	○	1	GK	GK	1	○	PEDRO MANO
大田誠人	△	2	FP	FP	2	○	COIMBRA
松本憲	△	3	FP	FP	3	△	ANDRE LOURENCO
松田康佑	△	4	FP	FP	4	△	BERNARDO LOPES
坪谷亮太	△	5	FP	FP	5	○	JORDAN
赤熊卓弥	○	6	FP	FP	6	△	RODRIGO PINHAL
大場崇晃	○	7	FP	FP	7	△	RUBEN BRILHANTE
上里琢文	○	8	FP	FP	8	△	TIM
鈴木将人	△	9	FP	FP	9	△	MIGUEL PINTADO
茂村羅オズ	○	10	FP	FP	10	○	BE MARTINS
江黒力	△	11	FP	FP	11	○	LEO MARTINS
古里健	△	12	GK	GK	12	△	RUBEN REGUFE
田畑輝樹			監督				MARIO NARCISO

得点 [日本]6'鈴木将人(1-1), 18'大場崇晃(2-2), 29'松田康佑(3-4), 30'河合雄介(4-4), 30', 34'茂村羅オズ(5-5)(6-6)  
[ポルトガル]3', 30', 34'JORDAN(0-1)(4-5)(5-6), 7', 35'MIGUEL PINTADO(1-2)(6-7), 24'RUBEN BRILHANTE(2-3), 26'BE MARTINS(2-4)

警告 [日本]16'江黒力 [ポルトガル]27'BE MARTINS

○:先発, △:交代出場

2025ナショナルトレセンU-14 前期

概要: 個の育成の充実を図るトレセンの役割は高いレベルの指導・環境と選手同士の刺激による活動から得たものを自チームに還元していくことや指導者へのJFAの発信機会として重要度を増している。

そこで、選手育成・強化の観点から、より多くの選手に質の高いトレーニング機会を与えるために、トレーニング、ゲーム、ポジション別トレーニング、レクチャー等を実施する。

目的: 日本サッカーの強化・発展のため、優秀な選手の発掘・育成を図る  
選手・指導者のレベルアップを図る  
トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展を図る

主催: 公益財団法人日本サッカー協会

協賛: JFAオフィシャルトップパートナー :キリンホールディングス株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー :アディダス ジャパン株式会社

JFAメジャーパートナー :全日本空輸株式会社、株式会社クレディセゾン、KDDI株式会社、三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、MS & ADインシュアランスグループホールディングス株式会社、TOYO TIRE 株式会社

JFAコンペティションパートナー :株式会社モルテン

指導: 公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会(技術委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFA コーチ)  
地域トレセンU-14 指導スタッフ

期間: 2025年5月22日(木)~ 5月25日(日) 3泊4日

参加地域/開催場所: 北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国・四国・九州/J-GREEN 堺

データボックス

選手参加資格：

- ①本協会加盟登録選手(外国籍選手でもその選手の参加が他の選手にプラスと考えられる場合、参加を承認する)
- ②2011(平成23)年1月1日以降出生の者
- ③日常的にトレセンで活動している者

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式サイト参照

【コーチ】

地域	役職	名前	所属
北海道	コーチ	高向隼人	札幌大谷高校サッカー部
東北	コーチ	菊地満(岩手県)	岩手県トレセンU13
東北	コーチ(GK)	菅井聡(福島県)	福島県トレセンU13
関東	コーチ	今野嘉昭(山梨県)	甲斐市立敷島中学校サッカー部
関東	コーチ(GK)	野口滋巧(群馬県)	
北信越	コーチ	竹原靖和(石川県)	(一社)石川県サッカー協会
北信越	コーチ(GK)	山崎良輔(新潟県)	アルビレックス新潟U-15
東海	コーチ	永田伸輔(愛知県)	享栄高校
関西	コーチ	吉田智尚(奈良県)	(一社)奈良県サッカー協会
中国	コーチ	浅井一平(広島県)	J O I E安芸府中JY
四国	コーチ(GK)	斎藤篤郎(徳島県)	徳島ヴォルティスジュニアユース
九州	コーチ	川内満(長崎県)	(一社)長崎県サッカー協会

【選手】

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
北海道	GK	山口風	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	轟中希竜	北海道	SSSジュニアユース
北海道	FP	佐藤竜斗	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	中川青空	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
東北	GK	河原圭哉	福島県	JFAアカデミー福島U-15
東北	FP	安達楓李	山形県	モンテディオ山形ジュニアユース村山
東北	FP	沼袋玲二	岩手県	MIRUMAE・FC・U-15
東北	FP	尾崎璃音	山形県	山形FCジュニアユース
東北	FP	中瀬礼士	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
関東	GK	長田智成	山梨県	ヴァンフォーレ甲府U-15
関東	GK	青木馨	神奈川県	川崎フロンターレU-15生田
関東	FP	橋爪遼人※1	茨城県	鹿島アントラーズノルテジュニアユース
関東	FP	久保俊貴	千葉県	柏レイソルU-15
関東	FP	上野煌士郎	神奈川県	川崎フロンターレU-15生田
関東	FP	本庄新大※1	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース追浜
関東	FP	高田修司	栃木県	ブレイクレッツ佐野FC
関東	FP	岩崎隼人	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	畑研一	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	飯塚亮太	茨城県	FC古河
関東	FP	山内将利	神奈川県	パディージャニアユース横浜
関東	FP	片切康誠	千葉県	ジェフユナイテッド市原・千葉U-15
関東	FP	山田湊斗	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース
関東	FP	山本悠生	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース追浜
関東	FP	八木橋源太	千葉県	柏レイソルU-15
関東	FP	吉澤映社	神奈川県	川崎フロンターレU-15生田
関東	FP	磯部怜夢	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	中島由翔	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	高橋征矢	埼玉県	RB大宮アルディージャU15
北信越	GK	山本陽希※2	長野県	AC長野パルセイロU-15
北信越	FP	竹松駿※1	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	FP	角陽琉希	富山県	カターレ富山U-15
北信越	FP	徳久翔太郎	長野県	松本山雅フットボールクラブU-15
北信越	FP	市川心瑠	長野県	長野アンビシャスJY
北信越	FP	今井蓮	長野県	AC長野パルセイロU-15
東海	GK	長谷川朝陽	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	垣崎漣	愛知県	刈谷JY
東海	FP	バコシュタラングインセント	静岡県	清水エスパルスジュニアユース

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
東海	FP	梶原琉来	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	井川航	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	橋本勇人	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	松田龍之介	岐阜県	FC岐阜U-15
東海	FP	田中輪太郎	愛知県	FC岐阜U-15
東海	FP	山本イザアキ	三重県	ヴェルデラッソ松阪U-15
関西	GK	鈴木要	大阪府	セレッソ大阪和歌山U-15
関西	FP	中村将也	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	伊藤後城	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	原旺也※2	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	波多野叶人	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	朝尾桜介	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	磯本泰輝	和歌山県	セレッソ大阪和歌山U-15
関西	FP	垂水陽	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	足立匠輝	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	丸岡仁	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	GK	船瀬慎斗	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	黒川仁都	和歌山県	セレッソ大阪和歌山U-15
中国	FP	金子諒哉	岡山県	ファジアーノ岡山U-15
中国	FP	岩成浩和	広島県	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース
中国	FP	梶谷優伍	広島県	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース
四国	GK	濱松斗真	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	青木琉希	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	一柳颯汰	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	宮岡虎将	愛媛県	愛媛FC U-15
九州	FP	山崎龍心※1	熊本県	ロアッソ熊本ジュニアユース
九州	FP	塩塚耀吏	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	山口慶太郎	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	野口啓斗	熊本県	ソレックス熊本
九州	FP	宮本愛叶	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	森岡蒼太※2	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	藤岡鉄太	熊本県	ソレックス熊本
九州	FP	松元玲雄	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	瀬戸琥太郎	鹿児島県	神村学園中等部

※1：ケガのため辞退  
 ※2：体調不良のため辞退

データボックス

2025ナショナルトレセン女子U-14 前期

目的	日本女子サッカーの強化・発展のため、 ①優秀な選手の発掘・育成 ②選手・指導者のレベルアップ ③トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展
主催	公益財団法人日本サッカー協会
協賛	JFA オフィシャルトップパートナー：キリンホールディングス株式会社 JFA オフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社 JFA メジャーパートナー：全日本空輸株式会社、株式会社クレディセゾン、KDDI株式会社、三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社、TOYO TIRE 株式会社 JFA コンペティションパートナー：株式会社モルテン
指導	公益財団法人日本サッカー協会 女子委員会 女子委員/女子委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFA コーチ・FA コーチ
期間	2025年5月22日(木)～5月25日(日) 3泊4日
開催場所	Jヴィレッジ

- 選手参加資格 ①本協会に加盟登録している女子(所属するチームの種別は問わない)  
 ②年齢 原則として2011(平成23)年1月1日~2013(平成25)年4月1日出生  
 ③日常的にトレセンで活動していること

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式ウェブサイト参照

【選手】

地域	Pos.	名前	所属
北海道	GK	鈴木知菜	クラブフィールズ・リンダ
北海道	FP	坂本芽依	北海道リラ・コンサドーレ
北海道	FP	佐藤乃那	北海道リラ・コンサドーレ
北海道	FP	丹野莉々彩	北海道コンサドーレ旭川U-15
北海道	FP	松坂綾音	北海道リラ・コンサドーレ
東北	GK	柴田優芽	庄内フットボールクラブアカデミーガールズ
東北	FP	伊吹凜咲	マイナビ仙台レディースジュニアユース
東北	FP	坂垣葵愛来	いわぎFC Girls
東北	FP	籠林杏菜	リベロ弘前SCフィオーレ
東北	FP	和久井麻央	ながいユナイテッドフットボールクラブ
関東	GK	大保向日葵	栃木SCレディース
関東	FP	浅野伶央	浦和レッズレディースジュニアユース
関東	FP	石原菊	浦和レッズレディースジュニアユース
関東	FP	小田葵音	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15
関東	FP	金子日和	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15
関東	FP	河合萌花	浦和レッズレディースジュニアユース
関東	FP	中田優沙	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール
関東	FP	檜山未知琉	栃木SCレディース
関東	FP	平出章	浦和レッズレディースジュニアユース
関東	FP	村上奏羽	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール
関東	FP	藤野碧海	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール
東海	GK	佐藤次美	常葉大学附属橋中学校女子サッカー部
東海	FP	大宮那月	朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス
東海	FP	加藤咲緑	藤枝順心サッカークラブジュニアユース
東海	FP	佐々木楓和	常葉大学附属橋中学校女子サッカー部
東海	FP	三浦璃音	FC.フェルボール.MIMOSA
東海	FP	森由依理	藤枝順心サッカークラブジュニアユース
東海	FP	山本花羽	SATOなでしこU-15

地域	Pos.	名前	所属
北信越	FP	大竹ほづみ	アルビレックス新潟レディースU-15
北信越	FP	辰尾環那	富山新庄クラブU-15
北信越	FP	新田夏海	富山新庄クラブU-15
北信越	FP	東虹来	北陸大学フィオーレ
関西	GK	喜田苺佳	INAC神戸テゾーロ
関西	FP	岡田真帆	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
関西	FP	瀬戸美里	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
関西	FP	西田莉壘	RESC GIRLS U-15
関西	FP	橋本海凜	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
関西	FP	八木美月	INAC神戸テゾーロ
関西	FP	山内うた	INAC神戸テゾーロ
中国	GK	金川愛夢	FC. REVO山口U-15
中国	FP	篠原結菜	spes iwami SC
中国	FP	高木菜望	ディオッサ出雲FCジュニアユース
中国	FP	武田心花	ディオッサ出雲FCジュニアユース
中国	FP	西森咲華	サンフレッチェ広島レジーナジュニアユース
四国	GK	藤井真子	FC STORY Tokushima メニーナ
四国	FP	高木心菜	BESFORTジュニアユース
四国	FP	中澤英美	愛媛FCレディースMIKAN
四国	FP	永易文葉	FC今治レディースNEXT
四国	FP	松本琴星	FC STORY Tokushima メニーナ
九州	GK	山下たまき	益城ルネサンス熊本FC
九州	FP	有村咲耶	マリーゴールド天草
九州	FP	小田結月	ヴィアマテラス宮崎Soreina
九州	FP	川本相奈	FC LIBERTA
九州	FP	新宅胡春	神村学園中等部女子サッカー部
九州	FP	長友聖奈	日南市立吾田中学校サッカー部
九州	FP	福留かずな	神村学園中等部女子サッカー部

JFA 第19回全日本O-70サッカー大会

JFA 第19回全日本O-70サッカー大会は1956(昭和31)年4月1日以前生まれの2025年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で5月23日~25日に静岡県藤枝市で開催された。

※関連記事は72ページに掲載

■1次ラウンド

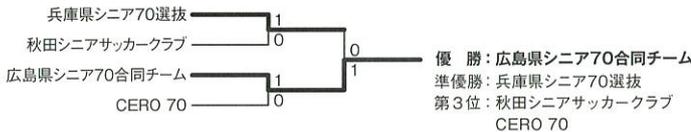
順位	グループE	兵庫	静岡	高知	富山	勝	分	負	得点	失点	差	
1	兵庫県シニア70選抜(関西/兵庫)		1 0 0	1 0 0	1 0 0	9	3	0	0	3	0	3
2	静岡県選抜O-70(開催地/静岡)	0 ● 1		2 0 0	3 0 0	6	2	0	1	5	1	4
3	高知昭和OB会サッカークラブ(四国/高知)	0 ● 1	0 ● 2		0 △ 0	1	0	1	2	0	3	-3
4	富山県70選抜(北信越/富山)	0 ● 1	0 ● 3	0 △ 0		1	0	1	2	0	4	-4

順位	グループF	広島	埼玉	愛知	室蘭	勝	分	負	得点	失点	差	
1	広島県シニア70合同チーム(中国1/広島)		1 0 0	1 0 0	1 △ 1	7	2	1	0	3	1	2
2	埼玉シニア70(関東2/埼玉)	0 ● 1		3 0 0	2 0 0	6	2	0	1	5	1	4
3	愛知県選抜O-70(東海/愛知)	0 ● 1	0 ● 3		2 0 1	3	1	0	2	2	5	-3
4	FC70室蘭(北海道)	1 △ 1	0 ● 2	1 ● 2		1	0	1	2	2	5	-3

順位	グループG	CERO	秋田	島根	長崎	勝	分	負	得点	失点	差	
1	CERO 70(関東1/東京)		1 0 0	2 0 0	1 0 0	9	3	0	0	4	0	4
2	秋田シニアサッカークラブ(東北/秋田)	0 ● 1		1 0 0	5 0 0	6	2	0	1	6	1	5
3	島根70シニア(中国2/島根)	0 ● 2	0 ● 1		1 0 0	3	1	0	2	1	3	-2
4	長崎県選抜(九州/長崎)	0 ● 1	0 ● 5	0 ● 1		0	0	0	3	0	7	-7

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



【参加選手】

<FC70室蘭> 監督:長谷川進

今野裕、佐藤和行、和田四郎、齋藤浩、岸奥裕二、平野光広、近藤勝治、齋藤訓、木村義弘、菊池義男、市川義次、濱口明雄、黒川祐二、伊藤公、打矢徹雄、金澤信彦、布村修、清野裕、高木功、早坂芳治、加賀谷信男、長谷川進

<秋田シニアサッカークラブ> 監督:石川勤

谷藤光樹、小石克則、渡邊京一、佐藤一朗、大須賀健二、志田康雄、金子勇一郎、遠藤睦夫、菅原一志、澁谷正秀、正木修一、鈴木祐悦、藤原広敏、遠田和夫、石川勤、遠藤孝樹、郡山茂樹、船木均、高橋智弘、熊谷明夫、進藤鋼、五嶋一夫、今野恵一、池田敏三、齋藤薫

<CERO 70> 監督:田中範夫

桑田信男、嶺野俊将、渡辺正博、呉正彦、田中範夫、熊谷信彦、坂井正雄、成楽秀、青木是清、鈴木晴彦、植村祐幸、成炳茂、金高載、岸弘之、落合正史、宮崎洋、大眉博、深澤光賢、中川雅資、岡垣良則、飛弾誠、小俣晴男、成炳優、洪光洙、中澤不二雄

<埼玉シニア70> 監督:浦田秀夫

清水幸司、泉名和彦、八若行延、田中良一、宇塚勝見、佐藤次晴、横山直樹、中井川昌三、加藤貴、福見祐四郎、金子正士、富永晃司、坪谷武安、星野幸男、小林武、刀根芳明、野間薫、河野淳、町田純一、馬場隆、関口久雄、黒田富士雄、鈴木信行、清部敬三、宇佐美明男



<FC60SHIGA> 監督:植村晋

河原隆裕、海老池浩司、田中和也、中村和正、服部浩之、松下哲広、西畑治、荻野敏寛、辻一義、仲一成、田中毅、川嶋隆志、神保剛、滝次宏、奥村智、上田博久、服部久仁夫、芦原洋平、戸田浩司、柳洪基、三宅則彦、山元智

<広島フォーティーズ> 監督:楚輪司

久保道丸、田中良和、土岡久展、豊島俊樹、小林憲昭、柴田克也、吉田昌司、村田吉隆、井上浩則、古川尚、釜野美幸、楚輪司、細田昭彦、山根和範、山岡正彦、岡谷和彦、江角直樹、藤原公義、笠井謙次、野村幸夫、山下徹、宮本浩幸、炭廣幸弘、麻生賢一、香川清司

<シニア岡山FC> 監督:大森正

近藤清弘、川村清吾、福永淳二、木口由紀夫、村木健一、徳永淳、末長誠、石原弘久、成木真太郎、永瀬一雄、中田和宏、井上修一、三原信二、高杉整二、森川俊裕、岡本隆、清田弘幸、矢野官史、沖昌幸、赤澤俊之

<香川シニア60> 監督:長尾誠仁

新延秀信、植田一彦、上田新、兼元実、木戸大祐、中村孝、梶原敏彦、佐々木登、木村和泰、長尾誠仁、松谷恭秀、西尾俊哉、山根康彦、福島由樹、中村敏康、天雲和千、石川敏則、臼井仁志、柴村正己、越田達夫、七條強、近藤尊志、吉田賢二郎

<徳島カバロスシニア60> 監督:後藤田昭二

小林孝司、横山雅彦、大谷修二、鶴澤宏明、後藤恭志、牧野富和、清重孝、岡田佳造、玉谷正治、福原博行、柴田政美、篠塚久、高島昭、大久保良憲、井上章、岡野耕二、坂東智志、大隅壮行、永浜勝仁、佐藤武史

<福岡飛び梅60SC> 監督:大塚哲雄

山口裕三、林祐介、宮田清徳、高尾修一、大塚充敏、木村勝利、鶴崎直樹、井手橋和義、赤木雅史、岡崎雄一、高木司美、池辺英明、原田克己、本庄徹哉、池末英之、佐瀬久志、若本英文、能野知学、下堂英治、大井成元、吉田郁夫、鶴原一徳、神吉彰、山下英一

<KUMAMOTO肥後シニア> 監督:白井輝夫

鎌田義博、中原康智、宮川浩敏、原田誠次、加藤勝人、野田豊、岩崎弘喜、山内伸次、坂本康浩、吉村政孝、財満泰裕、澤田誠、宮田勇、吉田高広、曾我雄二、高木太郎、堀川順司、三村和久、島崎修、田中芳和、東光志、満田和浩、永嶋慎二、赤木孝治、鈴木博司

<静岡県選抜O-60> 監督:石上信之

櫻井美紀雄、菟崎豊樹、袴田進吾、大木暢茂、前島祥彦、大塚智久、山村俊幸、吉盛浩、森脇久晃、望月哲也、及川浩二、安間和仁、松本益臣、後藤孝典、渡邊裕司、斎藤昌文、牧田昌巳、伊達幸浩、鈴木達也、山本薫、宮松正治、海野真、水島弘史、飯塚仁志

2024-25 SOMPO WEリーグ

12クラブによる2回戦総当たりリーグ戦(ホーム&アウェイ)で、全22節/132試合を実施した。

※関連記事は62~63ページに掲載

■戦績表

順位	チーム名		東京NB	I神戸	浦和	新潟L	広島	EL埼玉	C大阪	AC長野	千葉L	相模原	大宮	仙台	勝5点	勝	分	負	得点	失点	差	
1	日テレ・東京ベレーザ	H		0●2	0●2	3○1	1○0	3○0	2○1	5○1	3○0	2△2	4○1	4○0	51	16	3	3	50	16	34	
		A		0△0	1△1	2○0	2○0	4○0	4○1	4○1	0●1	2○1	2○1	2○0								
2	INAC神戸レオネッサ	H	0△0		0●1	3○0	1△1	1○0	3○1	3○2	2○1	4○0	3○1	6○0	51	16	3	3	43	14	29	
		A	2○0		1○0	1○0	0●1	2△2	1●2	3○0	2○1	3○1	1○0	1○0								
3	三菱重工浦和レッズレディース	H	1△1	0●1		0●1	2○1	1△1	2○1	2○1	2○0	2△2	4○0	1○0	46	13	7	2	32	13	19	
		A	2○0	1○0		0△0	0△0	3△3	1○0	1○0	2○0	1△1	3○0	1○0								
4	アルビレックス新潟レディース	H	0●2	0●1	0△0			2△2	2○1	0△0	2○1	0●1	1○0	1△1	3○0	40	12	4	6	31	21	10
		A	1●3	0●3	1○0		0●1	4○0	2○1	2○1	1○0	2○0	1○0	6○3								
5	サンフレッチェ広島レジーナ	H	0●2	1○0	0△0	1○0		1○0	1△1	1○0	0△0	1△1	4○0	4○1	37	10	7	5	26	14	12	
		A	0●1	1△1	1●2	2△2		0●1	4○1	0●1	2○0	1○0	1○0	0△0								
6	ちふれASエルフェン埼玉	H	0●4	2△2	3△3	0●4	1○0		2○1	1△1	2○0	4○1	0●1	4○0	30	8	6	8	30	30	0	
		A	0●3	0●1	1△1	1●2	0●1		0△0	3○0	1○0	2△2	2○1	1●2								
7	セレッソ大阪ヤンマーレディース	H	1●4	2○1	0●1	1●2	1●4	0△0		1●3	1△1	3○1	1●2	3○1	23	6	5	11	29	33	-4	
		A	1●2	1●3	1●2	0△0	1△1	1●2		1●2	0△0	2○0	4○0	3○1								
8	AC長野パルセイロ・レディース	H	1●4	0●3	0●1	1●2	1○0	0●3	2○1			2○0	2●3	1△1	2○1	22	6	4	12	25	40	-15
		A	1●5	2●3	1●2	1●2	0●1	1△1	3○1			2○1	0●3	0△0	2△2							
9	ジェフ千葉レディース	H	1○0	1●2	0●2	0●1	0●2	0●1	0△0	1●2		2○1	2△2	0△0	20	5	5	12	15	30	-15	
		A	0●3	1●2	0●2	1○0	0△0	0●2	1△1	0●2		1●4	1○0	3○1								
10	ノジマステラ神奈川相模原	H	1●2	1●3	1△1	0●2	0●1	2△2	0●2	3○0	4○1		0△0	2○0	18	4	6	12	27	39	-12	
		A	2△2	0●4	2△2	0●1	1△1	1●4	1●3	3○2	1●2		1●2	1●2								
11	大宮アルディージャVENTUS	H	1●2	0●1	0●3	0●1	0●1	1●2	0●4	0△0	0●1	2○1		3○1	18	4	6	12	16	37	-21	
		A	1●4	1●3	0●4	1△1	0●4	1○0	2○1	1△1	2△2	0△0		0△0								
12	マイナビ仙台レディース	H	0●2	0●1	0●1	3●6	0△0	2○1	1●3	2△2	1●3	2○1	0△0		10	2	4	16	15	52	-37	
		A	0●4	0●6	0●1	0●3	1●4	0●4	1●3	1●2	0△0	0●2	1●3									

○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

AFCチャンピオンズリーグエリート2024/25

※関連記事は18~19ページに掲載

■リーグステージ

順位	EAST	勝5点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜F・マリノス(日本)	18	6	0	1	21	7	14
2	川崎フロンターレ(日本)	15	5	0	2	13	4	9
3	ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア)	14	4	2	1	16	8	8
4	光州FC(韓国)	14	4	2	1	15	9	6
5	ヴィッセル神戸(日本)	13	4	1	2	14	9	5
6	ブリーラム・ユナイテッド(タイ)	12	3	3	2	7	12	-5

順位	EAST	勝5点	勝	分	負	得点	失点	差
7	上海申花(中国)	10	3	1	4	13	12	1
8	上海海港(中国)	8	2	2	4	10	18	-8
9	浦項スティーラース(韓国)	6	2	0	5	9	17	-8
10	蔚山HD(韓国)	3	1	0	6	4	16	-12
11	セントラルコースト・マリナーズ(オーストラリア)	1	0	1	6	8	18	-10

勝ち(勝ち点3)、引き分け(勝ち点1)、負け(勝ち点0)

上海海港	0-2	横浜F・マリノス
ジョホール・ダルル・タクジム	5-2	浦項スティーラース
上海申花	4-2	ヴィッセル神戸
川崎フロンターレ	2-0	セントラルコースト・マリナーズ
光州FC	2-2	プリーラム・ユナイテッド
プリーラム・ユナイテッド	2-1	蔚山HD
横浜F・マリノス	1-0	上海申花
浦項スティーラース	0-4	川崎フロンターレ
ヴィッセル神戸	4-0	上海海港
セントラルコースト・マリナーズ	1-2	ジョホール・ダルル・タクジム
上海申花	1-2	蔚山HD
上海海港	1-1	光州FC
ジョホール・ダルル・タクジム	0-0	プリーラム・ユナイテッド
浦項スティーラース	3-1	ヴィッセル神戸
セントラルコースト・マリナーズ	0-4	横浜F・マリノス
横浜F・マリノス	2-0	浦項スティーラース
光州FC	1-0	上海申花
プリーラム・ユナイテッド	0-3	川崎フロンターレ
蔚山HD	1-3	上海海港
ヴィッセル神戸	3-2	セントラルコースト・マリナーズ

横浜F・マリノス	5-0	プリーラム・ユナイテッド
ジョホール・ダルル・タクジム	3-0	蔚山HD
ヴィッセル神戸	2-0	光州FC
川崎フロンターレ	3-1	上海海港
セントラルコースト・マリナーズ	2-2	上海申花
上海申花	2-0	川崎フロンターレ
蔚山HD	0-2	ヴィッセル神戸
プリーラム・ユナイテッド	1-0	浦項スティーラース
上海海港	3-2	セントラルコースト・マリナーズ
光州FC	3-1	ジョホール・ダルル・タクジム
横浜F・マリノス	4-0	蔚山HD
ジョホール・ダルル・タクジム	3-0	上海申花
浦項スティーラース	3-0	上海海港
川崎フロンターレ	0-1	光州FC
セントラルコースト・マリナーズ	1-2	プリーラム・ユナイテッド
上海海港	2-2	ジョホール・ダルル・タクジム
蔚山HD	0-1	川崎フロンターレ
上海申花	4-1	浦項スティーラース
プリーラム・ユナイテッド	0-0	ヴィッセル神戸
光州FC	7-3	横浜F・マリノス

順位	WEST	原5点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アルヒラル(サウジアラビア)	22	7	1	0	26	7	19
2	アルアハリ・サウジ(サウジアラビア)	22	7	1	0	21	8	13
3	アルナスル(サウジアラビア)	17	5	2	1	17	6	11
4	アルサッド(カタール)	12	3	3	2	10	9	1
5	アル・ワスル(UAE)	11	3	2	3	8	12	-4
6	エステグラル(イラン)	9	2	3	3	8	9	-1

順位	WEST	原5点	勝	分	負	得点	失点	差
7	アル・ラーヤン(カタール)	8	2	2	4	8	12	-4
8	バフタコール(ウズベキスタン)	7	1	4	3	4	6	-2
9	ベルセポリス(イラン)	7	1	4	3	6	10	-4
10	アル・ガラファ(カタール)	7	2	1	5	10	18	-8
11	アル・ショルタ(イラク)	6	1	3	4	7	17	-10
12	アル・アイン(UAE)	2	0	2	6	11	22	-11

勝ち(勝ち点3)、引き分け(勝ち点1)、負け(勝ち点0)

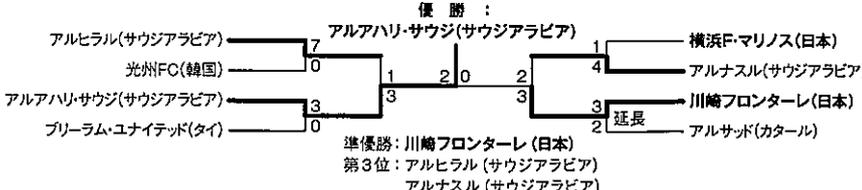
アル・ワスル 0-2	アルヒラル	アルアハリ・サウジ 2-2	エステグラル	アル・ラーヤン 1-2	アルアハリ・サウジ
アル・ラーヤン 0-2	エステグラル	ベルセポリス 2-1	アル・ショルタ	アル・アイン 4-5	アルヒラル
アルアハリ・サウジ 4-2	アル・ガラファ	アルサッド 1-1	アルヒラル	アルサッド 1-0	ベルセポリス
ベルセポリス 0-0	アルナスル	アル・ショルタ 1-3	アル・ワスル	アル・ショルタ 0-0	バフタコール
アル・ショルタ 2-0	アル・アイン	アル・ラーヤン 1-1	ベルセポリス	アルヒラル 5-0	アル・ショルタ
バフタコール 2-1	アルサッド	アル・ガラファ 1-3	アルナスル	アル・ガラファ 4-2	アル・アイン
アルヒラル 4-1	ベルセポリス	エステグラル 0-0	バフタコール	アルナスル 2-1	アル・ラーヤン
アル・ガラファ 1-0	バフタコール	アル・アイン 1-2	アルアハリ・サウジ	アル・ワスル 0-2	アルアハリ・サウジ
アルナスル 4-0	アル・ワスル	アルナスル 5-1	アル・アイン	ベルセポリス 1-1	バフタコール
アルサッド 1-3	アルアハリ・サウジ	バフタコール 0-1	アル・ラーヤン	アルサッド 2-0	エステグラル
エステグラル 1-1	アル・ショルタ	アルヒラル 3-0	エステグラル	アル・ラーヤン 1-3	アルヒラル
アル・アイン 1-2	アル・ラーヤン	ベルセポリス 1-1	アル・ガラファ	バフタコール 0-1	アル・ワスル
アルヒラル 3-0	アル・ガラファ	アルアハリ・サウジ 5-1	アル・ショルタ	アルアハリ・サウジ 1-0	ベルセポリス
バフタコール 1-1	アル・アイン	アル・ワスル 1-1	アルサッド	エステグラル 3-0	アル・ガラファ
アルナスル 1-2	アルサッド	アル・ガラファ 1-2	アル・ワスル	アル・ショルタ 1-1	アルナスル
アル・ワスル 1-1	アル・ラーヤン	エステグラル 0-1	アルナスル	アル・アイン 1-1	アルサッド

■ノックアウトステージ

<ラウンド16>

エステグラル(イラン) 0-0	アルナスル(サウジアラビア)	アルナスル(サウジアラビア) 3-0	エステグラル(イラン)
アル・ワスル(UAE) 1-1	アルサッド(カタール)	アルサッド(カタール) 3-1	アル・ワスル(UAE)
上海海港(中国) 0-1	横浜F・マリノス(日本)	横浜F・マリノス(日本) 4-1	上海海港(中国)
プリーラム・ユナイテッド(タイ) 0-0	ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア)	ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア) 0-1	プリーラム・ユナイテッド(タイ)
バフタコール(ウズベキスタン) 1-0	アルヒラル(サウジアラビア)	アルヒラル(サウジアラビア) 4-0	バフタコール(ウズベキスタン)
アル・ラーヤン(カタール) 1-3	アルアハリ・サウジ(サウジアラビア)	アルアハリ・サウジ(サウジアラビア) 2-0	アル・ラーヤン(カタール)
ヴィッセル神戸(日本) 2-0	光州FC(韓国)	川崎フロンターレ(日本) 4-0	上海申花(中国)
上海申花(中国) 1-0	川崎フロンターレ(日本)	光州FC(韓国) 3-0(延長)	ヴィッセル神戸(日本)

<ファイナルステージ>



# AFCチャンピオンズリーグ 2024/25

※関連記事は18~19ページに掲載

## ■グループステージ

順位	グループA	トラクター	アルワクラ	ラフシャン	勝	分	負	得点	失点	差
1	トラクター(イラン)	H 3△3 A 3○0	7○0 3○1	10	3	1	0	16	4	12
2	アルワクラ(カタール)	H 0●3 A 3△3	0●2 1○0	4	1	1	2	4	8	-4
3	ラフシャン(タジキスタン)	H 1●3 A 0●7	0●1 2○0	3	1	0	3	3	11	-8

順位	グループB	アル・タアウンFC(サウジアラビア)	アル・ハルディヤ(バーレーン)	エアフォースSC(イラク)	アルティン・アシル(トルクメニスタン)	勝	分	負	得点	失点	差
1	アル・タアウンFC(サウジアラビア)	H 2○1 A 3○2	1●2 1○0	2○1 1○0	15	5	0	1	13	6	7
2	アル・ハルディヤ(バーレーン)	H 2●3 A 1●2	4○1 2○1	4○0 1○0	12	4	0	2	14	7	7
3	エアフォースSC(イラク)	H 0●1 A 2○1	1●2 1●4	2○1 2○0	9	3	0	3	8	9	-1
4	アルティン・アシル(トルクメニスタン)	H 0●4 A 1●2	0●1 0●4	0●2 1●2	0	0	0	6	2	15	-13

順位	グループC	シャルジャFC(UAE)	アルワフダート(ヨルダン)	セバハン(イラン)	イスティクロル(タジキスタン)	勝	分	負	得点	失点	差
1	シャルジャFC(UAE)	H 2△2 A 3○1	3○1 1△1	3○1 1○0	13	4	1	1	13	8	5
2	アルワフダート(ヨルダン)	H 1●3 A 2△2	2○1 1△1	1○0 1○0	11	3	2	1	8	7	1
3	セバハン(イラン)	H 3○1 A 1●3	1△1 1●2	4○0 2○0	10	3	1	2	12	7	5
4	イスティクロル(タジキスタン)	H 0●1 A 1●3	0●1 0●1	0●2 0●4	0	0	0	6	1	12	-11

順位	グループD	シャバブ・アルアハリ(UAE)	アル・フセイン(ヨルダン)	クウェートSC(クウェート)	ナザフ(ウズベキスタン)	勝	分	負	得点	失点	差
1	シャバブ・アルアハリ(UAE)	H 3○1 A 3○2	4○1 3△3	3○2 1△1	13	4	1	1	17	11	6
2	アル・フセイン(ヨルダン)	H 2●3 A 1●3	2○1 2△2	2○1 2△2	10	3	1	2	11	11	0
3	クウェートSC(クウェート)	H 3△3 A 1●4	2△2 1●2	0△0 2○1	6	1	3	2	9	12	-3
4	ナザフ(ウズベキスタン)	H 2○1 A 2●3	1●2 1●2	1●2 0△0	4	1	1	4	7	10	-3

順位	グループE	サンフレッチェ広島(日本)	シドニーFC(オーストラリア)	カヤFC・イロイロ(フィリピン)	東方(ホンコン・チャイナ)	勝	分	負	得点	失点	差
1	サンフレッチェ広島(日本)	H 2○1 A 1○0	3○0 1△1	4○1 3○0	16	5	1	0	14	5	9
2	シドニーFC(オーストラリア)	H 0●1 A 1●2	3○1 4○1	5○0 4○1	12	4	0	2	17	6	11
3	カヤFC・イロイロ(フィリピン)	H 1△1 A 0●3	1●4 1●3	1●2 2○1	4	1	1	4	6	14	-8
4	東方(ホンコン・チャイナ)	H 2●3 A 1●4	1●4 0●5	1●2 2○1	3	1	0	5	7	19	-12

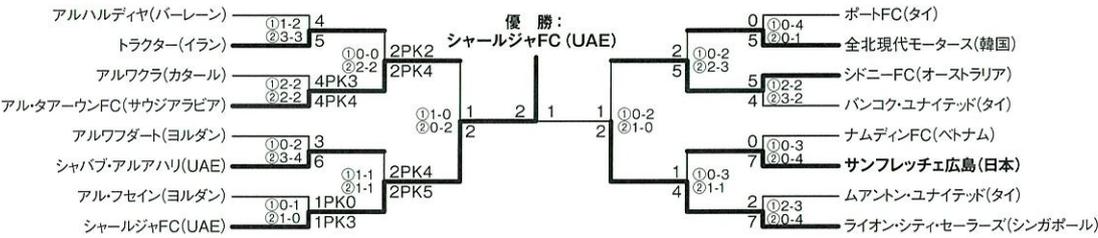
順位	グループF	ライオン・シティ・セーラーズ(シンガポール)	ポートFC(タイ)	浙江FC(中国) <th>ヘルシブ・バンドン(インドネシア)</th> <th>勝</th> <th>分</th> <th>負</th> <th>得点</th> <th>失点</th> <th>差</th>	ヘルシブ・バンドン(インドネシア)	勝	分	負	得点	失点	差
1	ライオン・シティ・セーラーズ(シンガポール)	H 5○2 A 3○1	2○0 2●4	2●3 1△1	10	3	1	2	15	11	4
2	ポートFC(タイ)	H 1●3 A 2●5	1○0 2○1	2△2 1○0	10	3	1	2	9	11	-2
3	浙江FC(中国)	H 4○2 A 0●2	1●2 0●1	1○0 4○3	9	3	0	3	10	10	0
4	ヘルシブ・バンドン(インドネシア)	H 1△1 A 3○2	0●1 2△2	3●4 0●1	5	1	2	3	9	11	-2

順位	グループG	バンコク・ユナイテッド(タイ)	ナムディンFC(ベトナム)	タンビネス・ローバース(シンガポール)	理文(香港)	勝	分	負	得点	失点	差
1	バンコク・ユナイテッド(タイ)	H 3○2 A 0△0	4○2 0●1	4○1 1○0	13	4	1	1	12	6	6
2	ナムディンFC(ベトナム)	H 0△0 A 2●3	3○2 3△3	3○0 2○0	11	3	2	1	13	8	5
3	タンビネス・ローバース(シンガポール)	H 1○0 A 2●4	3△3 2●3	3○1 0△0	8	2	2	2	11	11	0
4	理文(香港)	H 0●1 A 1●4	0●2 0●3	0△0 1●3	1	0	1	5	2	13	-11

順位	グループH	全北現代モータース(韓国)	ムアントン・ユナイテッド(タイ)	セランゴールFC(マレーシア)	セブFC(フィリピン)	勝	分	負	得点	失点	差
1	全北現代モータース(韓国)	H 4○1 A 0●1	1○0 1●2	4○0 6○0	12	4	0	2	16	4	12
2	ムアントン・ユナイテッド(タイ)	H 1○0 A 1●4	1△1 2○1	2△2 9○0	11	3	2	1	16	10	6
3	セランゴールFC(マレーシア)	H 2○1 A 0●1	1●2 1△1	1○0 4○0	10	3	1	2	9	5	4
4	セブFC(フィリピン)	H 0●6 A 0●4	2●9 2△2	0●4 0●1	1	0	1	5	4	26	-22

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

## ■ノックアウトステージ



データボックス

# AFC女子チャンピオンズリーグ 2024/25

## ■グループステージ

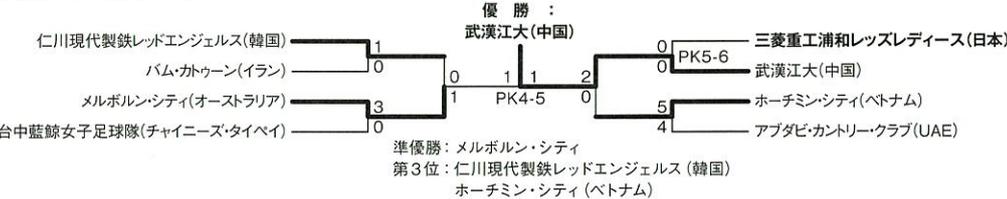
順位	グループA	仁川現代製鉄レッドエンジェルス(韓国)	アバディ・カントリー・クラブ(UAE)	武漢江大(中国)	サバ FA(マレーシア)	勝	分	負	得点	失点	差
1	仁川現代製鉄レッドエンジェルス(韓国)	2△2	2○0	3○0	7	2	1	0	7	2	5
2	アバディ・カントリー・クラブ(UAE)	2△2		2○1	2△2	5	1	2	6	5	1
3	武漢江大(中国)	0●2	1●2	7○0	3	1	0	2	8	4	4
4	サバ FA(マレーシア)	0●3	2△2	0●7	1	0	1	2	2	12	-10

順位	グループB	メルボルン・シティ(オーストラリア)	バム・カトゥーン(イラン)	カヤFC・イロイロ(フィリピン)	アジアン・スカラズ大学(タイ)	勝	分	負	得点	失点	差
1	メルボルン・シティ(オーストラリア)	2○1	4○0	3○0	9	3	0	0	9	1	8
2	バム・カトゥーン(イラン)	1●2		1△1	2○1	4	1	1	1	4	0
3	カヤFC・イロイロ(フィリピン)	0●4	1△1		0△0	2	0	2	1	5	-4
4	アジアン・スカラズ大学(タイ)	0●3	1●2	0△0		1	0	1	2	1	-4

順位	グループC	浦和レッズ(日本)	ホーチミン・シティ(ベトナム)	台中藍鯨(中国台湾)	オリッサFC(インド)	勝	分	負	得点	失点	差
1	三菱重工浦和レッズレディース(日本)	2○0	2○0	17○0	9	3	0	0	21	0	21
2	ホーチミン・シティ(ベトナム)	0●2		3○1	3○1	6	2	0	1	6	4
3	台中藍鯨女子足球队(チャイニーズ・タイペイ)	0●2	1●3	4○0	3	1	0	2	5	5	0
4	オリッサFC(インド)	0●17	1●3	0●4		0	0	0	3	1	-23

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

## ■ノックアウトステージ



準優勝:メルボルン・シティ  
第3位:仁川現代製鉄レッドエンジェルス(韓国)  
ホーチミン・シティ(ベトナム)

# AFC女子フットサルアジアカップ中国2025

※関連記事は68~71ページに掲載

## ■グループステージ 試合結果

グループ	日時	対戦結果	会場
A	5月6日	中国 3-1(2-0,1-1)	オーストラリア Hohhot Sports Centre
		ウズベキスタン 1-6(1-3,0-3)	チャイニーズ・タイペイ Hohhot Sports Centre
	5月8日	オーストラリア 1-3(1-1,0-2)	ウズベキスタン Hohhot Sports Centre
		チャイニーズ・タイペイ 3-5(0-2,3-3)	中国 Hohhot Sports Centre
	5月10日	チャイニーズ・タイペイ 1-0(0-0,1-0)	オーストラリア Hohhot Sports Centre
		中国 3-1(1-1,2-0)	ウズベキスタン Hohhot Sports Centre
B	5月7日	イラン 1-0(0-0,1-0)	フィリピン Hohhot Sports Centre
		ベトナム 5-3(3-1,2-2)	ホンコン・チャイナ Hohhot Sports Centre
	5月9日	フィリピン 0-3(0-0,0-3)	ベトナム Hohhot Sports Centre
		ホンコン・チャイナ 1-3(1-1,0-2)	イラン Hohhot Sports Centre
	5月11日	ホンコン・チャイナ 7-3(2-1,5-2)	フィリピン Hohhot Sports Centre
		イラン 0-0	ベトナム Hohhot Sports Centre
C	5月7日	タイ 4-0(1-0,3-0)	バーレーン Hohhot Sports Centre
		日本 5-2(4-0,1-2)	インドネシア Hohhot Sports Centre
	5月9日	バーレーン 2-3(0-3,2-0)	日本 Hohhot Sports Centre
		インドネシア 0-0	タイ Hohhot Sports Centre
	5月11日	インドネシア 5-1(1-0,4-1)	バーレーン Hohhot Sports Centre
		タイ 3-1(0-0,3-1)	日本 Hohhot Sports Centre

## ■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果	会場
準々決勝	5月13日	ベトナム 0-2(0-1,0-1)	日本 Hohhot Sports Centre
		タイ 5-2(5-1,0-1)	ホンコン・チャイナ Hohhot Sports Centre
		中国 6-0(1-0,5-0)	インドネシア Hohhot Sports Centre
		チャイニーズ・タイペイ 1-3(1-1,0-0,0-2)延長	イラン Hohhot Sports Centre
準決勝	5月15日	中国 2-3(2-1,0-2)	タイ Hohhot Sports Centre
		日本 3-2(2-0,1-2)	イラン Hohhot Sports Centre
3位決定戦	5月17日	中国 1-3(0-1,1-2)	イラン Hohhot Sports Centre
決勝	5月17日	タイ 3-3(1-1,1-1,1-1) PK2-3	日本 Hohhot Sports Centre

※キックオフ日時は現地時間

# FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

※関連記事は64~67ページに掲載

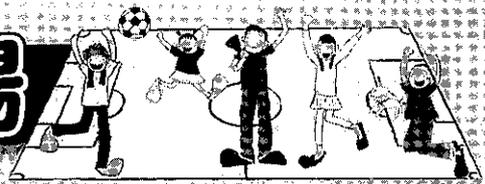
## ■グループステージ 試合結果

グループ	日時	対戦結果	会場
A	5月1日	グアテマラ 2-6(2-2,0-0,0-4)	日本 The Paradise Arena
		セーシェル 3-6(1-1,2-3,0-2)	ベラルーシ The Paradise Arena
	5月3日	日本 3-6(0-1,1-3,2-2)	ベラルーシ The Paradise Arena
		セーシェル 3-4(3-3,0-0,0-1)	グアテマラ The Paradise Arena
	5月5日	ベラルーシ 12-3(2-0,5-0,5-3)	グアテマラ The Paradise Arena
		日本 10-2(2-1,6-1,2-0)	セーシェル The Paradise Arena
B	5月1日	モーリタニア 4-5(1-4,1-1,2-0)	イラン The Paradise Arena
		ポルトガル 11-9(4-2,3-1,4-6)	パラグアイ The Paradise Arena
	5月3日	パラグアイ 1-5(0-2,1-1,0-2)	イラン The Paradise Arena
		モーリタニア 4-8(1-2,1-6,2-0)	ポルトガル The Paradise Arena
	5月5日	パラグアイ 9-5(2-2,1-1,6-2)	モーリタニア The Paradise Arena
		イラン 5-7(2-1,0-4,3-2)	ポルトガル The Paradise Arena
C	5月2日	チリ 7-6(2-2,4-2,1-2)	タヒチ The Paradise Arena
		スペイン 1-4(0-1,0-1,1-2)	セネガル The Paradise Arena
	5月4日	タヒチ 3-6(2-1,1-2,0-3)	セネガル The Paradise Arena
		スペイン 4-2(3-1,0-0,1-1)	チリ The Paradise Arena
	5月6日	セネガル 7-3(2-0,3-1,2-2)	チリ The Paradise Arena
		タヒチ 3-8(0-1,2-4,1-3)	スペイン The Paradise Arena
D	5月2日	イタリア 7-4(2-2,2-1,3-1)	オマーン The Paradise Arena
		ブラジル 3-1(1-0,0-1,2-0)	エルサルバドル The Paradise Arena
	5月4日	オマーン 4-4(1-1,1-2,2-1,0-0) PK7-6	エルサルバドル The Paradise Arena
		ブラジル 2-1(1-0,0-1,1-0)	イタリア The Paradise Arena
	5月6日	エルサルバドル 0-5(0-2,0-0,1-1)	イタリア The Paradise Arena
		オマーン 1-11(0-4,0-0,1-7)	ブラジル The Paradise Arena

## ■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果	会場
準々決勝	5月8日	ベラルーシ 4-3(0-1,1-0,3-2)	イラン The Paradise Arena
		ポルトガル 7-6(2-1,1-1,4-4)	日本 The Paradise Arena
		セネガル 4-3(1-0,1-3,1-0,1-0)延長	イタリア The Paradise Arena
		ブラジル 6-0(2-0,1-0,3-0)	スペイン The Paradise Arena
準決勝	5月10日	ベラルーシ 5-2(1-1,3-0,1-1)	セネガル The Paradise Arena
		ポルトガル 2-4(1-0,1-2,0-2)	ブラジル The Paradise Arena
3位決定戦	5月11日	セネガル 2-3(1-0,0-0,1-3)	ポルトガル The Paradise Arena
決勝	5月11日	ベラルーシ 3-4(1-1,0-2,2-1)	ブラジル The Paradise Arena

# サッカーファミリー広場



## JFAクラウドファンディング「夏の挑戦資金」応援フェア始動 テーマは「クラブの“やってみよう”をカタチに」

日本サッカー協会(JFA)は5月20日から、JFAクラウドファンディングで「夏の挑戦資金」応援フェアをスタートさせた。応援フェアのテーマは「クラブの“やってみよう”をカタチに」。全国のサッカークラブを対象に実施する。

### ■「夏の挑戦資金」応援フェアのテーマは「クラブの“やってみよう”をカタチに」

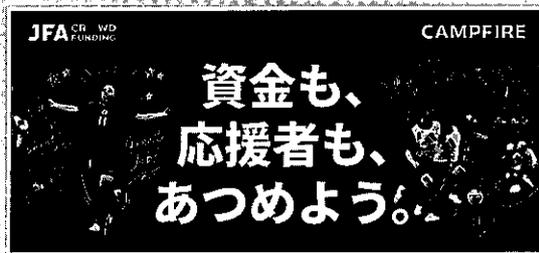
全国のサッカークラブのための“気軽に一步を踏み出せる”応援企画。現場の指導者や保護者の皆さまが「少しでも子どもたちに良い環境を」と思ったとき、すぐに行動できるよう、プロジェクトの立ち上げからページ作成、広報活動に至るまで、JFAとCAMPFIREの専任スタッフが万全の体制でサポート。初めてでも安心して挑戦することができる。

#### ◎例えば、こんなサッカーファミリーにお勧め！

- ・遠征・大会出場のコストが不足している
- ・留学や育成など“次のステップ”に踏み出したい
- ・保護者負担を減らして活動を続けたい など

#### ●申し込みは下記URLより

[https://camp-fire.jp/highlights/jfa-summer2025?utm\\_source=partner&utm\\_medium=jfa&utm\\_campaign=summer2025\\_pr](https://camp-fire.jp/highlights/jfa-summer2025?utm_source=partner&utm_medium=jfa&utm_campaign=summer2025_pr)  
募集期間：2025年5月～8月末(予定)



全国のサッカーファミリーの夢を応援「夏の挑戦資金」応援フェア

対象：全国のサッカークラブ(小学校、中学校、高校、大学、社会人、女子チーム含む)

#### <JFAクラウドファンディングの特徴>

- ・CAMPFIREと共同運営するクラウドファンディング
  - ・専任スタッフによる支援(構成案、リターン提案、告知アドバイス等)
  - ・サッカーに特化した活用事例の提供
  - ・本来は手数料17%のところ→15%に減額
- これまでに210件以上のプロジェクトが実施され、累計支援資金は2.4億円を突破(2025年5月1日時点)。全国大会や地域遠征のコスト、留学費、育成費、広報費など、クラブ運営の多岐にわたる課題に対して多くの支援が届けられている。

## JFA監修の書籍『はじめよう！ウォーキングフットボール』が発刊

※同書を5名様にプレゼント！詳細は76ページ参照

JFAが普及促進を図っているウォーキングフットボールの書籍『はじめよう！ウォーキングフットボール』が6月4日に発刊された。

ウォーキングフットボールは歩いて行うフットボールのこと。子どもから大人までサッカー未経験者も高齢者も、誰もが楽しむことができるスポーツだ。

同書では、ウォーキングフットボールを日本に導入し、普及に取り組んでいるスペシャリストがその魅力やルールなどを分かりやすく解説している。



#### 【書籍概要】

『はじめよう！ウォーキングフットボール』  
発売日：2025年6月4日  
出版社：ベースボール・マガジン社  
著者：松田薫二  
監修：公益財団法人日本サッカー協会  
判型・頁数：A5判・128ページ  
定価：1,650円(税込)

## 宮本恒靖JFA会長のコラムや主な活動を伝える「ツネログ」vol.9発行

2025年5月発行のvol.9では、JFA審判委員会の扇谷健司委員長と対談。詳細は下記より。  
<https://www.jfa.jp/news/00035132/>



### サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)  
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会  
サッカーファミリー復興支援金口  
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

### 「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】[https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?Id=lpDYk\\_b8f0-0\\_dkms71Jh3cfKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNldQNFJDMFRORDU2NHfUOM2TkpLUJFPUS4u](https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?Id=lpDYk_b8f0-0_dkms71Jh3cfKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNldQNFJDMFRORDU2NHfUOM2TkpLUJFPUS4u)

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。  
[https://www.jfa.jp/violence\\_eradication/](https://www.jfa.jp/violence_eradication/)





# 天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会

## 「日本一」を懸けた戦いがスタート



天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会が開幕し、1回戦が5月24、25日に行われた。プロフェッショナル、アマチュアを問わず、日本サッカー協会（JFA）の全ての第1種登録チームに門戸を開いており、日本サッカーの頂点を決める大会として歴史を重ねてきた。

今大会はJ1、J2の各20チーム、アマチュアシード枠で全日本大学サッカー連盟選出の東洋大学、そして都道府県大会を勝ち抜いた47チームの計88チームによるノックアウト方式で争われる。J1、J2勢は2回戦から登場するが、FIFAクラブワールドカップ（6月14日～7月13日、アメリカ）に出場する浦和レッズは、8月のラウンド16（4回戦）からのスタートとなる。



環太平洋大学FC（岡山）など6チームが本大会初出場となった

前回大会でわずか1チームだった初出場は、今回6チームに増えた。その中で唯一、1回戦を突破したのが東洋大だ。仙台大学（宮城）との大学勢対決で2点をリードし、一度は追いつかれるも、2点を加えて4-2と突き放した。

ジャイアントキリングが醍醐味の二つとなるカップ戦、筑波大学（茨城）がJ2のRB大宮アルディージャに1-0で勝利して話題をさらった。大宮は、筑波大出身の長澤徹監督がチームを率いており、第16節時点でリーグ戦は2位と首位争いを演じている。そのチームを相手に、筑波大は廣井蘭人が4分に決めた1点を守り切って金星を挙げた。試合後、筑波大の小井土正亮監督は「押される一方だった。ぎりぎりの勝負に勝った選手たちに感謝した

い」と健闘をたたえた。大学チームはこの東洋大、筑波大のほか、初出場の守山侍2000（滋賀）に3-1の逆転勝利を収めた京都産業大学（京都）が2回戦進出を果たした。

J3のSC相模原（神奈川）が、J2で4連勝中の水戸ホーリーホックを1-0で破った一戦もサプライズの一つ。水戸の攻勢をGKパウマンの好守などでしのぐと、浦和で天皇杯優勝経験のある36歳の武藤雄樹が値千金の決勝点をマークした。

ヴェロスクロノス都農（宮崎）はJ3のガイナレ鳥取（鳥取）を2-1、J3の鹿児島ユナイテッドFC（鹿児島）はJ2のFC今治を2-1と、それぞれ上位カテゴリのチームを破った。

福島ユナイテッドFC（福島）は東京国際大学（埼玉）に9-1で圧勝。シュート数は14-13とほぼ同数ながら決定力で上回った。

J3の栃木SC（栃木）は大山サッカークラブ（山形）に5-0の大勝を収め、ルーキーの星野創輝がハットトリックで貢献した。

サッカー日本一の座を競う天皇杯。国立競技場で11月22日に予定されている決勝まで、目が離せない戦いが続く。



FCバレイン下関（山口）は延長戦の末、初出場の環太平洋大学FCを2-1で下した

**天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会**

【主催】公益財団法人日本サッカー協会／公益社団法人日本プロサッカーリーグ

【共催】NHK／共同通信社

※上記に加え、1回戦～準々決勝は各開催会場の都道府県に所在する共同通信加盟新聞社が共催

【主管】都道府県サッカー協会

【特別協賛】株式会社SCOグループ

【協賛】

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンホールディングス株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

JFAコンペティションパートナー：株式会社モルテン、ニチバン株式会社、トヨタ自動車株式会社

最新情報は大会ページより  
[https://www.jfa.jp/match/emperorscup\\_2025/](https://www.jfa.jp/match/emperorscup_2025/)





2024-25 SOMPO WE LEAGUE **2024-25 SOMPO WEリーグ**

# 日テレ・東京ベレーザが初優勝！



東京NBは5月17日の最終節で千葉Lに3-0で勝利して首位の座を譲らず。優勝を決定つけた(写真は2点目を決めた松田紫野)

## 開幕黒星からの大逆転 東京NBが首位争いを制す

昨年9月に開幕した2024-25 SOMPO WEリーグは、5月17日に最終節となる第22節が開催され、日テレ・東京ベレーザがジェフ千葉レディースに3-0で勝利してWEリーグ初優勝を飾った。

今季、松田岳夫監督体制となって2年目の東京NBは、開幕前になでしこジャパン(日本女子代表)の藤野あおばがイングランドのマンチェスター・シティWFCに移籍する一方、昨季のアルビレックス新潟レディースを上位に押し上げた三浦紗津紀が新たに加わってリーグ開幕を迎えた。初戦の三菱重工浦和レッズレディース戦は0-2と黒星

スタート。キャプテンの村松智子は「力の差を見せつけられ、0-2以上の差があった。何もかも足りない」と実感したと肩を落とした。その後、2024-25 WEリーグクラシエカップではグループステージで敗退を喫して苦杯をなめるも、リーグ戦では山本柚月が高い得点力を発揮し、チームは第2節から6連勝するなど勝ち点を積み上げ、前期の終了時点で首位に立った。しかし、ウィンターブレイク中の2025年1月、なでしこジャパンでもプレーした21歳(当時)・木下桃香が現役引退を発表。WEリーグ創設前から名門クラブを支え、主力を担っていた背番号10の引退は大きな話題となった。

それでも東京NBは、リーグが再開した3月2日の第12節以降も戦力を落とさない。育成組織の日テレ・東京ヴェルディメニナ出身の土方麻椰、樋渡百花、眞城美春ら若手選手が攻撃をけん引する活躍を見せ、後期は無敗をキープ。第20節には3位のINAC神戸レオネッサと上位対決を迎える。勝てば優勝に大きく近づく一番だったのが0-2で敗れ、第21節の結果をもってWEリーグの優勝決定は4シーズン目にして初めて最終節に持ち越される展開となった。

優勝の可能性は首位の東京NB(勝ち点48)、2位に浮上した神戸(同48)、3位の浦和(同45)に絞られ

MVPを受賞した22歳の山本柚月(右)とベストヤングプレーヤー賞に輝いた18歳の眞城美春(左)。東京NBの初優勝に大きく貢献した



たが、優勝に最も近いのは得失点差でも大きく優位に立つ東京NBだった。その東京NBは最終節で千葉をホームの味の素フィールド西が丘に迎え、山本の2得点などで3-0の快勝。他会場の結果により東京NBが悲願のWEリーグ初優勝を果たした。

松田監督は「我慢すべきところは我慢し、しっかりとゴールに結びつける攻撃ができた」と納得の結果を喜び、「1年間、積み重ねてきた努力の集大成を發揮できるように、リズムが悪い時には何をすべきか、立ち返るポイントはどこかを、選手たちはずっと意識づけしてきた」と、リーグ制覇の要因を語った。2日後に開



走力を發揮した成宮唯は「東京NBとの対戦では勝ち越した。1神戸が一番強かったという自負はある」と内容面を評価したが、「リーグは3年連続で準優勝、もう2位はいろいろな終盤で見た戦いを来季は開幕から發揮したい」とリベンジを誓った。

### 1神戸は悔しい準優勝 浦和は苦戦したシーズンに

最終節まで東京NBと優勝を争った1神戸は、無冠でシーズンを終えた。得点王に輝いたカルロタ・スアレスを含むスペイン人選手3人が即戦力となり、勝ち点を積み重ねて第5節では首位に浮上。ウインタブレイクの今年2月に主力の守屋都弥がエンジェル・シティFC(アメリカ)に移籍して抜けるも、リーグ再開後は首位をキープし、優勝争いを演じる。しかし第16節浦和戦、第18節サンフレッチェ広島レジーナ戦にいずれも0-1で敗れて足踏み。最後は4連勝して東京NBと勝ち点で並んだが、得失点差で優勝を逃した。スアレスと共に前線で

3試合は勝利に見放されて3位で終えた。FWやセンターバックで活躍した高橋はなは「3位は自分たちの実力不足。自分自身の甘さも感じたシーズンだった」と振り返った。新潟で19シーズン目を戦う上尾野辺めぐみは、第21節でなでしこリーグを含む国内リーグ戦最多出場記録を366試合に更新。上尾野辺と共に11年のFIFA女子ワールドカップ(ドイツ)でなでしこジャパンの初優勝に貢献したS広島Rの新賀ゆかりは、リーグ終盤に今シーズン限りでの現役引退を発表した。

準々決勝では敗退を喫する。同日には、リーグ連覇に導いた楠瀬直木監督との契約を解除。堀孝史新監督の下で再起を目指したが、終盤



初代王者の1神戸はカルロタ・スアレス(写真)の活躍などもあり、常に優勝争いを演じたが3季連続での2位と悔しい結果(写真は第20節東京NB戦より)



3連覇を目指した浦和は終盤に勝ち点を積み重ねられず、3位で終えた(写真はホーム最終戦で引き分けた第21節N相模原戦より)

Jリーグとの連携を図りながらWEリーグの競技力向上を目指した今季は、年間総入場者数過去最多33万7290人を記録。中でもS広島Rのホームゲーム入場者数は平均5482人で、第13節の浦和戦では2万156人と最多入場者数

### 2024/25 SOMPO WEリーグ 順位表

順位	チーム名	勝ち点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1	日テレ・東京ベレーザ	51	16	3	3	50	16	34
2	INAC神戸レオネッサ	51	16	3	3	43	14	29
3	三菱重工浦和レッズレディース	46	13	7	2	32	13	19
4	アルビレックス新潟レディース	40	12	4	6	31	21	10
5	サンフレッチェ広島レジーナ	37	10	7	5	26	14	12
6	ちふれASエルフェン埼玉	30	8	6	8	30	30	0
7	セレッソ大阪ヤンマーレディース	23	6	5	11	29	33	-4
8	AC長野パルセイロ・レディース	22	6	4	12	25	40	-15
9	ジェフ千葉レディース	20	5	5	12	15	30	-15
10	ノジマステラ神奈川相模原	18	4	6	12	27	39	-12
11	大宮アルディージャ VENTUS	18	4	6	12	16	37	-21
12	マイナビ仙台レディース	10	2	4	16	15	52	-37

※2024-25 SOMPO WEリーグ戦績表は56ページ、2024-25 WEリーグアウォーズの結果は34~35ページに掲載

を更新した。さらに国立競技場でJ2リーグ戦と同日開催された第20節の千葉L対大宮アルディージャ VENTUS戦では、2万6605人の入場者を記録し、再び最多入場者記録を更新。記録づくしのシーズンとなった。



5月6日に国立競技場で開催された第20節千葉L対大宮VではWEリーグ最多入場者数26,605人を更新(試合は2-2の引き分け)



# ビーチサッカー日本代表 FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

## 健闘もあと一歩及ばず ベスト8で終える

ビーチサッカー日本代表は田畑輝樹監督の下、5月1日〜11日に行われた「FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025」に挑んだ。グループステージを2位で通過するも、準々決勝でポルトガルに敗戦。ベスト8で大会を終えた。

※ビーチサッカー日本代表メンバーおよび公式記録などは51〜52、59ページに掲載  
所属は試合時



©2025 FIFA

### オープニングゲームを制し 白星スタート

FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025に向けてチームを率いる田畑輝樹監督は、3月のAFCビーチサッカーアジアカップタイ2025を戦った選手を中心にメンバーを選出。「目標は優勝のみ。そのために一試合一試合を大事に戦いたい」と決意を語った。

チームは4月16日に集合し、国内で5日間トレーニングを積んだ後、開催地のセーシェルに移動。現地で開催親善試合を戦うなど調整を進め、大会を迎えた。セーシェルはインド洋に浮かぶ島国で、試合は高温多湿の厳しい環境で行われた。

日本にとってグループステージ初戦のグアテマラ戦は、今大会のオープニングゲームとなった。「相手は初出場なので恐れを知らずに臨んでくれると思う。受け止めるので

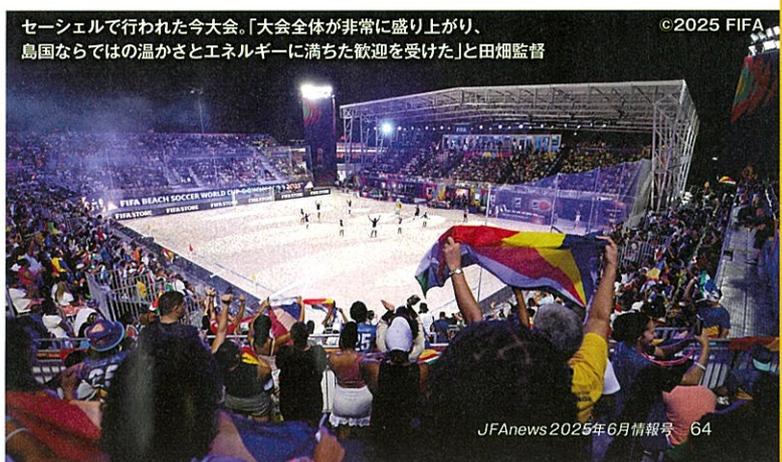
はなく、われわれから勝負を挑んで

いかなければならない」と田畑監督は警戒を強めていたが、開始早々に先制点を許してしまう。失点直後のキックオフの流れから坪谷亮太（ソーマプライア沖縄）が同点とするも、相手もキックオフからのロングシュートですかさず1点を奪い返す。それでも11分、松田康佑（レーヴェ横浜）のポレーシュートで再び同点とし、第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドは日本が攻勢を強めるが、スコアは動かず。第3ピリオドの28分、CKのボールを高い位置で受けたGK古里健（レーヴェ横浜）が巧みな足技で相手をかわし、ポレーシュートを突き刺して勝ち越すと、ここから日本のゴールラッシュに。29分に赤熊卓弥（レーヴェ横浜）がオーバーヘッドを決め、茂恰羅オズ（東京ヴェルディBS）と坪谷もゴールネットを揺らして大事な初戦で6-2と勝利を飾った。

### ベラルーシに敗れるも グループ2位で突破

中1日で迎えた第2戦はベラルーシと対戦した。2024年の前回大会でもグループステージで対戦し、1-3で敗れた相手だ。「ピッチでの借りはピッチでしか返せない（田畑監督）」と臨んだ日本だが、またしても第1ピリオドにCKから先制点を奪われる。日本は第2ピリオドに反撃に転じ、CKから鈴木将人（ヴァイアティン三重BS）のダイビングヘッドで同点とする。しかし、その後も相手が主導権を握る展開は変わらず、19分に勝ち越し



セーシェルで行われた今大会。「大会全体が非常に盛り上がり、島国ならではの温かさとエネルギーに満ちた歓迎を受けた」と田畑監督

©2025 FIFA



強豪のペラルーシを相手に2大会連続で敗戦 (写真は、「積み上げてきたすべてを出し切る場」と大会への気合を見せていた江黒)

ゴールを許すと、続けざまに2失点してリードを3点に広げられた。苦境に立たされた日本は、第3ピリオドに大場崇晃(東京ヴェルディBS)とオズがゴールを奪うも、ペラルーシは失点のたびにゴールを奪い返す勝負強さを見せ、試合は3-6でタイムアップ。田畑監督は「あと一步のところで逆転できなかったのはチームの課題。真摯に受け止め、修正を図る必要がある」と振り返った。

1勝1敗で迎えた第3戦の相手は、開催国のセーシェル。会場のThe Paradise Arenaには35722人の観衆が詰め掛け、完全アウェイの雰囲気。グループステージ突破に向けて、「敗戦が許されないため、非常に緊張感があった」(GK古里)という中でキックオフを迎えた。



エースの赤熊(写真手前左)が計4ゴールと大暴れするなど、開催国のセーシェルから10点を奪った

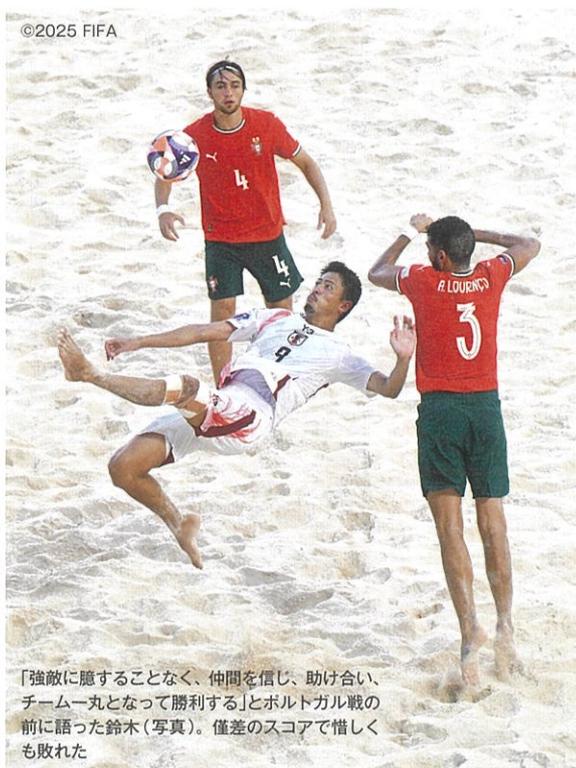
第1ピリオドの10分、ピッチ中央まで運んだGK古里からパスを受けた大場がオーバーヘッドシュートを決めて日本が先制する。直後に同点ゴールを許すと、場内は地元サポーターの歓声で沸くが、その1分後には赤熊が豪快なオーバーヘッドを決めて勝ち越す。赤熊はここから連続ゴールでハットトリックを達成した。その後も日本は効果的に得点を重ね、最後は赤熊がこの日4点目となる豪快な一撃を決め、終わってみれば10-2と快勝。グループ2位でノックアウトステージ進出を決めた。

### ポルトガルに敗れて準々決勝で散る

準々決勝は、日本がこれまで一度も勝利したことがないポルトガルとの対戦となった。「これまで日本が積み上げてきたものを発揮すれば、間違いなく良い結果が得られる」という田畑監督の言葉通り、日本は高いモチベーションで試合に臨む。しかし、開始早々にPKで先手を取られる苦しい展開に。それでも6分、鈴木が同点ゴールを挙げると、ここから一進一退の攻防が繰り広げられ、第2ピリオドを終えて2-3でポルトガルにリード許す展開となった。



グアテマラ戦では、逆転ゴールを奪うなど攻守に活躍したGK古里(写真中)がプレーヤーズ・オブ・ザ・マッチに選ばれた



「強敵に勝ることなく、仲間を信じ、助け合い、チーム一丸となって勝利する」とポルトガル戦の前に語った鈴木(写真)。僅差のスコアで惜しくも敗れた

なお今大会はブラジルの7回目の優勝で幕を閉じ、日本に勝利したペラルーシが準優勝、ポルトガルが3位に輝いた。

### 〈ビーチサッカー-日本代表の結果〉

#### グループステージ

第1戦 日本 ○6-2 グアテマラ

得点者: 坪谷亮太(2点)、松田康佑、古里健、赤熊卓弥、茂怜羅オズ

第2戦 日本 ●3-6 ペラルーシ

得点者: 鈴木将人、大場崇晃、茂怜羅オズ

第3戦 日本 ○10-2 セーシェル

得点者: 大場崇晃(2点)、赤熊卓弥(4点)、江黒力、坪谷亮太、松本憲、鈴木将人

#### ノックアウトステージ

準々決勝 日本 ●6-7 ポルトガル

得点者: 鈴木将人、大場崇晃、松田康佑、河合雄介、茂怜羅オズ(2点)



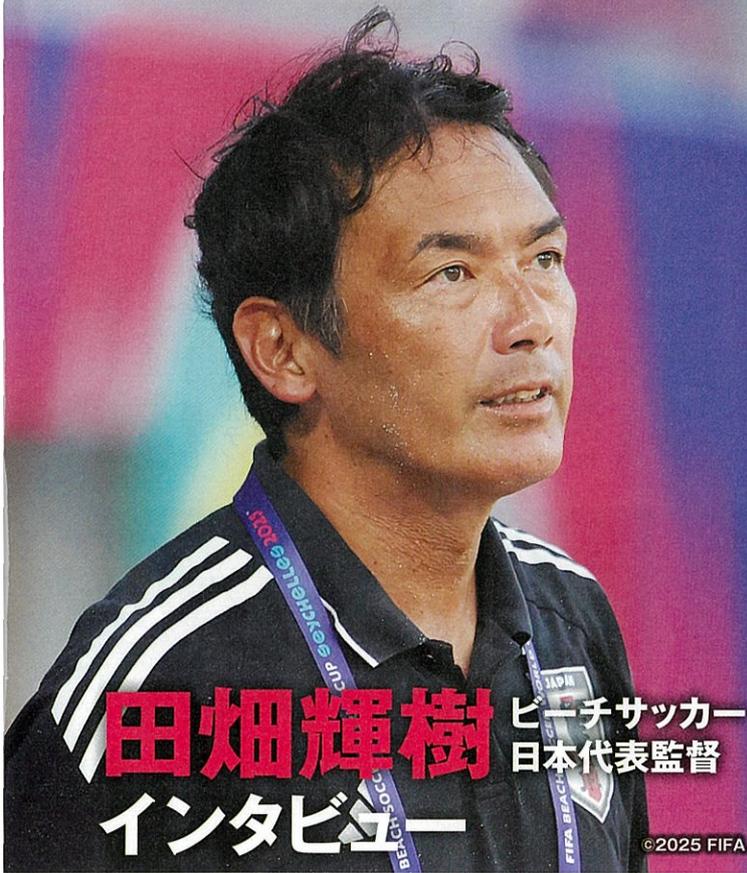
# ビーチサッカー日本代表 FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

## 世界の強豪に競り勝つには ミスをなくしていく必要がある

※大会レポートは64〜65ページ、ビーチサッカー日本代表メンバーおよび公式記録などは51〜52、59ページに掲載／所属は試合時

5月1日〜11日に行われたFIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025で、惜しくも準々決勝敗退となったビーチサッカー日本代表。指揮官の田畑輝樹監督に大会を振り返ってもらい、成果や課題、今後に向けた強化方針などを聞いた。

取材日：2025年5月19日



### 田畑輝樹 ビーチサッカー 日本代表監督 インタビュー

©2025 FIFA

#### 開催国セーシェルが 盛り上がる中で迎えた大会

——ワールドカップを終えて、今の率直な思いをお聞かせください。

**田畑** ベスト8という結果はわれわれが目指していた場所ではありませんので、悔しさが残っています。ただ、選手もスタッフも持てる力を全て出し切ったと思いますので、そこに関しては誇りに思っています。

——アジア予選であるAFCビーチサッカーアジアカップタイ2025（3月20日〜30日に開催）を終えて、約1カ月という準備期間でした。

**田畑** アジアカップを3位で終えたことは悔しかったのですが、ワールドカップに13大会連続出場しているのはブラジルと日本だけで、そこを死守できて良かったです。私はアジアカップから帰国した翌日

に組み合わせ抽選会に参加するためにセーシェルに飛んでいて、正直、準備の時間をあまり取れませんでした。そんな状況ではありましたが、対戦相手の分析についてはスタッフとやり取りをしながら進めていました。

——選手選考についてはどのようなことを意識されましたか。

**田畑** アジアカップとワールドカップでは戦い方が異なりますので、もう少し時間をかけて選手を見つけたかな、という思いはありました。そうは言いつつも、アジアカップのメンバーをベースに戦ったことで、チームの結束力やコンビネーションなどがプラスに働きました。現地に移動してからもタヒチやパラグアイと試合することができ、良い準備ができたと思います。

——開催地のセーシエルの雰囲気はいかがでしたか。

**田畑** 自然が豊かで、何より人々が温かく、ワールドカップに向けてとても盛り上がっていました。日本のこともすごく応援していただきましたし、セーシェル代表の試合時



©2025 FIFA

アジアカップからワールドカップまで約1カ月。田畑監督は「まずはリフレッシュすること」を選手に伝えたという

は、過去のワールドカップで一番ではないかと思うくらいの熱気でした。日本もグループステージで対戦しましたが、スタンドは満員で、声援が地響きのようなすごかったですね。ああいう雰囲気の中で初めて戦う選手もいて、良い経験になったと思います。

#### 自分たちのビーチサッカーを ぶらさずに実践できた

——グループステージ初戦は、初出場のグアテマラとの対戦でした。序盤にリードを許しましたが、6-2と逆転勝利を収めました。

**田畑** どの大会も初戦は難しいと言われますし、ワールドカップの出場チームはどれも強い。本当に難



グループステージは中1日で試合が続く中、「選手を2分から2分半で交代させるようにしてアグレッシブな戦いを継続した」と田畑監督

しい立ち上がりでした。相手に引いて守られたのでなかなか点が入らず、苦戦しました。それでも選手たちは落ち着いて自分たちのビーチサッカーをぶらさずに実践してくれました。それが逆転勝利につながりました。

——第2戦では前回大会でも敗れたベラルーシと対戦し、3-6で敗れました。

田畑 立ち上がりは良かったとは思いますが、先制されたのが痛かったです。

たですね。チャンスをつくってはいらない、ゴールを決められず、物足りなさが残りました。勝てない相手ではないと感じましたが、チャンスを実際に決めるといふ点では相手の方が上手でした。

——セーシェルとはノックアウトステージ進出を懸けた戦いでした。どのようなお気持ちで挑まれましたか。

田畑 勝たなければノックアウト大会と似た状況でした。一回大会と似た状況でしたので、選手もスタッフも強い気持ちで臨めたと思います。ただ、相手はホームの後押しがあり、初勝利を狙っていましたので、難しい試合になることは予想していました。実際、立ち上がりからなかなか得点を奪えず、先制してリードしても、相手は観客の声援を受けて勢いに乗って追い上げてきました。その中で、われわれはやるべきことを徹底し、常に得点を狙い続けて、最終的には2桁得点を奪うことができました。ノックアウトステージ進出を決められてホッとしました。

——グループステージ3

試合をどう総括されますか。  
田畑 優勝するならば全試合に勝たなければならぬと思っていました。2勝1敗は満足できる結果ではなかったのですが、次のラウンドに進むことも重要なポイントで、それを達成できた安堵感はありません。良かった部分を伸ばし、修正点を改善しながら次に向かう雰囲気をつくり上げることができました。

「あと二歩」は必要  
ミスが結果につながった

——準々決勝のポルトガル戦は、どのように戦おうと考えていらっしゃいましたか。

田畑 昨年7月のポルトガル遠征で2試合戦い、内容はすごく良かったもののミスによる失点があり、2連敗を喫しました。今大会の前にも非公開でトレーニングマッチを行い、やはり同じようなミスが原因で敗れました。ですので、「単純なミスはなくそう」と「打ち合うぞ」ということを選手たちに伝えました。失点しても取り返し、相手よりも得点を多く奪う。ミートイングでも相手の対策より自分たちが取り組んできた守備と攻撃の確認に多くの時間を割きました。

——実際に見応えのある打ち合いにはなりませんが、常に追いかける

展開が続く、6-7の惜敗でした。  
田畑 リードされては追い付き、またリードされては追い付く、繰り返して、あと一歩のところでミスをしてしまう。今後、世界の強豪に競り勝つためにはミスをなくす必要があります。大会を終えて、「あと一歩だった」と皆さんが言ってくれますが、僕は「あと二歩」は必要だったと思っています。相手を超えていくにはまだ足りないことがあります。

——大会を通じての手応えや課題を教えてください。

田畑 「超攻撃的」という新たな戦術が通用する部分もあったので、さらに伸ばしていきたいですね。一方、得点は増えましたが失点も増えているので、守備面は改善しなければなりません。敗れた試合では大きなミスがあり、それが結果につながってしまいました。これは代表チームの活動だけで改善するのは難しく、日本のビーチサッカー界全体で変えていかなければならない部分です。緊張感のある試合が日常的に行われる環境をつくり、こうした試合をものにしていくようにしたいですね。

——ビーチサッカー日本代表の今後の展望、そしてサッカーファミリアへのメッセージをお願いします。



「細部に宿るプレーが勝敗を左右し、悔しい結果になった」と田畑監督はポルトガル戦を振り返る

田畑 新たな選手を招集して代表チームに新しい風を入れ、その選手たちが経験を積むことができたが、さらに世代交代を進めていく必要があると思っています。もちろん実力者が集まるのが代表チームですので、年齢制限をかけるわけではありませんが、若い世代の選手も積極的に育てていきたいですね。サッカーファミリアの皆さんには、ビーチサッカーに関心を持っていただきたいと思いますし、ぜひ会場に見に来ていただきたいです。面白い競技であることは保証します。生で見たら会場の雰囲気も含めてその楽しさを存分に味わうことができます。今後もビーチサッカーに注目し、応援していただけたらうれしいですね。



## CHAMPIONS



フットサル日本女子代表

## 相次ぐ接戦を制し、アジアの頂点に

5月6日から5月17日にかけて、AFC女子フットサルアジアカップ2025が中国のフフホトで開催された。女子フットサルのアジアナンバーワンを決する大会。初のFIFAフットサル女子ワールドカップの出場権を懸けた大会でもある。

※フットサル日本女子代表メンバーおよび公式記録などは49～50、59ページ掲載／所属は試合時

試合序盤に得点を重ね  
連勝スタートを飾る

大会は、これまでのAFC女子フットサル選手権から「AFC女子フットサルアジアカップ」に名称が変更された。今年11月に初開催されるFIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025の予選を兼ねた大会で、本大会への出場権は上位3チームに与えられる。

これまでフットサル日本女子代表は15年と18年に2大会連続で決勝に進んだが、いずれの大会もイランに屈し、準優勝に終わっていた。今回、日本を率いるのは、須賀雄大監督。指揮官が掲げる「憧れと共感」というコンセプトには、代表入りを目指す選手が増え、チームが応援される存在になれるように、という思いが込められている。

開催国の中国と前回大会（2018年）の覇者イランと準優勝の日本は、予選が免除された。この3チームに予選を勝ち上がった9チームを加え、12チームで優勝を争った。グループステージは4チームずつ3グループに分けて行われ、各グループの上位2チームと3位のうち成績上位の2チームがノックアウトステージに進む。

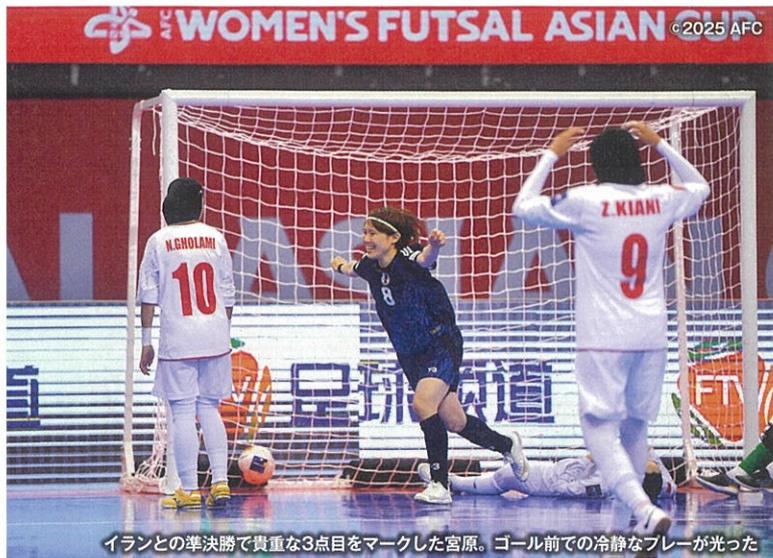


大会を通して4得点を挙げた江川。イラン戦で負傷退場するまで攻守にわたって活躍した

ポット2の日本は抽選の結果、インドネシア、バレーン、タイと同じ組に入った。

迎えたインドネシアとの初戦、日本は第1ピリオドに4得点を挙げた。第2ピリオドの中盤以降は、パワープレーに出る相手にボールを持たれる時間が増えた。大きく崩れることはなかった。5-2で勝利し、幸先の良いスタートを切った。

続くバレーンとの2戦目も初戦と似た展開になった。江川涼西（宮）の2得点などで11分までに3点を奪い、序盤は日本のペースで試合が進む。しかしその後はパ



イランとの準決勝で貴重な3点目をマークした宮原。ゴール前での冷静なプレーが光った

ワープレーを仕掛ける相手に苦戦を強いられ、31分にミドルシュートを決められてしまう。この後、ファウルを重ねた日本は36分に第2PKから失点。1点差に詰め寄られるが、3-2のまま何とか逃げ切った。

## 強豪イラン相手に 一歩も引かず

タイとの第3戦、日本は引き分け以上で首位突破が決まる。試合は互いに様子をつかがう場面が多く、第1ピリオドを0-0で折り返した。第2ピリオドに入り、先に試合を動かしたのは日本だった。網城安奈(西宮)が強烈なミドルシュートを決め、チームに先制点をもたらす。ところが、その後はタイに立て続けにゴールを許

し、3失点。日本もワープレーからゴールに迫ったが、得点は奪えず、1-3でタイムアップに。この結果、日本はグループステージ2位で準々決勝に進むことになった。

準々決勝では、大会前の国内合宿でもマッチアップしたベトナムと顔を合わせた。第1ピリオド早々に相手のOWNゴールで先制すると、一気に日本の流れに。試合は日本が押し気味に進め、第2ピリオドには江川の追加点で勝利に近づく。終盤、ワープレーを仕掛ける相手に対し、日本は最後まで集中した守備を披露。今大会初の無失点勝利でワールドカップ出場に王手をかけた。

勝てばワールドカップ出場が決まる準決勝の一番、日本は宿敵のイランと対戦した。3分、篠井りさ(浦安)のゴールで日本が先制する。この直後、江川が負傷退場を余儀なくされるアクシデントもあったが、4分に高橋京花(神戸)が追加点を奪うなど、江川不在の影響を感じさせない。2点のリードを奪った日本は終始冷静にプレーし、イランのフィジカルを生かした攻撃に対応する。24分に直接FKから1点を許すも相手の反撃を受けるのではなく、前に出る姿勢を崩さなかった。30分、日本は電光石火のカウンターから宮原ゆかり(浦安)がゴールに押し込み、再び2点差とする。この後、再び直接FKから失点して1点差とされるが、集中力を切らすことなく守備を固め、3-2のまま試合終了。アジアのライバルから貴重な勝利を挙げるとともに、第1回FIFAフットサル女子ワールドカップの出場を決めた。

## PK戦の末、1度は敗れた相手に勝利

決勝は、グループステージで敗れたタイとの再戦となった。どちらが勝っても初優勝となる試合は一進一退の接戦となった。最初に均衡を破ったのは日本だ。追野沙羅(西宮)が味方とのワンツーパスから抜け出し、つま先でのシュートを突き刺して先制する。1-1を迎えた21分、日本はセットプレー

から高橋の得点で勝ち越すが、その4分後にミドルシュートを決められてしまう。

2-2になった後は互いに決める。43分、タイのキックインからのシュートが決まり、この試合で初めてタイに勝ち越しを許した。しかし、日本は慌てなかった。勝ち越された直後、セットプレーから宮原がゴールを奪い、すぐに同点とする。試合は3-3のまま40分が終了し、勝負の行方はPK戦に委ねられることになった。

### 日本の試合結果

#### グループステージ

第1戦 日本 5-2 インドネシア  
得点者：篠井りさ、江川涼、宮原ゆかり(2点)、四井沙樹

第2戦 バーレーン 2-3 日本  
得点者：江川涼(2点)、四井沙樹

第3戦 タイ 3-1 日本  
得点者：網城安奈

#### ノックアウトステージ

準々決勝 ベトナム 0-2 日本  
得点者：OWNゴール、江川涼

準決勝 日本 3-2 イラン  
得点者：篠井りさ、高橋京花、宮原ゆかり

決勝 タイ 3-3 (PK 2-3) 日本  
得点者：追野沙羅、高橋京花、宮原ゆかり



日本のゴールマウスを守った井上。決勝ではタイをPK戦の末に下し、勝利の立役者に

日本女子代表の次なる挑戦は、今年11月にフィリピンで開催されるFIFAフットサル女子ワールドカップ。どのようなパフォーマンスを見せるのが注目だ。

## フットサル日本女子代表



# 入念な準備が実った

AFC女子フットサルアジアカップ中国2025でフットサル日本女子代表をアジアチャンピオンに導いた須賀雄大監督に話を聞いた。

誰でもできることを誰よりもやる

——AFC女子フットサルアジアカップ初優勝、おめでとうございます。

**須賀** ありがとうございます。優勝を目標にしてきたので非常にうれしいですし、同時にFIFAフットサル女子ワールドカップの出場権を獲得できてホットとしているというのが率直な気持ちです。

——2021年にフットサル日本女子代表の監督に就任されて、どのようなチームをつくらうと考えていましたか。

**須賀** まず、「憧れと共感」というスローガンを掲げました。日本女子フットサルリーグ（女子Fリーグ）を視察し、イメージ通り素晴らしい選手が多くいることを知り、この選手たちが次の憧れになるべき存在だと確信しました。同時に、自分はチームに献身性と泥臭さ、規律を持って戦うこ

## 須賀雄大 フットサル日本女子代表監督 インタビュー

取材日：2025年5月22日

とを求めました。「誰にでもできることを誰よりもやること」が日本人の特長だと信じていましたし、それについてはチーム発足時から全ての代表活動で選手たちに伝えてきました。

——選手選考で重視された点を教えてください。

**須賀** 女子Fリーグが日本女子フットサルのトップ・オブ・トップですので、そこで活躍している選手たちに日本代表の門戸を開くことが自然だと思っています。私が監督に就任したときは女子フットサルアジアカップの日程が決まっていなくて、その前に開催予定だったアジアインドア&マニッシュアルーツゲームズも中止になりました。何を目標にチームづくりをすべきか分からず、とても難しい状況でした。フットサル日本女子代表にはアンダーカテゴリーがないため、若手を含めた複数のグループをつくり、幅広い年代の選手を招集することも考えました。大会の日程が決まってからは、結果を出すための選考へとシフトしました。

日本はアジアで追われる立場です。スペースを消して守る相手が多い中、いかにそれを打ち破るかが問われます。世界の強豪に対しては、チャレンジャーとして

差を詰める姿勢で戦っています。

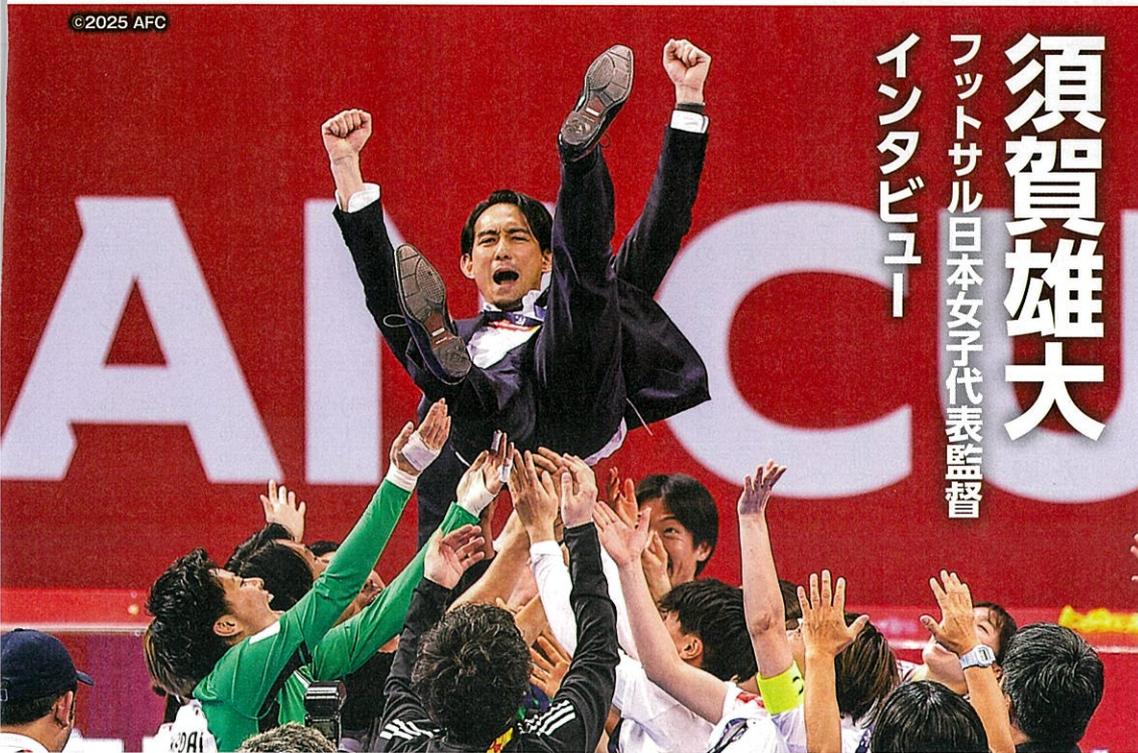
——女子フットサルアジアカップで、日本はインドネシア、バレーン、タイと同じ組に入りました。

**須賀** いずれも対戦した経験があり、ある程度イメージしやすい相手でした。分析や準備も進めやすかったのですが、いざ戦ってみるとインドネシアもバレーンも2年前に対戦したときから大きくレベルアップしていて別のチームになっていました。外国人指導者を代表チームに招いたり、長期合宿を行ったりすることでフィジカルも強化され、戦術の幅も広がっていました。

——その2チームを下した後、タイには1-3で敗れました。

**須賀** これまでタイと戦ったときは大差で勝利を収めていたのですが、いずれも途中までは互角の展開でスコアほどの力の差はないと思っていました。今大会のグループステージでは1-3で敗れました。その結果はもろん悔しかったのですが、シユート数などの各種データを見ると、それほど悲観する内容ではないな、と。日本は試合をコントロールしていたと確信しましたので、選手には自信を失わないこと、ここから巻き返す力が問われているのだということ

©2025 AFC





を強調しました。

## さまざまな試行錯誤が イラン戦で生きた

——ノックアウトステージを振り返ってください。

**須賀** グループ2位でノックアウトステージに進み、準々決勝ではベトナムと戦うことになりました。ベトナムとは大会前に国内でトレーニングマッチを行っており、そのとき、フィジカルが強く、組織力のある相手だと感じました。女子サッカーの代表経験者や年代別代表の選手もいて、フィジカル勝負になると日本は苦戦するのではと考えていました。とはいえ、日本の持ち味は高い位置でプレスを続けることですので、積極的に相手ボールを奪いにいくスタンスを失わないようにしまし

た。その結果、2-0で勝利を収めることができ、自信を取り戻すきっかけにもなりました。

——続く準決勝では、フットサル女子ワールドカップ出場を懸けてイランと対戦しました。

**須賀** イランは15年、18年と2大会連続でAFC女子フットサル選手権を制している強豪です。今回の一戦では、序盤にピヴォの江川涼選手が負傷しましたが、2人のピヴォを活用して3セットをつくらせ、選手たちのスタミナを残そうという策が功を奏しました。大会前、どの選手とどの選手を一緒にプレーさせるか、さまざまな組み合わせを試していたことが対イランという大一番で生かされたのだと思います。

気持ちが大きく、プレッシャーから解放された感覚でした。イランに勝つことは大きな成果です。達成感もありましたが、ここで満足してはいけないと選手に話しました。

今大会、会場では試合前に過去の大会の映像が流されていて、映像はイランの優勝シーンで締めくくられていました。「決勝で負けたら、次の大会も他のチームが喜ぶ映像を見なければならぬ。最後にもう一つギアを上げて優勝を勝ち取るう」と全員を鼓舞しました。

——タイとの決勝は延長戦、そしてPK戦にまでもつれ込みました。

**須賀** 江川選手が欠場したこともあり、準決勝同様、2人のピヴォが3セット分を担いました。常に先手を取る試合展開でしたが、タイも粘り強く、延長戦にもつれ込みました。その延長では初めてビハインドを背負いましたが、すぐに同点に追いつき、PK戦に入り込みました。苦しくなったときはベンチの声掛けなどチーム全体の支えが力になったと思います。

起用しました。決勝を戦い抜いた信頼と最後を託せる精神力があったからです。実際に2本のキックを止め、優勝を手練り寄せてくれました。

——優勝が決まった瞬間のお気持ちは？

**須賀** 誇らしさと喜びが全身を駆け巡りました。アジアチャンピオンになるチャンスは、何度もあるわけではありません。選手とスタッフが一丸となつてつかんだ結果です。また、これまで日本女子フットサル界を築いてきた全ての方に心から感謝しています。同時にアジア各国が急速に成長を遂げていることもあり、日本も今後、成長し続けなければならないと感じました。

——今年11月には、フィリピンで第1回のFIFAフットサル女子ワールドカップに臨みます。

**須賀** 自分たちと同じくらいのレベルの相手や格上の相手と戦う場面が想定されますので、さまざまなケースに対応できるように準備します。6月の女子Fリーグ開幕後は選手たちのコンディションを細かくチェックし、最強

の陣容で本大会を迎えられたいと思います。

——全国の女子フットボールにメッセージをお願いします。

**須賀** 女子フットサルアジアカップの映像を見て、代表選手たちのプレーや個性を感じてほしいです。14人全員が異なる魅力を持ち、それぞれの役割を果たしてくれました。個性を磨けば、誰にでも代表でプレーするチャンスが生まれます。ぜひ、フットサル日本女子代表を目指して、挑戦し続けてほしいと思います。

チームをアジアの頂点に導いた須賀雄大監督。次の舞台は世界だ



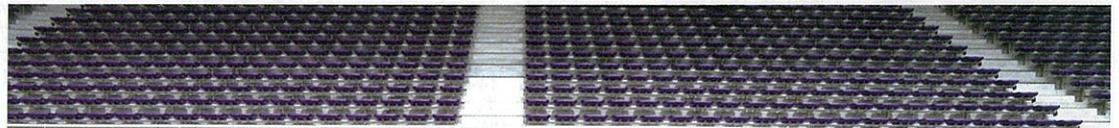
——イランを3-2で下し、フットサル女子ワールドカップ出場を決めたときは、どのようなお気持ちでしたか。

**須賀** もちろんうれしかったのですが、それ以上にノルマを果たせたという安堵の



大会を通して粘り強く戦ったフットサル日本女子代表の選手たち

## JFA 第19回全日本O-70サッカー大会



### 【大会概要】

5月23日から25日、静岡県藤枝市で開催。各地域から選出された12チームが3グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を戦い、各グループ1位チームと成績上位の2位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は40分(前後半各20分)。決勝ラウンドは勝敗がつかない場合、PK戦で勝者を決する。

## 広島県シニア70合同チーム 接戦を制して大会初優勝！

1次ラウンドで最も熾烈な争いになったのが、グループFだった。初日に2勝していた広島県シニア70合同チーム(中国1/広島)は第3戦、GKが一発退場となった後に追いつかれる苦しい展開ながらFC70室蘭(北海道)と引き分けた。この結果、第3戦で3-0と快勝した2位の埼玉シニア70(関東2/埼玉)を勝ち点1差でかわし、1次ラウンド首位突破を果たした。

グループEは兵庫県シニア70選抜(関西/兵庫)、グループGではCERO 70(関東1/東京)が、それぞれ3戦全勝で決勝ラウンド進出を決めた。どちらも全3試合を無失点で勝利するという、安定した戦いぶりだった。

首位争い以上に劇的な展開となったのが、各グループの2位チームによる決勝ラウンド(準決勝)最後の1枠の争奪戦。最終的には3チームが2勝1敗で並び、得失点差で秋田シニアサッカークラブ(東北/秋田)が他の2チームを上回った。一足先に第3戦を終えた静岡県選抜O-70(開催地/静岡)が得失点差4としており、秋田は1次ラウンド最後の1戦で4点差以上の勝利が必要となったが、その難しいノルマを見事に達成。澁谷正秀のハットトリックなどで5-0の勝利を収める。グループFの第3戦で得失点差を4に伸ばした埼玉もかわし、ワイルドカードを手に入れた。

準決勝はいずれも接戦となった。兵庫は秋田の守備に苦しんだが、28分の朝倉耕三のゴールで1-0の勝利。広島は前回大会準優勝のCEROに押し込まれるも、GK古田篤良のスーパーセーブなどでしのぎ、速攻からの1点で競り勝った。

兵庫と広島による決勝も拮抗した展開になった。兵庫は中盤からサイドへの展開で打開を図り、広島は堅守速攻でゴールを狙った。やや押される展開となった広島だが、11分に訪れたチャンスを逃さなかった。左からのクロスボールが兵庫のGKと最終ラインの間に送られると、走り込んだのは木村一成。頭で合わせて先制点を決めた。

この後、今大会初失点を喫した兵庫は攻勢を強めるが、広島も懸命の守りで得点を許さない。1-0で僅差の勝負をものにした広島が初の日本一に輝いた。高校時代の同級生と決勝で対戦した広島の植田祐自は、「決勝に進むため、毎週3時間の練習を積んできた。努力が実って感無量」と目標達成を喜んだ。



広島(オレンジ)は終盤、兵庫の猛攻を粘り強い守備でしのぎ、1-0で勝利。大会初優勝を飾った



1次ラウンド第3戦、秋田は澁谷(写真左)の3得点などで快勝し、決勝ラウンド行きを決めた



3連覇を狙った兵庫。優勝はならなかったが、決勝まで無失点で勝ち上がるなど安定した戦いを披露



技巧派ぞろいのCERO。攻撃的なサッカーで決勝ラウンド進出も、2大会連続での決勝進出はならず

# JFA 第25回全日本O-60サッカー大会



## 【大会概要】

5月23日から25日、静岡県藤枝市で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は40分(前・後半20分)。決勝ラウンドは勝敗が決しない場合、PK戦で勝者を決定する。



## 横須賀アズール60が 大会無失点で優勝を飾る！

1次ラウンドは各グループで最終節まで熱戦が繰り広げられた。グループAでは、首位を勝ち点3差で追う広島フォーティーズ(中国1/広島)が5-1と大勝。しかし、強豪の千葉四十雀サッカークラブ(関東1/千葉)も、前々回大会準優勝の静岡県選抜O-60(開催地/静岡)に0-0で引き分け、勝ち点1差で首位突破を決めた。

グループBでは3チームが突破の可能性を残して最終節に突入した。出場権をつかんだ2大会がコロナ禍の影響で中止となり、今回、念願の全国大会初挑戦となったKUMAMOTO肥後シニア(九州2/熊本)は、最終節で初勝利を挙げたが一歩及ばず。西宮シニアフットボールクラブ(関西1/兵庫)が、直接対決で逆転を狙う札幌60CERI烏(北海道)を2-1で退け、準決勝に進んだ。

グループCを抜け出したのは、2勝1分け無失点の横須賀アズール60(関東2/神奈川)。その横須賀アズールと第2節で引き分けた、2022年大会覇者の愛知セレクト60(東海/愛知)は、グループBの肥後シニア同様、1勝2分けで2位となり、大会を後にした。唯一3連勝を飾ったのが、グループDのFC60SHIGA(関西2/滋賀)だった。チーム設立3年目で4強入りを果たした。

準決勝でも激戦が続いた。西宮シニアと千葉四十雀の一戦はスコアレスの末、西宮シニアがPKで勝利して決勝に進んだ。横

須賀アズールとSHIGAの準決勝は後半、横須賀アズールが1次ラウンド無失点のSHIGAから決勝ゴールを挙げて1-0で勝利した。

西宮シニアと横須賀アズールとの顔合わせとなった決勝は、両チーム共にプレーの強度を落とさないよう前半から選手交代を駆使。横須賀アズールは、宮下真人主将が「うちの持ち味で生命線」と話すハイプレスで西宮シニアを追いつめるが、後半に入ると、西宮シニアもポジショニングや効果的なロングボールを活用して流れを取り戻す。横須賀アズールは縦へのスピードある攻撃を増やすと35分、縦パスからのクロスに走り込んだ大塚潤のシュートがゴール右隅に決まって先制。西宮シニアも反撃したが、横須賀アズールは無失点を貫き、全国大会の頂点にたどり着いた。宮下主将は「伊藤永司監督が立てたプラン通りに試合が進んでいたので安心感があった。失点しなければ必ずチャンスはあると信じて取り組んできた成果が出た」と喜びをかみしめた。



決勝でチームを勝利に導くゴールを決めた横須賀アズール60の大塚潤



初出場を果たしたKUMAMOTO肥後シニア(赤)はグループステージ無敗と健闘したが、あと一歩及ばず大会を後にした



千葉四十雀サッカークラブと西宮シニアフットボールクラブの準決勝は両者譲らずPK戦にもつれ込んだ



FC60SHIGAはグループステージを全勝で勝ち抜き、初の全国ベスト4入りとなった

# 「ウォーキングひろば」を全国へと 広げていく

日本サッカー協会（JFA）は「ウォーキングフットボール」の普及拡大を図ろうと、4月7日から「ウォーキングひろば」の全国展開をスタートさせた。5月10日にはJFA主催イベントとして「AFCグラスルーツフットボールデー2025～ JFAウォーキングフットボールフェスティバル」が千葉県の高円宮記念JFA夢フィールドで開催された。

## ウォーキングフットボールの普及を推進

2016年からJFAが普及をスタートさせた「ウォーキングフットボール」。その名の通り「歩いて行うフットボール」のことで、年齢や性別、障がいにかかわらず、誰もが楽しめるスポーツに位置付けられている。

ウォーキングフットボールはサッカーの母国イングランドが発祥と言われており、イングランドのウォーキングフットボール協会では競技規則を定め、大会やイベントを開催するなど、多くの人々に親しまれている。

今から10年前の15年、JFAの新部署として設置されたグラスルーツ推進部（現、47F.A・加盟団体・普及推進部）で当時部長を務めていた松田薫一は、イベントで障がい者



ウォーキングフットボールは「走ってはいけないフットボール」とも言われ、サッカー経験の有無や運動の得手不得手にかかわらず、老若男女が楽しめるスポーツ

と一緒に歩いてミニサッカーをやったことをきっかけに、イングランドのウォーキングフットボール競技規則を知り、そのルールをベースに活動を始めた。その後、「ボールを奪いに行かない」「ボールキープは6秒」「基本はセルフジャッジ」などの独自ルールを加えた「JFA推奨ルール」を発行した。松田は「そのままでどうしても競技志向に走ってしまったため、初心者の人も障がいがある人も、誰もが気軽に参加でき、みんなが楽しめるように変更した。ルールは設けているものの、それに縛られるのではなく、集まった人や場所に応じて自由にアレンジすることが大事と話す。

## 全国展開をスタート さらに身近な存在に

JFAでは、これまでウォーキングフットボールを体験できる場やシニア向けのフェスティバルを設けるほか、「ウォーキングフットボールコーディネーター講習会」を実施して体験会やイベント・大会などをコーディネートできる人材を養成してきた。普及を始めてから10年近くが経過し、松田は「仲間内だ

けで『ちよつとやってみよつか』と始めたものが、どんどん広がってきた。イベントや大会の実施、またクラブも立ち上がるなど、一つのスポーツとして定着しつつある」と手応えを

語る。

今年4月7日、JFAは「ウォーキングひろば」の全国展開をスタートさせ、認定団体の申請を受け付け、「ウォーキングひろば」は、より



JFAウォーキングフットボールフェスティバルには総勢226人が集まり、笑顔あふれる場となった

身近にウォーキングフットボールを楽しむことができる場のことで、JFAに認定された団体が主催し、講習会修了者が運営責任者となつて開催する。認定団体は申請受付開始から一カ月で50以上を超えており、今後も認定団体を増やしていくと同時に、行政や自治体、NPO法人、民間企業とも手を携え、全国へと広げていく。そして、「ウォーキングひろば」は認定団体と共に、5月10日に全国各地で一斉にイベントが実施された。

## 老若男女が集った 大盛況のフェスティバル

5月10日に高円宮記念JFA夢フィールドで開催された「AFCグラスルーツフットボールデー2025」JFAウォーキングフット



「みんなで笑い合えるような、とにかく楽しい場をたくさんつくっていききたい」とウォーキングひろばの将来像を松田は語る

トボールフェスティバル」は、アジアサッカー連盟(AFC)が推進する「AFCグラスルーツフットボールデー」(※)とのコラボレーション企画として行われ、「ペンギンズカップ幕張」と「ウォーキングひろば」の2つのプログラムが同時に実施された。

ペンギンズカップ幕張には、「コンペティション部門(世界大会ルール)とエンジョイ部門(JFA推奨ルール)を合わせて16チームが出場。それぞれのルールの下、各チームが3試合を戦った。一方の体験会のウォーキングひろばには、子どもから大人まで32人が参加し、チーム編成をシャッフルしながら、ウォーキングフットボールを満喫した。

ウォーキングひろばに参加した原幸代さんは「日頃の運動不足を痛感したけど、とても楽しかった。サッカーが初めてでもできるのだと分かった」とコメント。また、中村正弘さんは「歩いてできるのでスポーツとしても入りやすい。良い運動になるし、いろいろな人とコミュニケーションを取ることで豊かな人生を実感できる」と語った。

ペンギンズカップ幕張に出場するなど何度もウォーキングフットボールを楽しむ佐久間哲也さんは「歩くフットボールと聞いて最初は少し軽視していたけど、やってみたら結構大変でその魅力に取りつかれた。仲間もどんどん増えている」と話す。またそのメリットについて、初参加の林良子さんは「激しくぶつかることもなく、危なくない。幅広

い年齢層が集まってやれるのも良いところ」と言い、JFA技術部強化グループの杉山友朗も「げももなく、みんな楽しくプレーできるのが一番」と語った。

小中の息子3人と参加した太田裕康さんは「家族で参加できるのは大きな魅力」と話す。その父親の感想に、高校生の息子も「あまり家にいるのが少ない中で、家族の時間を増やせるのは良いこと」と同調。中学生の次兄が「走れない点で普通のサッカーとは少し違うけど、技術の差が出にくい」と話すと、小学生の弟は「みんなが手加減してくれるので楽しい」と笑顔を見せていた。

※AFCは毎年5月16日を「AFCグラスルーツフットボールデー」に定めており、AFC加盟連盟・協会と共に、グラスルーツフットボールの発展につながるイベントなどを実施

## ゲストに岡野雅行さん、 日本代表スタッフも参加

フェスティバルには、元日本代表の岡野雅行さんがゲストで参加した。ウォーキングひろばの参加者と共にプレーしたほか、サムライブルー(日本代表)の前田遼一コーチや下田崇GKコーチら日本代表スタッフで構成されたチームに加わり、ペンギンズカップ出場選手による選抜チームとのエキシビジョンマッチにも登場した。

岡野さんは、エキシビジョンマッチでゴールを決めた後、わざと走るパフォーマンスを見せて審判員の笛を誘うなど場を盛り上げる。ウォー



ウォーキングひろばにも参加した岡野さん。「ウォーキングフットボール自体が楽しいし、さまざまな人とコミュニケーションをとれるのも良い」と振り返った

キングひろばでも往年のゴールパフォーマンスを参加者と共有し、点が入った際、全員でパフォーマンスを披露した。フェスティバルを終え、「すごく楽しいし、相手がボールを取りに来ないから好きにプレーできて面白」と岡野さん。サッカーをやっていない人も女性も含め、みんな楽しんでくれるから良いね」とその印象を語った。

一方、サムライブルーの前田コーチは「ボールにたくさん触れられるし、その中で足元の技術も求められる。頭を使うから良いウォーキングアップになる」とコメント。下田GKコーチも「体がジーンと温まって、少し汗が出てくるような感じ。健康にも良いので、ス



和気あいあいとした雰囲気であんなにウォーキングフットボールを楽しんだ

### ウォーキングひろばの参加や運営について

[https://www.jfa.jp/grass\\_roots/walkingfootball/walkinghiroba/](https://www.jfa.jp/grass_roots/walkingfootball/walkinghiroba/)



ポーツとしても健康づくりとしても広がっていくばと期待を寄せた。フェスティバルを終え、松田は「多様な人たちが参加して全体的に楽しんでもらえたと思う」と振り返る。また今後に向けて、「やりたい人はずっと続けられるような環境を広げるとともに、誰でも参加できてゲームが楽しめる場をつくり、健康寿命の延伸や地域コミュニティの活性化など社会課題も解決しつつ、サッカー文化の発展にも貢献したい」と話す。

JFAでは「ウォーキングひろば」を全国の隅々へと広げ、身近でウォーキングフットボールができる場を創出していく。

# 読者プレゼント

応募締切：2025年7月14日(月)当日消印有効

## アディダス ジャパン(株) 提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「グラフィックブラックティスジャージー(Sサイズ、ブラック/ブルーパースト/プリズピンク)」を1名様にプレゼント。



## JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。今号では「サンリオ マスコットボールチェーン サッカー日本代表Ver.」全11種のうち2種を各2名様にプレゼントします(絵柄は選べません)。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE

## 「はじめよう!ウォーキングフットボール」(ベースボール・マガジン社)

日本サッカー協会監修の「はじめよう!ウォーキングフットボール」を5名様にプレゼントします(同書の詳細は60ページ参照)。



### プレゼント応募方法

#### ■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/nLmpUPjeRRFL2VXQ7>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



#### ■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル  
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部  
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2025年8月中旬から下旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

## JFA公式アプリ JFA Passport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼント情報を紹介

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>



【サッカークイズを毎月更新中】

6月のトピックス予定:

FIFAクラブワールドカップ

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国(女子編)

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中!

## JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



## JFAクラウドファンディング

つながれ、みんなの夢へ。

JFA CROWDFUNDING

～みんなの夢を応援しよう!

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



### <起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

### <支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

## 公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

# JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2025年7月情報号は、2025年7月16日発売予定

## [特集]日本フットサル、世界の頂を目指して(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

### ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

[https://req.qubo.jp/jfa\\_coach/form/entry](https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry)

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。



### チーム登録をされている購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>





サッカーのチカラで、  
日本中を笑顔に。



**KIRIN** キリンはサッカーを愛するすべての人を応援しています。

2024年11月SAMURAI BLUE招集メンバー/2024年10月なでしこジャパン招集メンバー/©



アスパズ!

定価600円(本体545円)